

実施計画（案）に対する県民意見（パブリックコメント）と検討結果

No.	実施計画（案）の該当項目（○◇・○行目）	意見の内容	検討結果
1	P5 （1）辺土名高等学校を名護高等学校の分校化	<p>【懸念事項】</p> <p>①文系を希望する生徒への対応</p> <p>②クラス減にともなう職員減により校務分掌が一層厳しくなる。</p> <p>③生徒寮の維持管理（職員の負担減のため土日の舎監が必要ではないか</p>	<p>分校化につきましては、時期を前期計画から中期計画へ変更します。その間名護高校の学科改編の推移を注視し、設置学科を検討したいと考えます。</p>
2	P5 （1）辺土名高等学校を名護高等学校の分校化	<p>（1）辺土名高校の儀式の際に行われる校訓斉唱「誠を以って己を持ち、愛を持って人に接し、勇を持って事にあたれ」は感動的です。そこには、現役生のみならず父母世代、祖父母世代の「辺土名高生」の声が誇りと連帯感と共に満ちあふれています。</p> <p>地域の文化や暮らしから離れた学校は中心となり得ず子どもたちに愛郷の念を抱かせるのが難しくなると思います。</p> <p>「辺土名高校」か「名護高校」かは単に名前の問題ではなく歴史と文化の問題であると思います。是非校名を残してもらいたいです。</p>	<p>高等学校は、生徒の多様なニーズを考慮し、時代の変化に対応しうる教育の方法を研究しながらより一層魅力と活力ある学校づくりを推進していく必要があると考えております。</p> <p>学校の再編統合により社会の変化や生徒の多様化に対応し、生徒の視点に立った学校づくりを念頭に置き、学校の活性化を高め地域の中学生及び保護者にとって、より一層魅力的な学校づくりを推進することが、重要であると考えております。</p> <p>分校化につきましては、時期を前期計画から中期計画へ変更します。</p> <p>校名については、実施計画策定後に「校名検討委員会」を発足させ、変更の有無も含めて議論することになります。</p>
3	P6 （2）名護高等学校に理数科設置	<p>【懸念事項】</p> <p>①辺土名高校の分校化のため、名護高校に理数科設置となったが、教員の配置や勤務形態はどうなるのか。</p> <p>【意見】学校は地域の核である</p>	<p>分校化につきましては、時期を前期計画から中期計画へ変更します。教員の配置につきましては、名護高等学校の学科改編後に検討されることとなります。</p>

		<p>教育庁は計画の基本方向で「学校は地域文化の拠点である」としているのに、実施計画では統廃合をいう。矛盾してはいないか？各地区の説明会では「高校がなくなると地域の過疎化が急激に進む」という保護者の声が多く上がった。学校がなくなると地区外の学校へ通うための通学費が増大し、ついには都市部に引っ越してしまう家族も出るだろう。そして人口が減少し地域の活力が失われてしまう。しかし「いい地位、いい大学、いい高校」の志向がある限り、また地元で就職できる雇用環境がそろっていない限り、過疎化の波を押しとどめることは困難であろう。学校・地域だけでなく、行政も含めて北部地区をどのように支え、発展させるかという視点が大事ではないか。</p>	<p>高等学校において、生徒は様々な考えを持った他者との出会いにより自我を確立する大切な時期であり、そのためには適正な学校規模が必要であると考えます。</p> <p>学校を統合し、一定規模以上にすることで専門性を有する教職員が確保でき、多様な教育活動が可能になることにより教育の活性化が図られるものと考えております。</p> <p>また、学校が活性化することにより、その地域の活性化につながるものと考えます。</p> <p>北部地区高等学校再編計画は、北部地区からの生徒の流出、名護市周辺地域の学校の流出を防ぐこと、北部地区の学力の向上を図ることを目的に策定しております。</p>
4	<p>P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕</p>	<p>総合選択制とすると、本当に船員を目指して授業を受ける生徒と興味本位で授業を受ける生徒がいることとなる。目的意識の違う生徒がいるとなると士気の低下や授業の進行に支障をきたすのではないかと考えます。</p>	<p>現海洋技術科に入学する生徒は、入試の時点でその科あるいはコースに受検することになりますので、目的意識のある生徒が入学するものと考えます。</p> <p>また、総合選択制は専門学科の特色や専門性は保持しながら、生徒の希望に応じて他学科の教科、科目を履修することができるシステムです。生徒が現海洋技術科の教科、科目のみの履修を希望すれば従来の教育課程と何ら変化はありません。</p> <p>さらに、学科やコースにより資格取得等必要に応じ在籍生徒に対して必履修科目等を設定すれば、その特色は損なわれるものではないと考えます。</p>
5	<p>P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕</p>	<p>沖縄水産高等学校は県内唯一の海技従事者の教育機関であり、将来の労働人口の減少が予想される中、技術を持った県出身者による海技従事者の確保・育成は極めて重要であるから、現在の体系を変更する必要はない。</p>	<p>県教育委員会としましては海洋県、島嶼県という本県の特色を踏まえ、海洋技術科の本県海運業界への人材育成等の役割を重要視しております。</p> <p>総合選択制は専門学科の特色や専門性は保持しながら、生徒の希望に応じて他学科の教科、科目を履修することができるシステムです。</p>

			生徒が現海洋技術科の教科、科目のみの履修を希望すれば従来の教育課程と何ら変化はありません。 さらに、学科やコースにより資格取得等必要に応じ在籍生徒に対して必履修科目等を設定すれば、その特色は損なわれるものではないと考えます。
6	P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕	私は沖縄出身ではありませんが、沖縄水産高校の学校名はよく知っており、歴史ある学校名をなくしてしまうのは沖縄県にとってもマイナスになると思うので、最悪少子化で統合はさけられなくても沖縄水産という名称は是非残してほしいと考えます。	校名については、実施計画策定後に「校名検討委員会」を発足させ、変更の有無も含めて議論することになります。 ご指摘の件も参考にして今後検討していきたいと考えます。
7	P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕	私達は現在沖縄水産高校海洋技術科に息子が在籍しております。去年12月に懇話会が開催されるという情報を学校より連絡がいつさもなく、教育委員会からも学校単位で説明会を開かないまま編成整備計画案が進んでいるのに驚いています。 今、沖縄水産は海に囲まれた島沖縄にとって大切な教育だと考え、海洋科に入学させました。 歴史ある学校名も高校野球優勝やバドミントン、カヌーなどで県外にもよく知られているので南部総合実業高校になるのは“絶対反対”です。 それと、海洋技術科の先生方や専攻科の先生方の努力で卒業後の就職率も年々アップ、沖縄水産の名前、海洋技術科は是非現状維持でお願いします。 これから先も沖縄県の海洋を守る為、沖縄の子ども達を沖縄県で育成していくべきだと考えます。	12月24日に真和志高校で地域説明・意見交換会を実施した際には、学校や関係機関に文書によりPTA等にも周知するよう依頼をしております。当日は沖縄水産高校の職員をはじめ、同窓会の皆様の多数の出席を頂き、貴重なご意見を頂いております。 県教育委員会としましては海洋県、島嶼県という本県の特色を踏まえ、海洋技術科の本県海運業界への人材育成等の役割を重要視しております。 また、100年余の歴史のある学校として県内は元より県外での知名度や、部活動の活躍等についても特筆すべき学校であると考えております。 校名については、実施計画策定後に「校名検討委員会」を発足させ、変更の有無も含めて議論することになります。 ご指摘の件も参考にして今後検討していきたいと考えます。
8	P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南	総合選択制とする事で海技従事者としての学力、技術力の維持ができるのか疑問が残る。	総合選択制は専門学科の特色や専門性は保持しながら、生徒の希望に応じて他学科の教科、科目を履修することができるシステムです。

	部総合実業高等学校（仮称）]		生徒が現海洋技術科の教科、科目のみの履修を希望すれば従来の教育課程と何ら変化はありません。 さらに、学科やコースにより資格取得等必要に応じ在籍生徒に対して必履修科目等を設定すれば、その特色は損なわれるものではないと考えます。
9	P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）]	沖縄の海運及び漁業従事者の育成には必要不可欠だと思うので統合してほしい。仮に統合しても海技関係の専門学科として残してほしい。水産高校側にも海技従事者、漁業関係者の仕事の内容紹介や魅力など、これからの学生にももっとアピールしてもらいたい。	学校が統合しても、専門学科の専門性や特色が損なわれるものではなく、海技関係のカリキュラムは何ら変化はありません。 学校は中学生への学校説明会や、中学校へ出向いての学校説明を行い、その特色をアピールしております。学校が発展するためには、このような地道な活動が必要不可欠だと考えます。
10	P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）]	沖水は県内唯一の海技者育成機関ですからそのままの体制で残してほしいと思います。 仮に統合し総合選択制にすることで海技従事者としての学力、技術力の維持ができるか不安です。	総合選択制は専門学科の特色や専門性は保持しながら、生徒の希望に応じて他学科の教科、科目を履修することができるシステムです。 生徒が現海洋技術科の教科、科目のみの履修を希望すれば従来の教育課程と何ら変化はありません。 さらに、学科やコースにより資格取得等必要に応じ在籍生徒に対して必履修科目等を設定すれば、その特色は損なわれるものではないと考えます。
11	P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）]	【効果】について (1)小生は長年船舶のエンジニアとして洋上で機関の運転にたずさわってきた者であるが、船舶の機関と陸上サイドのエンジンは異なっていると感じております。海上における安全思想も異なります。海洋で働く者は思想的に安全に対する感覚が異なるので、機関士として心構えも異なるのです。陸の思想ではシーマンにはなれないと思います。 (2)総合選択制と言葉が走っていますが、海洋を目指す者はひたすら海洋	【効果】(1)は削除させていただきます。 総合選択制は専門学科の特色や専門性は保持しながら、生徒の希望に応じて他学科の教科、科目を履修することができるシステムです。 学科やコースにより資格取得等必要に応じ在籍生徒に対して必履修科目等を設定すれば、その特色は損なわれるものではないと考えます。 したがって、懸念されている現海洋技術科の船長コースと機関

	<p>の「ワク」の中から選択を行います。陸か船かで選ぶものではありません。要するに船長になるか機関長になるかどうかなのです。</p> <p>(3) 四面を海に囲まれた沖縄の水産高校には独自の専門性が求められており、多くの船乗りが育ってきました。近年漁業の危機が取りざたされていますが、今後水産高校をより発展させていく方が県内の教育の効果また経済面にもプラスになると思っています。他校との統合はやめて！</p>	<p>長コースの機能については学校統合後も何ら変化はありません。</p> <p>学校統合に関しましては、南部地区の少子化への対応と南部工業高校の小規模化の解消が喫緊の課題となっており、早急な対応が必要になります。</p> <p>総合選択性導入に伴いまして、現海洋技術科の船長コース、機関長コースの機能はそのままに、さらに現総合学科の水産系系列も水産に関する学科へ移行し、その専門性を確保しますので県の水産業への寄与は今まで以上に高まるものと考えます。</p>
<p>12 P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕</p>	<p>1. 沖縄水産高校はブランドである 沖縄水産高校は明治36年、旧糸満村に水産補習学校として産声を上げて以来、戦前戦中戦後を幾多の苦難を乗り越え、一貫として水産人育成校として多くの有為な人材を輩出し、やがて110周年を迎える。</p> <p>甲子園2年連続準優勝の功績は、県外企業の方々の中では、未だ記憶に強く残っており、生徒の就職において大きく貢献していることから伝統ある校名を変更することは断じて反対である。</p> <p>2. 審議不十分 南部工業高校と南部農林高校統合案を進め、反対運動で廃案になったために、南部工業高校の水産高校への統合や、それに伴う学科改編に関して十分な議論がなされておらず、突如11月に実施計画（素案）に盛り込まれているのはおかしいのではないのでしょうか。</p> <p>3. 不公平な懇話会メンバーの人选 編成整備計画の懇話会委員のメンバーに各関係団体（水産・海運産業・工業・農林）代表有識者が選任されておらず、不公平ではないでしょうか。</p> <p>4. 地域説明会内容に嘘の記載説明 平成23年12月24日に開かれた、那覇南部地域に対する教育長説明会にて実施計画（素案）の策定経緯の中で、「各地域、関係機関団体、校長とのヒヤリングを実施した」と説明があったが、関係機関団体とのヒヤリング</p>	<p>100年余の歴史のある学校として県内は元より県外での知名度や、部活動の活躍等についても特筆すべき学校であると考えております。</p> <p>校名については、実施計画策定後に「校名検討委員会」を発足させ、変更の有無も含めて議論することになります。</p> <p>ご指摘の件も参考にして今後検討していきたいと考えます。</p> <p>学校統合に関しましては、南部地区の少子化への対応と南部工業高校の小規模化の解消が喫緊の課題となっており、早急な対応が必要になります。</p> <p>その現状を踏まえ、庁内においては、基本方向決定後ワーキングチーム会議、委員会の会議を経て（素案）を作成しました。</p> <p>また（素案）については、県立高等学校編成整備に関する懇話会を開催し、それと平行して各地域での説明・意見交換会を実施しご意見を頂戴しております。</p> <p>「県立高等学校編成整備に関する懇話会」は、中・高校長会代表者、保護者代表者（PTA）、市町村の教育委員会代表者、経済界代表者、学識経験者など計8名で構成されており、各界から公正で幅広い意見を頂いております。</p>

は実施されておらず「嘘」の記載説明があった。また、学校内では会議での議論もなく、またPTAや同窓会への意見も聴取することなく、学校長とのヒヤリングのみを素案に反映させていることは開かれた学校、民主的といえるのでしょうか

5. 県民への公開不十分

懇話会の開催や傍聴要領などホームページ掲載のみで行うのは広く県民や関係団体に対して「公開」していると言えるのでしょうか。

6. 「海洋技術科」は沖水の看板

「海洋技術科」は18年目を迎え、「船のスペシャリスト」を育成する学科として「看板」となっている。昨年、沖縄県高等学校入試志願倍率0.94倍にあって、1.65倍と県内で3番目に人気高い学科となった。同学科からさらに上の専攻科へ進学できるシステムとなっており、専攻科は7年連続就職内定率100%、後継者育成率（船員育成率）100%、過去3カ年定着率95%と実績をあげ県内外の水産海運会社から高い評価を受けている。

他の専門高校で実際にその道に進んでいる生徒は何パーセントいるのか。出口先企業のニーズは、専門高校に対して即戦力つまり、スペシャリスト育成を教育現場に望んでおり、「総合選択性」の「広く浅く」学ぶシステムは望んでいない。

基本方向に向け実施したアンケート対象者を業界に行わなかったのはなぜか。「出口あつての専門高校」という意義を忘れてはいないでしょうか。

ご指摘のとおり、沖縄水産高校に関連する関係機関団体へのヒアリングは実施しておりません。

関係機関団体としましては、各教育事務所単位で実施される地区協議会での各界からのヒアリング、関係する市町村教育委員会、PTA、同窓会、保護者等のヒアリングを想定して実施しております。

学校長へのヒアリングについては、学校の代表として学校経営の面から学校や本県の教育課題、さらに課題解決への意見を聞くことは重要なことだと考えます。

教職員やPTA、同窓会等からの意見聞き取りについては、（素案）（案）策定後に各地域説明・意見交換会や必要に応じて該当校へ出向き意見交換を実施しております。

県教育委員会としましては海洋県、島嶼県という本県の特色を踏まえ、海洋技術科の本県海運業界への人材育成等の役割を重要視しております。

総合選択制は専門学科の特色や専門性は保持しながら、生徒の希望に応じて他学科の教科、科目を履修することができるシステムです。生徒が現海洋技術科の教科、科目のみの履修を希望すれば従来の教育課程と何ら変化はありません。

さらに、学科やコースにより資格取得等必要に応じ在籍生徒に対して必修科目等を設定すれば、その特色は損なわれるものではないと考えます。

13 P7
南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕

水産、工業、商業の実業高校の中において、同実業高校の合併であれば納得もある。

唯一の水産高校を工業高校と一緒にする沖縄県教育庁の構想がわからない。

海洋に囲まれている日本の将来のことを考えると専門分野においての水産を担う若者の為にも水産高校名は残すべきであります。

学校統合に関しましては、南部地区の少子化への対応と南部工業高校の小規模化の解消が喫緊の課題となっており、早急な対応が必要になります。

総合選択制は専門学科の特色や専門性は保持しながら、生徒の希望に応じて他学科の教科、科目を履修することができるシステムです。

さらに今回の改編では、総合学科の水産に関する系列を水産に関する

			<p>る学科に組み込むこととなりますので専門性はさらに向上することとなります。</p> <p>学校名については、実施計画策定後に「校名検討委員会」を発足させ、変更の有無も含めて議論することとなります。ご指摘の件も参考にして今後検討していきたいと考えます。</p>
14	<p>P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕</p>	<p>内航タンカーを3隻所有している船会社です。現在6名の沖水の卒業者が在籍しております。</p> <p>H20.3卒 本科航海1名 6級航海 現在広島にて5級取得の為講習中</p> <p>H22.3卒 専攻科航海1名 3級航海 現在二等航海士 専攻科機関1名 3級機関 現在一等機関士</p> <p>H23.3卒 専攻科航海1名 3級航海 現在次席二等航海士</p> <p>その他、他社のタンカー船からの移籍</p> <p>H20.3卒 本科航海1名 5級航海 今夏3級受講予定</p> <p>H17.3卒 本科航海1名 5級航海 現在甲板長</p> <p>沖水の生徒は素朴でまじめ、かつ忍耐強く上職をめざして日々頑張っております。今のところ定着率100% (6/6)です。</p> <p>内地の学校からも乗船しましたが挫折するパターンが多いです。卒業後も学校を訪ね、先生と船での話が出来る環境がこの様な生徒を送り出しているのではと思います。</p> <p>私は商船ではなく高専（機械科）を卒業し、エンジンメーカーに勤め田舎に帰って現在に至るのですが、水産系と工業系では生徒の求める進路（やりたいこと）も全く異なります。</p> <p>高専から船に乗る進路を進む位なら、初めから商船へ行くはずです。</p> <p>船の場合、一般の人が海技免状を取得するには3年間の履歴が必要であり、本人は“下働き”で会社は余分に人を乗せる形になり大変な労力と時間とお金が必要です。</p> <p>今後も現在在籍中の6名の様な船員を送り出すには、現在の沖縄水産本科+専攻科が必要と思います。当社（同業者含む）では、毎年1~2名の就</p>	<p>総合選択制は専門学科の特色や専門性は保持しながら、生徒の希望に応じて他学科の教科、科目を履修することができるシステムです。学科やコースにより資格取得等必要に応じ在籍生徒に対して必修科目等を設定すれば、その特色は損なわれるものではないと考えます。</p> <p>したがいまして、懸念されている現海洋技術科の船長コースと機関長コースの機能については学校統合後も何ら変化はありません。</p>

		職先があります。	
15	<p>P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕</p>	<p>●沖縄水産高校の校名及び海洋技術科の存続を要望する。 沖縄県も島国であり、船員の需要が重要になってくると思います。 その中で沖縄水産のような水産高校は重要な船員育成学校としても海運業界での船長を目指し乗船し、実績を残している。 就職先も県内に限らず県外も定着し、沖縄水産と言うブランド名にもなっており、新卒者を雇用する企業が増えてきている。 中小企業は現場での即戦力を求めており、それに対応していただけるのが沖縄水産と理解しています。従って沖縄水産高校の校名及び海洋技術科の存続を強く要望する。</p>	<p>県教育委員会としましては海洋県、島嶼県という本県の特徴を踏まえ、海洋技術科の本県海運業界への人材育成等の役割を重要視しております。 100年余の歴史のある学校として県内は元より県外での知名度や、部活動の活躍等についても特筆すべき学校であると考えております。 校名については、実施計画策定後に「校名検討委員会」を発足させ、変更の有無も含めて議論することになります。 ご指摘の件も参考にして今後検討していきたいと考えます。 総合選択制は専門学科の特色や専門性は保持しながら、生徒の希望に応じて他学科の教科、科目を履修することができるシステムです。生徒が現海洋技術科の教科、科目のみの履修を希望すれば従来の教育課程と何ら変化はありません。</p>
16	<p>P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕</p>	<p>○「沖縄水産高校」と他の高校が合併するのを、僕は反対します。 その理由は、沖縄水産を卒業していったOBが日本全国にいて、水産業、海運業、船舶関係など、日本や沖縄県に貢献しているからです。 ○学校は残るにしても、名前が変わってしまうと、今までの実績と長い間沖縄県民から慕われた「沖水」というブランド化された名前が消えるのがとても悔しいです。 ○海に囲まれた沖縄県ですが、これから先の事を考えますと、合併せず「沖水」という学校で海の事、船の事、漁業の事、他の学校では学べない事を未来の高校生に学んでほしいです。 ○レベルの向上を図るにも合併はしないほうが学校の技術向上にもなると思います。県内で最も伝統のある高校だと思います。</p>	<p>学校統合に関しましては、南部地区の少子化への対応と南部工業高校の小規模化の解消が喫緊の課題となっており、早急な対応が必要になります。 100年余の歴史のある学校として県内は元より県外での知名度や、部活動の活躍等についても特筆すべき学校であると考えております。 学校名については、実施計画策定後に「校名検討委員会」を発足させ、変更の有無も含めて議論することになります。ご指摘の件も参考にして今後検討していきたいと考えます。 総合選択制は専門学科の特色や専門性は保持しながら、生徒の希望に応じて他学科の教科、科目を履修することができるシステムです。 さらに今回の改編では、総合学科の水産に関する系列を水産に関する学科に組み込むこととなりますので専門性はさらに向上することとなります。</p>

17	<p>P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕</p>	<p>1. 「沖縄水産高校」校名の存続を要望する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県の高校の中で一番有名な校名だと思います。 ・伝統ある校名を変更することは、断じて反対です。 ・在校生徒や卒業生は「沖縄水産高校」という校名に誇りを持っています。 <p>2. 「海洋技術科」の存続を要望する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海洋技術科は、沖縄水産高校の学科の中で一番実績を残し、沖縄水産高校の「看板」となっていると思います。 ・「総合選択制」の「広く浅く」学ぶシステムは望んでいません。 ・自分は海洋技術科を卒業しましたが誇りを持っています。 ・海洋技術科で学んだことは、就職先でも役にたっています。 	<p>100年余の歴史のある学校として県内は元より県外での知名度や、部活動の活躍等についても特筆すべき学校であると考えております。</p> <p>学校名については、実施計画策定後に「校名検討委員会」を発足させ、変更の有無も含めて議論することになります。ご指摘の件も参考に今後検討していきたいと考えます。</p> <p>総合選択制は専門学科の特色や専門性は保持しながら、生徒の希望に応じて他学科の教科、科目を履修することができるシステムです。生徒が現海洋技術科の教科、科目のみの履修を希望すれば従来の教育課程と何ら変化はありません。</p>
18	<p>P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕</p>	<p>○全国でも珍しく県内に2校あった水産高校の一つである翔南高校（旧宮古水産）も近年合併し「宮古総合実業高校」となっていました。2校卒業（翔南高校で本科、沖縄水産で専攻科）という人もたくさんいます。</p> <p>自分の卒業校2校の名前がなくなるのは悲しく、とても残念です。</p> <p>○沖縄水産専攻科は全国でも<u>トップクラス</u>です。</p> <p>今この瞬間も沖縄水産で学んだ事を最大限に活用し、たくさんのOBが日本の海運業を担っています。</p> <p>○合併による校名変更、「広く浅く学ぶ」事に対して断じて反対します。</p> <p>○まわりを海に囲まれている沖縄に「水産高校」がないのはおかしい！</p>	<p>100年余の歴史のある学校として県内は元より県外での知名度や、部活動の活躍等についても特筆すべき学校であると考えております。</p> <p>学校名については、実施計画策定後に「校名検討委員会」を発足させ、変更の有無も含めて議論することになります。ご指摘の件も参考に今後検討していきたいと考えます。</p> <p>総合選択制は専門学科の特色や専門性は保持しながら、生徒の希望に応じて他学科の教科、科目を履修することができるシステムです。生徒が現海洋技術科の教科、科目のみの履修を希望すれば従来の教育課程と何ら変化はありません。</p>
19	<p>P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕</p>	<p>1. 沖縄県は、周囲を海に囲まれている島なのに水産高校という校名が無くなるのは可笑しいと思ひ又、母校で伝統のある校名を変更するのは「断固反対」である。</p>	<p>100年余の歴史のある学校として県内は元より県外での知名度や、部活動の活躍等についても特筆すべき学校であると考えております。</p> <p>学校名については、実施計画策定後に「校名検討委員会」を発足させ、変更の有無も含めて議論することになります。ご指摘の件も参考に今後検討していきたいと考えます。</p>

	称)]	<p>2. 総合選択制の導入で専門学力、技術力の低下を招き、OB達が築き上げてきた県内外の水産・海運会社からの高い評価を無くすので総合選択制の導入も「反対」です。</p>	<p>せ、変更の有無も含めて議論することになります。ご指摘の件も参考にして今後検討していきたいと考えます。</p> <p>総合選択制は専門学科の特色や専門性は保持しながら、生徒の希望に応じて他学科の教科、科目を履修することができるシステムです。生徒が現海洋技術科の教科、科目のみの履修を希望すれば従来の教育課程と何ら変化はありません。</p>
20	<p>P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕</p>	<p>1. 「沖縄水産高校」校名の存続を要望する。 在校生や卒業生は、沖水（校名）に誇りを持っている。</p> <p>2. 海洋技術科の存続を要望する。 就職先のニーズは専門高校に対して即戦力つまり、スペシャリスト育成を教育現場に望んでおり「総合選択制」の「広く浅く」学ぶシステムは望んでない。 在校生や卒業生は、海洋技術科に誇りを持っている。 強く反対を望みます。</p>	<p>100年余の歴史のある学校として県内は元より県外での知名度や、部活動の活躍等についても特筆すべき学校であると考えております。</p> <p>学校名については、実施計画策定後に「校名検討委員会」を発足させ、変更の有無も含めて議論することになります。ご指摘の件も参考にして今後検討していきたいと考えます。</p> <p>総合選択制は専門学科の特色や専門性は保持しながら、生徒の希望に応じて他学科の教科、科目を履修することができるシステムです。生徒が現海洋技術科の教科、科目のみの履修を希望すれば従来の教育課程と何ら変化はありません。</p>
21	<p>P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕</p>	<p>沖縄水産高校の名称存続について 高卒の就職率が高い海洋技術科を存続させることは、沖縄の高校生の就職にとってプラスになる事は十分承知であり、本土企業にも名前の知れている「沖縄水産」というブランド名を失くすことは、非常にもったいないと糸満市民として思うところがあります。 これからの若者に夢を与える沖縄水産であることを願います。</p>	<p>100年余の歴史のある学校として県内は元より県外での知名度や、部活動の活躍等についても特筆すべき学校であると考えております。</p> <p>校名については、実施計画策定後に「校名検討委員会」を発足させ、変更の有無も含めて議論することになります。 ご指摘の件も参考にして今後検討していきたいと考えます。</p>
22	<p>P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮</p>	<p>1/28日に沖縄水産高等学校で行われた説明会に参加しました。 県教育委員会は12月24日に真和志高校で行われた説明会で、沖縄水産高校の保護者の参加を確認されているでしょうか。</p>	<p>県教育委員会から学校へ送付した文書は、各学校PTA会長宛となっており、さらに会員への周知も図ることを明記しております。 パブリックコメントの期間については、今後の編成整備策定スケジ</p>

称)]

沖縄水産高等学校PTAでは毎月定例会を行い、学校に届いている公文を確認していますが、12月24日に行われた説明会の公文をPTAでは確認しておりません。他の公文は私たちの手元に届くのに、この件に関する公文だけはPTA会長あてになっているにも関わらず、一切届いておりません。

意図的に知らされないようになっているとしか思えません。

現在在籍している生徒や保護者には関係ない、説明が必要なのは27年度以降に入学してくる生徒や保護者に対してのみ説明が必要という教頭先生の説明がありました。

本当に今在籍している生徒の保護者には関係ないことと県教育委員会もそのようにお考えでしょうか。

県教育委員会ではパブリックコメントを募集していますが、私たち保護者の意見を述べる場所はもうここしかないのです。せめて期間を1年間延長し、保護者である私たちの意見も拾い上げていただきたいです。

1/28の県教育委員会の説明では予定通り2/13に打ち切るとありましたが、沖縄水産高校PTAに対し、またPTA会長に対し、意図的に知らされないようになっている以上、私たちにはパブリックコメントで保護者の考えを訴えていくしか方法がないと考えています。

私個人としては統合に賛成ではありますが、それには条件があります。

1. 今ある専攻科をなくさないこと
2. 海洋科を総合選択性にしないこと
3. 生徒指導にあたる先生を倍に増やすこと
4. 各コースの設置については現場の先生方と話し合い進めること
5. 学校名を沖縄水産高等学校のままにすること

以上の5つです。

現在の沖縄水産高校の生徒たちに一番近いのは教師や保護者であります。この数年、就職率や進学率の上昇は現場の先生の熱意と努力の賜物です。

特に生徒指導にあたる先生方は、生徒指導に大幅に時間を取られ、授業もままならない状況であります。そんな中でも生徒を叱咤激励し、何とか

ユールの関係上このような日程とさせていただいております。期間を1年間延長することは策定も同期間延期することとなり、編成整備計画全体への影響も甚大になります。

従いまして、パブリックコメントの期間は計画どおり1ヶ月間とさせていただきます。

編成整備実施計画(案)において、専攻科については取り上げておりません。

総合選択制は専門学科の特色や専門性は保持しながら、生徒の希望に応じて他学科の教科、科目を履修することができるシステムです。生徒が現海洋技術科の教科、科目のみの履修を希望すれば従来の教育課程と何ら変化はありません。

学科やコースにより必要に応じ在籍生徒に対して必履修科目等を設定すれば、その特色は損なわれるものではないと考えます。

学校内の全校務分掌や係の人数は、学校において決定されるものです。統合した場合は職員定数は増となります。

校名については、実施計画策定後に「校名検討委員会」を発足させ、変更の有無も含めて議論することになります。

ご指摘の件も参考にして今後検討していきたいと考えます。

学校統合に関しましては、南部地区の少子化への対応と南部工業高校の小規模化の解消が喫緊の課題となっており、早急な対応が必要になります。

高校受検の際の志望校決定等に対するご意見につきましては、そのようなことがあってはならないことと考えております。

中学校の進路指導においては、生徒が自らの生き方を考え、将来に対する目的意識を持ち、自分の意思と責任で進路を選択決定できる能力・態度を身につけることができるよう、発達の段階に応じた指導を行っております。

各中学校においては、生徒の個性を伸長することを重視し、生徒、保護者、教師の三者面談等を実施するなど、本人の意思や希望で進路選択するよう指導しているところであります。

卒業させようと必死です。評議員の保護者は別として殆どの保護者が自分の子どもを学校に任せっきりで、学校にきたこともない、自分の子どもの教室も担任も分からないという保護者が多い中、保護者の協力もなかなか得られない状況で先生方が生徒の指導、進路決定、資格取得へのバックアップなどに大変尽力されています。

PTA総会などは悲慘な状況です。役員と教師のみの総会になっており、50名にも満たない中で毎年行われています。そんな状況にも関わらず、先生方が協力し合い、子ども達に向き合い、就職率や進学率を伸ばしてきているのです。就職に関して言えば、同窓会の皆様、OBの皆様の協力もあり、高い就職率をキープできているのです。また沖縄水産高校という校名がブランドとして確立されていることもあり、企業から信頼され生徒の就職に有利に働いていることも事実です。

今回の統廃合はその先生方が積み上げてきた努力に逆行するものであってはならないはずです。

それからもうひとつ県教育委員会に対してお願いがあります。県内の中学校教師に対して、今一度指導していただきたいです。

これは私たち保護者にはよく知られた話ですが、受験する高校を決める際に、「なぜ沖縄水産高校なのか、普通科の高校へ行けるのに。」「水産高校は学力のない生徒、品行方正の良くない生徒が多いので、普通科への受験を進めます。」とよく言われます。要するに沖縄水産高校は頭の悪い、不良の生徒が行くところと言われているのです。学校や子どもに関心のない保護者が悪いにも関わらず、そのような言われ方をしています。私の長女は那覇西高校にいましたが、保護者の質の違いは肌で感じています。

息子も始めは友達が普通科へ行くので自分もと普通科への進学を希望していましたが、大学へ行く気がないのなら、資格取得に力を入れている高校へと思い、インターネットで県内の高校を調べ、沖縄水産高校への受験を進めました。今では水産高校へ進学して本当に良かったと本人も言っています。資格取得に挑戦し、夜遅くまで先生の指導を受け、無線の資格を取得することができました。彼はこの春、専攻科へ進み、将来やりたい仕

今後とも一人一人が、自分の夢実現にむけて「なりたい自分」と「なれる自分」を意識して学業に取り組んでいけるよう、進路指導の充実に努めてまいりたいと思います。

事まで見つけることができたのです。沖縄水産高校は生徒に向き合う先生が多く、生徒も自分の進む方向を見つけていることができるのです。このような学校はそれほど多くありません。

中学校の先生方はそのようなことは一切知りませんし、調べようともしません。また水産高校の先生や生徒、保護者を呼んで話を聞くということもあまりしません。沖縄水産高校への受験者が少ないのは、中学校の教師による指導もかなり影響されていると思われます。

県教育委員会からぜひ注意を呼びかけていただきたいと思います。県教育委員会は今回の統廃合について、学校長と県教育委員会だけで素案を進めるやり方を見直し、広く意見を求める話し合いの場を設け、エキスパートを育てるための学校作りを進めていただきたいと切に願います。

23

P7

南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕

1. 「沖縄水産高校」校名の存続を希望いたします。
 - 近年では、カヌーやカッター、ボクシングなどスポーツ等における功績があるなど、生徒の就職に大きく貢献していることから、伝統ある校名を変更することには反対いたします。
 - 在校生、伊是名村沖水父母会は校名に誇りを持っています。
2. 「海洋技術科」の存続を要望します。
 - 沖縄水産は、県内唯一海洋技術科「船舶技術者」育成校であり、船のスペシャリストを育てる学科としての実績があることや、海洋技術科と専攻科で一貫教育を行うことで国家資格（5級・3級海技士）取得することの出来る学科だからです。
 - 同学科は、県内においても入試志願率も高く人気のある学科であり、さらに専攻科は7年連続就職内定率100%と県内外の水産・海運会社から高い評価を受けていると伺っており、この不景気の中高い就職率を誇っていることは離島出身の生徒を持つ親からすると大変魅力のある学科だからです。
 - 就職先から専門高校に対して即戦力になる人材を教育現場に望んでおり、「総合選択制」の「広く浅く」学ぶシステムは望んではないと聞い

100年余の歴史のある学校として県内は元より県外での知名度や、部活動の活躍等についても特筆すべき学校であると考えております。

校名については、実施計画策定後に「校名検討委員会」を発足させ、変更の有無も含めて議論することになります。

ご指摘の件も参考にして今後検討していきたいと考えます。

総合選択制は専門学科の特色や専門性は保持しながら、生徒の希望に応じて他学科の教科、科目を履修することができるシステムです。生徒が現海洋技術科の教科、科目のみの履修を希望すれば従来の教育課程と何ら変化はありません。

学科やコースにより必要に応じ在籍生徒に対して必履修科目等を設定すれば、その特色は損なわれるものではないと考えます。

したがって、懸念されている現海洋技術科の船長コースと機関長コースの機能については学校統合後も何ら変化はありません。

学校統合に関しましては、南部地区の少子化への対応と南部工業高校の小規模化の解消が喫緊の課題となっており、早急な対応が必要になります。南部商業や南部農林との統合案は敷地面積等総合的に判断して厳しいと考えました。

		<p>ております。</p> <p>又、学校の参観時など同学科の礼式の良さは、他校・他学科には無い規律が感じられ船舶職員を目指す者の意気込みを感じます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 県内離島航路においても人材不足が懸念されることからさらなる人材創出していくためにも同学科の存続を希望します。 ● 南部工業は、立地及び通学圏からすると南部商業・南部農林との統合を検討すべきではないでしょうか。 	
24	<p>P7</p> <p>南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「沖縄水産高校」校名の存続を希望いたします。 <ul style="list-style-type: none"> ● 甲子園2年連続準優勝やカヌーやカッター、ボクシングなどスポーツ等における功績があるなど、生徒の就職に大きく貢献していることから、伝統ある校名を変更することには反対いたします。 ● 私共、伊是名村沖水OB会は校名に誇りを持っています。 2. 「海洋技術科」の存続を要望します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 沖縄水産は、県内唯一海洋技術科「船舶技術者」育成校であり、船のスペシャリストを育てる学科としての実績があることや、海洋技術科と専攻科で一貫教育を行うことで国家資格（5級・3級海技士）を取得することの出来る学科だからです。 ● 同学科は、県内においても入試志願率も高く人気のある学科であり、さらに専攻科は7年連続就職内定率100%と県内外の水産・海運会社から高い評価を受けている。 ● 就職先から専門高校に対して即戦力になる人材を教育現場に望んでおり、「総合選択制」の「広く浅く」学ぶシステムは望んでいません。 ● 団塊世代等の定年による人材不足が懸念されることからさらなる人材創出していくためにも同学科の存続を希望します。 ● 南部工業は、立地及び通学圏からすると南部商業・南部農林との統合を検討すべきではないでしょうか。 	<p>100年余の歴史のある学校として県内は元より県外での知名度や、部活動の活躍等についても特筆すべき学校であると考えております。</p> <p>校名については、実施計画策定後に「校名検討委員会」を発足させ、変更の有無も含めて議論することになります。</p> <p>ご指摘の件も参考にして今後検討していきたいと考えます。</p> <p>総合選択制は専門学科の特色や専門性は保持しながら、生徒の希望に応じて他学科の教科、科目を履修することができるシステムです。生徒が現海洋技術科の教科、科目のみの履修を希望すれば従来の教育課程と何ら変化はありません。</p> <p>学科やコースにより必要に応じ在籍生徒に対して必修科目等を設定すれば、その特色は損なわれるものではないと考えます。</p> <p>したがって、懸念されている現海洋技術科の船長コースと機関長コースの機能については学校統合後も何ら変化はありません。</p> <p>学校統合に関しましては、南部地区の少子化への対応と南部工業高校の小規模化の解消が喫緊の課題となっており、早急な対応が必要になります。南部商業と南部農林との統合案は敷地面積等の課題により厳しいと判断しました。</p>
25	P7	<p>< 嘆 願 ></p>	

南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕

●統合に反対します！

- 1月30日の南部工業における説明会でも反対意見でした。地域を敵に回す様な統合は本校にとってもマイナスではないでしょうか。
- 統合して定員を満たすという理想だけで、アンケート調査も実施せず、強行しようとするのは反対です。南部工業から提案のあった併設校が良いのではないのでしょうか。
- 説明会でも指摘したしっかりとしたデータに基づいた説明や幅広くヒヤリングを実施していない事が反発を招いているという事に気付くべきではないのでしょうか。
- たとえ統合できたとしても新たに税金を注ぎ込んで校舎を造ること自体税金の無駄ではないのでしょうか。統合後も定数を満たすという確証はないし、10年後はもっと困難になるのではないのでしょうか。その責任は誰が取るのでしょうか。現場の職員ですか。

●「沖縄水産高校」校名変更断固反対！

- 当時、宮古総合実業高校（仮称）が実際の校名に変えられたことで、海洋科学科の職員がどれだけ苦勞しているか調査しましたか。昨年まで宮古にいた職員は校名変更による海洋科学科の衰退を目の当たりにして反省しています。校名も海洋技術科もネームバリューがあるのです。

●海洋技術科を単科で存続させ、総合選択制にしない！

- 総合選択性は聞こえは良いですが、出口のニーズではありません。出口がなければ、生徒は集まりません。専攻科を立て直したので断言します。校長はコースにするという提案で現状維持だと言っていました。学科がコースになる事は縮小だと思いませんか。職員の数、実習助手の数、予算の削減を検討しての編成ですか。
- 海洋資源豊かな沖縄、国境を抱える沖縄、もっと国際的な観点に立って考えるべきではないのでしょうか。国は国家の危機として若年船員確保に向け補助事業を実施しています。
- 我々海洋技術科の職員は、今後さらに定数を増やし専攻科の定員を増やしていこうと考えています。それは最前線で企業開拓をし、数値を残しているからで、自信があるからです。

学校統合に関しましては、南部地区の少子化への対応と南部工業高校の小規模化の解消が喫緊の課題となっており、早急な対応が必要になり、その現状を踏まえ新たな計画を策定しなければならないと考えます。

南部工業高校での説明会で出た、フューチャースクールとの併設のご意見については、フューチャースクールの案件として検討させていただきます。

統合に係る費用等については、今後財政当局との検討課題となります。

生徒数の推移については、平成22年度の学校基本調査を元に推計を示してあります。実施計画策定後は、年度ごとの生徒の定数管理として実施していくことになります。

100年余の歴史のある学校として県内は元より県外での知名度や、部活動の活躍等についても特筆すべき学校であると考えております。

校名については、実施計画策定後に「校名検討委員会」を発足させ、変更の有無も含めて議論することになります。

総合選択制は専門学科の特色や専門性は保持しながら、生徒の希望に応じて他学科の教科、科目を履修することができるシステムです。生徒が現海洋技術科の教科、科目のみの履修を希望すれば従来の教育課程と何ら変化はありません。

学科やコースにより必要に応じ在籍生徒に対して必修科目等を設定すれば、その特色は損なわれるものではないと考えます。

したがって、懸念されている現海洋技術科の船長コースと機関長コースの機能については学校統合後も何ら変化はありません。

県教育委員会としましては海洋県、島嶼県という本県の特色を踏まえ、海洋技術科の本県海運業界への人材育成等の役割については重要視しております。

アンケート等の調査については、県民の幅広い意見を集約する意味でも重要と考えます。ご指摘のとおり、今後も必要に応じて実施し分

		○説明会でも指摘したとおり、産業教育審議会専門委員会では、将来の産業教育の方向性を検討するために、より慎重にアンケート内容検討し、対象者をできるだけ幅広く実施しなければならないという考えでまわっています。今回の編成整備計画と将来の産業教育の発展と無関係なのでしょうか。	析してまいりたいと考えます。
26	P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕	福山海運には沖縄水産高校及び専攻科卒業生が5人も勤務しております。われわれは、船乗りには憧れ数多くの先輩方の背中を見て、今日頑張っております。現在も船員離れが目立ちそれを食い止めるためにも、名高い沖縄水産高等学校の存続を強く要望します。是非水産魂ここに有りと、言うことをこれから、船乗りを目指す若者に教えて行く上でも沖縄水産高等学校の存続をお願いします。	県教育委員会としましては海洋県、島嶼県という本県の特徴を踏まえ、海洋技術科の本県海運業界への人材育成等の役割については重要視しております。 100年余の歴史のある学校として県内は元より県外での知名度や、部活動の活躍等についても特筆すべき学校であると考えております。 校名については、実施計画策定後に「校名検討委員会」を発足させ、変更の有無も含めて議論することになります。
27	P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 沖縄水産高校の校名の変更は絶対反対である。 2. 沖水卒業OBとして誇りを持っている。 3. 経験から総合選択制という広く浅い制度では海技従事者というプロを育てるのは無理だと思う。我々が学んだ3年間でも時間が足りず先生方の厚意により夏休み、土日返上で補修時間にあててやっと合格できる様な難関であった。 4. 沖縄水産高校という名前を残せない校長は即刻退職願いたい。 5. 南部工業高校との統合は反対ではない。もし、統合しなければ南部工業の学科を沖縄水産高校〇〇科として編入して貰いたい。 	<p>校名については、実施計画策定後に「校名検討委員会」を発足させ、変更の有無も含めて議論することになります。</p> <p>100年余の歴史のある学校として県内は元より県外での知名度や、部活動の活躍等についても特筆すべき学校であると考えております。</p> <p>総合選択制は専門学科の特色や専門性は保持しながら、生徒の希望に応じて他学科の教科、科目を履修することができるシステムです。生徒が現海洋技術科の教科、科目のみの履修を希望すれば従来の教育課程と何ら変化はありません。</p> <p>学科やコースにより資格取得等必要に応じ在籍生徒に対して必修科目等を設定すれば、その特色は損なわれるものではないと考えます。</p> <p>したがって、懸念されている現海洋技術科の船長コースと機関長コースの機能については学校統合後も何ら変化はありません。</p> <p>校長の進退のご意見については、編成整備計画と関連はないものと</p>

南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕

沖縄水産高等学校の校名変更と再編による海洋技術科の新学科統合に反対する。

1. 編成整備実施計画（案）に対する見直しを要望します。
2. 沖縄水産高等学校の校名の存続を要望します。
3. 海洋技術科を水産科（新学科）に統合せず単科での存続を要望します。

○ 反対理由

1に対する理由

- (1) 編成整備計画を作成するにあたって事前に実施されたアンケート調査対象者が不十分で、各関係団体への意見照会が実施されていない。
- (2) 編成整備計画作成に向けた懇話会委員のなかに、各関係団体代表者が選任されていない。また、南部工業高校の沖縄水産高校への統合やそれに伴う学科改編に関して十分な議論がなされておらず、突如11月に実施計画（素案）内に盛り込まれており、校長ヒヤリングのみで実施計画（素案）が作成されている状況は民主的ですか。
- (3) 懇話会の開催や傍聴要領などHP掲載のみで行うのは広く県民や各関係団体に対して「公開」しているとは言えない。県民のインターネット普及率は何パーセントなのでしょうか。

2に対する理由

- (1) 沖縄県の水産高等学校は沖縄水産高等学校のみであり校名を変えろということは沖縄県の水産業の後退を招きかねない。沖縄水産高等学校は110年の歴史を有する高等学校であり、全国の水産高等学校の中で最も有名な水産高等学校であることから校名を変えることはとうてい受け入れられない。日本の食糧自給率は40%と世界的に見ても大変低い状況にあります。日本の耕地には限界がありますが、日本の四方を囲む海には無限の可能性がります。沖縄県にとって水産業は欠くことのできない存在ではないでしょうか。

考えますので、回答は控えさせていただきます。

ご指摘のとおり、沖縄水産高校に関連する関係機関団体へのヒアリングは実施しておりません。

関係機関団体としましては、各教育事務所単位で実施される地区協議会での各界からのヒアリング、関係する市町村教育委員会、PTA、同窓会、保護者等のヒアリングを想定して実施しております。

「県立高等学校編成整備に関する懇話会」は、中・高校長会代表者、保護者代表者（PTA）、市町村の教育委員会代表者、経済界代表者、学識経験者など計8名で構成されており、各界から公正で幅広い意見を頂いております。

学校長へのヒアリングについては、学校の代表として学校経営の面から学校や本県の教育課題、さらに課題解決への意見を聞くことは重要なことだと考えます。

教職員やPTA、同窓会等からの意見聞き取りについては、（素案）（案）策定後に各地域説明・意見交換会や必要に応じて該当校へ出向き意見交換を実施しております。

また（素案）については、県立高等学校編成整備に関する懇話会を開催し、それと平行して各地域での説明・意見交換会を実施しご意見を頂戴しております。

県教育委員会としましては海洋県、島嶼県という本県の特色を踏ま

(2) 四面を海に囲まれている島嶼県沖縄は、貨物・旅客輸送および、生活必需物資の安定輸送確保の観点から、海運の意義・必要性は論を待たない。沖縄県における貨物輸送の99%は海運が担っており、県民の生活と経済を支える上で大きな役割を果たしています。海上輸送は、県内の海運業に携わる船員・水先人・船舶運行管理業務などに従事する海技従事者によって支えられています。県外の海洋系水産高校以外に、海技従事者の教育機関としては、商船・水産系大学（4校）、海上技術短期大学（3校）、海上技術学校（4校）、商船高等専門学校（5校）となっていますが、島嶼県沖縄においては、唯一沖縄水産高等学校の海洋技術科と県内唯一の進学先である専攻科のみとなっています。

将来の労働人口の減少が予想されるなか、技術を持った県出身者による海技従事者の確保・育成は極めて重要であります。また、沖縄水産高等学校は、海技従事者の教育のために海運業界からの色々な意見を踏まえ、熱心な指導を行っており、県内外の業界では知名度が高くブランド化され、卒業時の就職活動に有利に働く要素が多々あることから、編成整備実施計画（案）の内容を見直し、県立沖縄水産高等学校の校名及び、海洋技術科は単科として存続させることを強く要請します。

3に対する理由

(1) 沖縄水産高等学校海洋技術科の卒業生は海技従事者が多く、沖縄県は勿論のこと日本の海運業において沖縄水産高等学校海洋技術科の存続は必要不可欠であります。

産業の存亡は中等・高等教育にあります。海洋技術科を廃科にすることは沖縄及び日本の海運産業の後退になります。また沖縄県は国際的な教育を推進している中、海外との物流取引を担う船員を育成している船員教育及び水産教育機関は国際教育の役割は大変重要であります。

(2) 平成19年に「海洋基本法」が制定されて以降、国民が海洋についての理解と関心を深めることができるよう「学校教育及び社会教育における海洋に関する教育の推進」や平成20年には今後5年間になすべき施策として「海洋に関する国民の理解の増進と人材育成」が盛り込まれた「海洋基本計画」が閣議決定された。

え、海洋技術科の本県海運業界への人材育成等の役割を重要視しております。

総合選択制は専門学科の特色や専門性は保持しながら、生徒の希望に応じて他学科の教科、科目を履修することができるシステムです。生徒が現海洋技術科の教科、科目のみの履修を希望すれば従来の教育課程と何ら変化はありません。

さらに、学科やコースにより資格取得等必要に応じ在籍生徒に対して必履修科目等を設定すれば、その特色は損なわれるものではないと考えます。

したがって、懸念されている現海洋技術科の船長コースと機関長コースの機能については学校統合後も何ら変化はありません。

100余年の歴史のある学校として県内は元より県外での知名度や、部活動の活躍等についても特筆すべき学校であると考えております。

校名については、実施計画策定後に「校名検討委員会」を発足させ、変更の有無も含めて議論することになります。

ご指摘の件も参考にして今後検討していきたいと考えます。

しかしながら、我が国の水産業界や海運業界においては、後継者不足が深刻な問題となっており、海運の人的基盤である船員の確保・育成は「海洋国家」である我が国にとっては極めて重要な課題となっている。

いにしへの昔より我が琉球国は海外と船で交易をすることにより、この素晴らしい文化を作り上げてきました。沖縄県が国際化を計るならば船員教育及び水産教育に重きを置くべきであると考えます。

(3) 沖縄県産業教育審議会において「今後の本県職業教育の在り方について」(1) 職業教育における人材育成の在り方、(2) 地域や産業界、大学等との連携による産業教育の在り方について、諮問がなされその理由として下記のことが示されている。

《課題点》

経済のグローバル化や国際競争の激化、技術革新・情報化等の産業社会の高度化、就業形態の多様化など、社会の状況が大きく変化している。特に高い失業率やフリータ、ニートの増加等が社会問題となっている。その様な中、中央教育審議会から「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」の答申が出され発達段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育・産業教育の必要性とその方策が提言された。

《方策》

平成25年度から全面実施される新学習指導要領においては、職業教育に「将来のスペシャリストの育成」「地域産業を担う人材の育成」「人間性豊かな職業人の育成」が求められ、本県においては、未来を見据え、県民の参画と協働の下に、将来のあるべき沖縄の姿を描いた基本構想である「沖縄21世紀ビジョン」が策定され、本ビジョンにおいて「業種のニーズや課題に応じた産業人材を育成することの重要性」が示されている。

このような状況の下、本県の職業学科を設置する高等学校においては、高い職業意識・職業観と規範意識、コミュニケーション能力等に根ざした実践力を高めることが重要であるとしている。

本校、海洋技術科においては、まさにそれを実践し、就職内定率、後継者育成(船舶職員育成率)、定着率においても実績をあげており、業界からの評価は高い。

(4) 現在、全国海洋系水産高校からも多くの人材を輩出しているが、内航海運業界だけでも10年後には4500名不足するというデータが示されている。これに伴って益々水産高校における水産教育は重視されてきている。

これを受けてわが国政府は、海洋基本法の理念に基づき若年船員確保・育成に関し、外航・内航日本人船員採用計画が国家プロジェクトとして承認され、国家予算の配分が計画的に進められている。近年、海洋技術科職員が参加協力している若年者船員確保・育成 に向けた会議や教室は下記のとおりである。

- ①全日本海員組合沖縄支部主催による「青少年船員教室」(毎年1回)
- ②内閣府総合事務局運輸部船舶船員課主催による「若年内航船員推進確保協議会」(年3回)及び「小学生100名対象海事教室」(年1回)
- ③九州地方海運組合連合会主催の「九州地区船員対策連絡協議会」(年1回)
- ④沖縄県水産業改良普及センター主催の「水産少年教室」(年1回)
- ⑤全日本海員組合沖縄支部主催の「沖縄県海運業界との懇話会」(年1回)
- ⑥沖縄県産業教育審議会専門委員以上のことから、わが国は「21世紀は海洋時代」として捉え、各地方に補助事業も積極的に実施されているなか、校名変更や海洋技術科の単科としての廃止は、水産教育を衰退させることになる。現に宮古水産高校は商業、農業と合併し、宮古総合実業高校として校名を変更したが、県内や特に県外の各関係業界からは水産教育が無くなったと思われるのが現状である。今現在、多大な労力を費やし立て直しに取り組んでいると聞いている。

(5) 沖縄県の打ち出している「21世紀ビジョン」や「産業振興」において国際物流経済特区として港湾施設の整備計画を予定している。海上物流における海運業界の役割や水産業の国際化は県行政の主要な施策でもあり、水産教育の柱なくしては実現不可能となる。

平成24年秋には「全国豊かな海づくり大会」が水産高校の立地する糸満市で開催される事が決定している。それを受けて産業教育審議会水産

専門部会においても水産教育の展望として「水産業の国際化・国際交流」をテーマに研究協議会が開かれ、沖縄水産高校で実習船を活用している海洋技術科の果たす役割は、今後益々重要となってくるという見解が示されている。

(6) 平成16年にうるま市の海員学校が廃校となり、本県における海技従事者養成施設は本校海洋技術科及び専攻科のみである。現在海洋技術科からは漁業従事者や海技従事者の両方の進路が選択でき、生徒にとっては魅力のある学科となっている。

(7) 国土交通省より第一種船舶職員養成施設として、海洋技術科で五級海技士（航海・機関）、専攻科では三級海技士（航海・機関）の国家試験筆記免除となる認定を受けており、専門教科は全て必修科目で本科から専攻科まで一貫教育が行われている。そのため、教育課程を変えることはできない。また、就職先の水産・海運産業界の「より深い専門性」即戦力が求められているため、水産科（新学科）の目指す総合選択制「幅広い専門性」の趣旨には適しない。

(8) 平成6年以降、機関科と漁業科を統合し海洋技術科となって18年目となる。今では県民をはじめ中学生や小学生までその名が知れ渡っており、将来海運業界や水産業界を目指して入学してくる生徒が9割以上

（平成22年度入学者）を占めている。平成22年度の県立高等学校平均志願倍率0.94倍にあって、当初入学者志願倍率1.77倍（県内2番目）、志願変更後1.65倍（県内3番目）と高い倍率であった。今では「海洋技術科」船のスペシャリストを育成する学科として「看板」となっていることから、改編する必要性は全くありません。

(9) 1月28日に配布されたQ&Aの回答は、根拠がどこにあるのでしょうか。空想だけの回答では納得いきません。しっかりとしたデータを示していくべきではないでしょうか。

(10) 例え部活で学校が活性化し、入口が増えたとしても、出口がなければ衰退することは誰にでも分かることではないでしょうか。

以上

南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕

「沖縄水産高校を水産、工業、総合学科の総合選択制の学校に再編します。」
上記の部分は削除して下さい。1月28日の学校説明会において、「学科改変に関する内容は、今後学校サイドで検討して決めることであり、教育庁が介入することではない」と明言されました。学科改変に関しては、学校内で議論をして、決定していきたいと考えています。

具体案として、

- ①学科改変は学校内で協議・決定する
- ②工業高校の跡地にフューチャースクールを作ることが統合賛成の前提
- ③1クラス増の7クラス（全840名）編成
- ④学科は、全て総合選択制の総合科とする
- ⑤校名は「沖縄水産高等学校」を維持するを挙げます。

私は、工業高校が統合されることには反対ではありませんが、工業高校の跡地にフューチャースクールを作ることが賛成の前提となります。高校教育を学ぶ環境作りに生活指導・生活支援は欠かせません。基本的な生活習慣を身につけることを徹底した指導についていけない生徒が多数存在するのが現状です。規則に縛られず、高校卒業の資格のみを必要とする生徒の受け皿が必要です。それをフューチャースクールに担って頂き、実業高校は本来の専門教育に専念することが子どもたちの将来に有益だと考えます。島尻地区でフューチャースクールのニーズは高いと思います。すると、必然的に生徒数は分散されます。教育庁からのデータ（P.7資料島尻地区中学生卒業者グラフ）の通り、島尻地区全体では生徒数が減少していきます。そうであるにもかかわらず、2クラス増は多すぎます。現状の6クラス、せめて、1クラス増の7クラス編成が妥当だと考えます。

1科の総合選択制にまとめれば、工業高校と本校とで系列（コース）の整理・統合ができます。7ページの効果(1)にあるように、工業高校2クラス分を増やさなくても、整理・統合して1クラス増加で対応できると考えます。何よりも、教員全体で協力して学校を運営いくスタンスが重要だと考えています。

校名は、県外でのネームバリューは大きく、プラスのイメージで捉えら

学科改編については、学校長の裁量になります。しかし、編成整備計画においては、県全体の状況や学科やコースのあり方等を考慮してなされるものであり、学校と教育行政が連携をとり、十分な協議を重ねる必要があります。

ご意見の「具体案」については、今後の参考にさせていただきます。

フューチャースクールについては、学び直しに特化した学校として心因性の不登校、発達障害、高等学校を中途退学しかつ高校教育を再度チャレンジする意志をもった生徒等を対象としております。

多様な選択科目の設定や単位認定により生徒の個性や可能性を引き出すことや、キャリア教育の充実を図り生徒の主体的な進路決定を支援する学校としております。

「規則に縛られず、高校卒業の資格のみを必要とする生徒の受け皿」という概念については、高校教育の目的と合致しないものと考えます。

100年余の歴史のある学校として県内は元より県外での知名度や、部活動の活躍等についても特筆すべき学校であると考えております。

校名については、実施計画策定後に「校名検討委員会」を発足させ、変更の有無も含めて議論することになります。

		れており、就職にかなり優位な状況があります。県内でのイメージは、現在、そして今後の努力で十分良い方向に変えていける実感があります。	
30	P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕	<p>沖縄水産高等学校は県唯一の海技従事者の教育機関であり、将来の労働人口の減少が予想される中、技術を持った県出身者による海技従事者の確保・育成は、極めて重要であるから、現在の体系を変更する必要はない。</p> <p>同校の専攻科は東亜運輸（株）への就職する為の国家資格が取得できる唯一の学校機関であります。</p> <p>今後の船員不足が叫ばれる業界に於いては重要な教育の場です。</p> <p>沖縄では少ない新卒を必ず受け入れてきた海運業界への継続にも学校の継続はとても重要です。</p>	<p>総合選択制は専門学科の特色や専門性は保持しながら、生徒の希望に応じて他学科の教科、科目を履修することができるシステムです。</p> <p>生徒が現海洋技術科の教科、科目のみの履修を希望すれば従来の教育課程と何ら変化はありません。</p> <p>学科やコースにより資格取得等必要に応じ在籍生徒に対して必修科目等を設定すれば、その特色は損なわれるものではないと考えます。</p> <p>したがって、懸念されている現海洋技術科の船長コースと機関長コースの機能については学校統合後も何ら変化はありません。</p> <p>県教育委員会としましては海洋県、島嶼県という本県の特色を踏まえ、海洋技術科の本県海運業界への人材育成等の役割については重要視しております。</p>
31	P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕	<p>先島地区は県内でも辺境離島でもあり、船舶での移動及び貨物類等の輸送は離島住民にとって唯一の重要な生活航路であります。</p> <p>その為、船舶も多く海洋レジャーでの観光産業等も盛んで航路事業者（観光関連業者）に多くの船員が雇用されております。その為世代交代での（定年）による退職もあり、県内の海技免許取得者（航海、機関）が年々雇用状況が厳しい現況にあります。</p> <p>県内の応募者が少なく、本土から船員を募集し、採用している現況であります。</p> <p>よって、沖縄水産高等学校は県内唯一の海技従事者の専門的な教育機関であり、技術力の向上と（国家試験）等の対策には現体系を維持してもらいたい。</p> <p>総合選択制とすることは、大変難しく疑問に思います。県内出身者の海</p>	<p>総合選択制は専門学科の特色や専門性は保持しながら、生徒の希望に応じて他学科の教科、科目を履修することができるシステムです。</p> <p>生徒が現海洋技術科の教科、科目のみの履修を希望すれば従来の教育課程と何ら変化はありません。</p> <p>学科やコースにより資格取得等必要に応じ在籍生徒に対して必修科目等を設定すれば、その特色は損なわれるものではないと考えます。</p> <p>したがって、懸念されている現海洋技術科の船長コースと機関長コースの機能については学校統合後も何ら変化はありません。</p> <p>県教育委員会としましては海洋県、島嶼県という本県の特色を踏まえ、海洋技術科の本県海運業界への人材育成等の役割については重要視しております。</p>

		<p>技従事者の確保育成は極めて重要であり、現在の体系を変更することなく水産高校の存続をお願い致します。</p>	
32	<p>P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕</p>	<p>総合選択制とすることで、海技従事者としての学力・技術力の維持ができるのか疑問が残る。 専門とする海洋関係の科を学ぶことによって自分の将来を決定し夢の実現を果たすと思いますので他校との統合はせず希望する生徒だけを受け入れることが大切ですので受検する科がなければ他の高校への進学を進めることです。</p>	<p>総合選択制は専門学科の特色や専門性は保持しながら、生徒の希望に応じて他学科の教科、科目を履修することができるシステムです。 生徒が現海洋技術科の教科、科目のみの履修を希望すれば従来の教育課程と何ら変化はありません。</p>
33	<p>P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕</p>	<p>沖縄水産高校は専攻学科があり海洋技術による漁業科、機関科、無線通信科等水産業に関する技術や知識を習得することが出来、離島の多い沖縄県の人材育成に是非とも欠かせない水産高等学校であり、現在の体系を変更することにより育成への意欲や実習への強化に影響したり、船舶技術が衰退する事にならないか危惧されます。よって船舶に携わる私どもとしては、現在の体系を変更する必要はないと思います。</p>	<p>県教育委員会としましては海洋県、島嶼県という本県の特色を踏まえ、海洋技術科の本県海運業界への人材育成等の役割については重要視しております。 総合選択制は専門学科の特色や専門性は保持しながら、生徒の希望に応じて他学科の教科、科目を履修することができるシステムです。</p>
34	<p>P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕</p>	<p>沖縄水産高等学校は、沖縄県唯一の海技従事者の教育機関であり、総合選択制にする事で、海技従事者としての学力・技術力の維持及び低下が懸念される。その他にも県出身者の海技従事者の確保育成は重要である事から現在の体系を変更しないで、沖縄水産高等学校の存続を強く望みます。</p>	<p>総合選択制は専門学科の特色や専門性は保持しながら、生徒の希望に応じて他学科の教科、科目を履修することができるシステムです。 生徒が現海洋技術科の教科、科目のみの履修を希望すれば従来の教育課程と何ら変化はありません。</p>
35	<p>P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕</p>	<p>海技従事者が、高齢化に伴って後継者不足の中水産高校が統合編成する事は、将来海技従事者の専門技術を習得する学生にとって希望を失う事になるので統合は反対です。</p>	<p>学校統合に関しましては、南部地区の少子化への対応と南部工業高校の小規模化の解消が喫緊の課題となっており、早急な対応が必要になり、その現状を踏まえ新たな計画を策定しなければならないと考えます。</p>

			<p>総合選択制は専門学科の特色や専門性は保持しながら、生徒の希望に応じて他学科の教科、科目を履修することができるシステムです。生徒が現海洋技術科の教科、科目のみの履修を希望すれば従来の教育課程と何ら変化はありません。</p> <p>学科やコースにより資格取得等必要に応じ在籍生徒に対して必修科目等を設定すれば、その特色は損なわれるものではないと考えます。</p> <p>したがって、懸念されている現海洋技術科の船長コースと機関長コースの機能については学校統合後も何ら変化はありません。</p>
36	P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕	<p>離島県である沖縄の生活航路及び漁業を支える船員確保の為、沖縄水産高校はなくてはならない学校である。</p> <p>また、他校との統合による学力及び技術力の低下が懸念される。</p>	<p>県教育委員会としましては海洋県、島嶼県という本県の特色を踏まえ、海洋技術科の本県海運業界への人材育成等の役割については重要視しております。</p> <p>統合が学力及び技術力の低下につながることは考えておりません。</p>
37	P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕	<p>海技従事者としての学力・技術力の維持ができるのか？</p> <p>専攻科のような教育機関を残せないと県出身者の海技従事者が内地に出なくてはなくなり県出身の船乗りが減ることが懸念される。</p>	<p>専攻科については、本編成整備実施計画（案）で取り上げておりません。</p>
38	P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕	<p>○海技従事者としての学力・技術力の維持ができるんですか？</p> <p>○県内唯一の水産高校をなくしたら海技従事者の確保とかは、どうなるんですか。</p> <p>○沖縄の海運のためにもなくさない方向でお願いします。</p>	<p>総合選択制は専門学科の特色や専門性は保持しながら、生徒の希望に応じて他学科の教科、科目を履修することができるシステムです。生徒が現海洋技術科の教科、科目のみの履修を希望すれば従来の教育課程と何ら変化はありません。</p> <p>学科やコースにより資格取得等必要に応じ在籍生徒に対して必修科目等を設定すれば、その特色は損なわれるものではないと考えま</p>

			す。 したがいまして、懸念されている現海洋技術科の船長コースと機関長コースの機能については学校統合後も何ら変化はありません。
39	P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕	<p>自分は海員学校の出身で、母校が無くなり海技従事者を志す者が一層減少していると実感している。その様な状況の中で水産高校を統合するという事は、沖縄（離島を含む）の将来にとってかなりのマイナスになると思う。</p> <p>統合した場合、本気で船員を目指す生徒もいれば、そうでない生徒もいると思うので海技従事者が（後継者）が育たなくなると懸念する。水産高校の現状維持を強く希望するとともに、これからも専門的な教育を継続的に行い、優秀な生徒、日本、沖縄の海運業界に送りだしてくれる事を大いに期待している。</p>	<p>総合選択制は専門学科の特色や専門性は保持しながら、生徒の希望に応じて他学科の教科、科目を履修することができるシステムです。生徒が現海洋技術科の教科、科目のみの履修を希望すれば従来の教育課程と何ら変化はありません。</p> <p>学科やコースにより資格取得等必要に応じ在籍生徒に対して必履修科目等を設定すれば、その特色は損なわれるものではないと考えます。</p> <p>したがいまして、懸念されている現海洋技術科の船長コースと機関長コースの機能については学校統合後も何ら変化はありません。</p>
40	P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕	<p>○海国から海技従事者を無くすような事をしてこの先どうなるのか？</p> <p>本当に、将来の事を考えるなら専門的にある教育機関を残し、より能力のある人材を育てる事が海運、水産の為ではないか？</p> <p>海運、水産は生活物資を支えてる貴重な存在だという事を考慮してほしい。</p>	<p>県教育委員会としましては海洋県、島嶼県という本県の特色を踏まえ、海洋技術科の本県海運業界への人材育成等の役割については重要視しております。</p> <p>総合選択制は専門学科の特色や専門性は保持しながら、生徒の希望に応じて他学科の教科、科目を履修することができるシステムです。生徒が現海洋技術科の教科、科目のみの履修を希望すれば従来の教育課程と何ら変化はありません。</p> <p>学科やコースにより資格取得等必要に応じ在籍生徒に対して必履修科目等を設定すれば、その特色は損なわれるものではないと考えます。</p> <p>したがいまして、懸念されている現海洋技術科の船長コースと機関長コースの機能については学校統合後も何ら変化はありません。</p>
41	P7		

	<p>南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕</p> <p>○沖縄県からの船員（海技従事者）を無くすつもりなのか。 ○沖縄県は島国なので沖縄水産高等学校は必要である。</p>	<p>県教育委員会としましては海洋県、島嶼県という本県の特徴を踏まえ、海洋技術科の本県海運業界への人材育成等の役割については重要視しております。</p> <p>総合選択制は専門学科の特色や専門性は保持しながら、生徒の希望に応じて他学科の教科、科目を履修することができるシステムです。生徒が現海洋技術科の教科、科目のみの履修を希望すれば従来の教育課程と何ら変化はありません。</p> <p>学科やコースにより資格取得等必要に応じ在籍生徒に対して必修科目等を設定すれば、その特色は損なわれるものではないと考えます。</p> <p>したがって、懸念されている現海洋技術科の船長コースと機関長コースの機能については学校統合後も何ら変化はありません。</p>
<p>42 P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕</p>	<p>水産、工業、総合学科の総合選択制の学校に再編することは、自らの意思で船員を目指し授業を受ける学生と、目的意識の違う学生とでは、授業に対する士気、態度等で違いがあり専門性のある授業を進められるのは難しいのではないかとと思われる。</p> <p>南部工業との統合は、工業と工業同士の統合が望ましいのではないかと。</p>	<p>総合選択制は専門学科の特色や専門性は保持しながら、生徒の希望に応じて他学科の教科、科目を履修することができるシステムです。生徒が現海洋技術科の教科、科目のみの履修を希望すれば従来の教育課程と何ら変化はありません。</p> <p>学科やコースにより資格取得等必要に応じ在籍生徒に対して必修科目等を設定すれば、その特色は損なわれるものではないと考えます。</p> <p>したがって、懸念されている現海洋技術科の船長コースと機関長コースの機能については学校統合後も何ら変化はありません。</p> <p>学校統合に関しましては、南部地区の少子化への対応と南部工業高校の小規模化の解消が喫緊の課題となっており、早急な対応が必要になります。</p>
<p>43 P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南</p>	<p>自分は、沖水高機関科卒だが、海技免許が取れたのはいまの沖水高の体制のおかげです。</p>	<p>沖縄水産高校の資格取得についての取り組みについては、授業・実習等の充実が図られていることで、実績や評価につながっているもの</p>

	部総合実業高等学校（仮称）]		と考えます。
44	P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）]	卒業生として沖縄水産高等学校の校名を残す事を強く望みます。	「南部総合実業高等学校（仮称）」については、現行の編成整備計画の継続であることと統合後に大規模な学科改編が予想されることからそのような名称になっております。 校名については、実施計画策定後に「校名検討委員会」を発足させ、変更の有無も含めて議論することになります。
45	P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）]	沖縄県は周辺が海に囲まれている県でその周辺離島からも多くの子供達が水産高校でしか学べない海事従事者としての教育を必要としている。 海と携わる事が多い沖縄県民にとって将来の海上職員をもっと力を入れて育成する事を望む。 工業高校は工業高校同士の統合した方が良いのでは？ 総合選択制とする計画は疑問である。	県教育委員会としましては海洋県、島嶼県という本県の特徴を踏まえ、海洋技術科の本県海運業界への人材育成等の役割については重要視しております。 学校統合に関しましては、南部地区の少子化への対応と南部工業高校の小規模化の解消が喫緊の課題となっており、早急な対応が必要になります。
46	P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）]	海技職、工業高校での技術の分野は、まったく異なるもので、職員の配置にも問題があると思う。生徒への配慮もおろそかになるのでは。 よって統合はいかなものかと！	水産に関する学科、工業に関する学科ともに専門の教員が担当することになります。 したがって、懸念されている生徒への配慮がおろそかになることはございません。
47	P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）]	沖縄水産高校は、唯一海技従事者の教育校であり将来沖縄で就職し技術を確保できる高校である。 現在の体系を変更する必要はない。	沖縄水産高校の資格取得についての取り組みについては、授業・実習の充実が図られていることで、実績や評価につながっているものと考えます。 工業高校との統合により、総合選択制への移行となり学科改編が予想されております。

48	P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕	総合選択制とすることで、海技従事者を目指す者とそうでない者との目的の違う生徒がいるとどうなのか疑問があるのでは。	海技従事者を目指すかそうでないかは、一義的に生徒の希望であると考えます。 総合選択制は専門学科の特色や専門性は保持しながら、生徒の希望に応じて他学科の教科、科目を履修することができるシステムです。
49	P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕	沖縄県は離島の多い県、離島の交通手段となる船舶職員の育成は極めて重要であるので現在の体系を変更する必要は無いと思う。	県教育委員会としましては海洋県、島嶼県という本県の特色を踏まえ、海洋技術科の本県海運業界への人材育成等の役割については重要視しております。
50	P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕	船員を目指す生徒の減少が危惧される。 目的意識の違う生徒同士の授業の進行に支障をきたさないか。	総合選択制は専門学科の特色や専門性は保持しながら、生徒の希望に応じて他学科の教科、科目を履修することができるシステムです。生徒が現海洋技術科の教科、科目のみの履修を希望すれば従来の教育課程と何ら変化はありません。 学科やコースにより必要に応じ在籍生徒に対して必修科目等を設定すれば、その特色は損なわれるものではないと考えます。
51	P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕	沖縄県高等学校編成整備計画に於いて沖水高が南工高と統合し南部総合実業高（仮名）となり再編される計画には本当に残念でなりません。 再編計画にある両校は、伝統は勿論の事卒業生は県内外で活躍されており、沖縄県を支えておられます。 本県は島嶼県であり、各離島を結ぶ貨客船やタンカー、また、本土からの生活物資を運ぶRORO船があり、大半の方が卒業生が各船舶で船務に従事されております。 沖縄本島では水産系の専門知識を習得する事が出来るのは、唯一、沖水	学校統合に関しましては、南部地区の少子化への対応と南部工業高校の小規模化の解消が喫緊の課題となっており、早急な対応が必要になります。 県教育委員会としましては海洋県、島嶼県という本県の特色を踏まえ、海洋技術科の本県海運業界への人材育成等の役割については重要視しております。 今後とも、有為な海技従事者育成のための高等学校として、必要な支援は継続してまいります。

		<p>高のみです。</p> <p>両校が統合され学科等の編成により海技従事者の認定がなされない場合は、資格取得の為若者の目を県外に向けさせてしまう可能性が生ずると思われれます。</p> <p>今回の統合編成は各校の定員割れ、現在の沖水高に新校舎が建設が可能なのではないだろうか。</p> <p>水産高校の特殊性を今一度考えてほしい。</p>	
52	P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕	<p>沖縄水産高校は海技従事者の教育機関であり、技術を持った県出身者による海技従事者の確保育成は重要である。</p>	<p>県教育委員会としましては海洋県、島嶼県という本県の特徴を踏まえ、本県海運業界等への人材育成等の役割については重要視しております。</p> <p>今後とも、有為な海技従事者育成のための高等学校として、必要な支援は継続してまいります。</p>
53	P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕	<p>沖縄水産高校は県内唯一の海技の教育機関であります。現在に至り、優秀な人材を育成し、県内船舶業にとって欠かすことの出来ない高校です。海技術を持った県出身者による従事者の育成は重要と思われ。</p> <p>又他の分野においても知名度も高く誇りある伝統高校の存続を強く願います。</p>	<p>県教育委員会としましては海洋県、島嶼県という本県の特徴を踏まえ、本県海運業界等への人材育成等の役割については重要視しております。</p> <p>今後とも、有為な海技従事者育成のための高等学校として、必要な支援は継続してまいります。</p>
54	P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕	<p>離島県沖縄で唯一の船舶職員養成学科を他校と統一するのに反対。</p>	<p>学校統合に関しましては、南部地区の少子化への対応と南部工業高校の小規模化の解消が喫緊の課題となっており、早急な対応が必要になります。</p>
55	P7 南部工業高等学校と沖縄	<p>沖縄水産高等学校は戦前より戦後に及び立派な技術者を育成して、世界</p>	<p>学校統合に関しましては、南部地区の少子化への対応と南部工業高</p>

	水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕	に翔たく船長や機関長を生み出し現在に至っており、今まで同様の水産高校を存続してほしい。 統合には反対します。	校の小規模化の解消が喫緊の課題となっており、早急な対応が必要になります。 海技従事者育成については、その機能は維持されます。
56	P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕	総合選択制となった場合本気で将来、船員を目指す生徒が少なくなり人材育成と人材確保ができなくなることが予想される。	総合選択制は専門学科の特色や専門性は保持しながら、生徒の希望に応じて他学科の教科、科目を履修することができるシステムです。生徒が現海洋技術科の教科、科目のみの履修を希望すれば従来の教育課程と何ら変化はありません。 学科やコースにより必要に応じ在籍生徒に対して必修科目等を設定すれば、その特色は損なわれるものではないと考えます。
57	P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕	沖縄水産高等学校は権唯一の海技従事者の教育機関であり、当社も卒業生の就業に貢献していただいているが、過去数年来の特徴として海浜リゾートにおける人材の確保にはどの社も苦慮している現状となっている。結果としてスキルの低下や安全対策に不安を生じる事となっている。技術を持った県出身者による海技従事者の確保育成は喫緊の課題となっており、現在の体系を変更する必要はない。	県教育委員会としましては海洋県、島嶼県という本県の特色を踏まえ、本県海運業界等への人材育成等の役割については重要視しております。 海技従事者育成については、その機能は維持されます。 今後とも、有為な海技従事者育成のための高等学校として、必要な支援は継続してまいります。
58	P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕	沖縄県に唯一の水産高校である。海技に関する専門の教育機関であり、工業高校とは全然ちがう授業を行うので授業がやりにくい。	統合しても、水産に関する学科、工業に関する学科ともに専門の教員が担当となります。
59	P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕	県立の小中高校で統合・廃校とか検討される中で、沖縄水産高校の統合が計画中であるのは実に残念であります。 専門的分野における学習の場が重要であると思います。	学校統合に関しましては、南部地区の少子化への対応と南部工業高校の小規模化の解消が喫緊の課題となっており、早急な対応が必要になり、その現状を踏まえ新たな計画を策定しなければならないと考え

	称)]	海洋県の沖縄のシンボルが消えていく感がして、誠に許しがたいです。県立沖縄水産高等学校の存続を強く希望します。	ます。 統合しても、水産に関する学科、工業に関する学科ともに専門の教員が担当となりますので教科・科目の専門性は保持されます。 校名については、実施計画策定後に「校名検討委員会」を発足させ、変更の有無も含めて議論することになります。
60	P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕	少子化＝統合に疑問を感じます。 統合し成功した例もあると思いますが「沖縄水産高校」というブランドが無くなる事は残念です。	学校統合に関しましては、南部地区の少子化への対応と南部工業高校の小規模化の解消が喫緊の課題となっており、早急な対応が必要になり、その現状を踏まえ新たな計画を策定しなければならないと考えます。 校名については、実施計画策定後に「校名検討委員会」を発足させ、変更の有無も含めて議論することになります。
61	P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕	沖縄水産といえば、野球部などの活躍により全国的に知れわたったと思います。その名がなくなるとするのはとても寂しい事ですし、工業高校との統合は工業高校どうしの統合の方が学習面など方向性が合うと思います。	100年余の歴史のある学校として県内は元より県外での知名度や、部活動の活躍等についても特筆すべき学校であると考えております。 校名については、実施計画策定後に「校名検討委員会」を発足させ、変更の有無も含めて議論することになります。 南部工業高校と他工業高校との統合については、地区ごとの工業ニーズに対応することと学科の割合等の課題があるため実現は厳しいと考えます。
62	P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕	沖縄水産高等学校は、県内唯一の海技従事者の教育機関であり、将来の海に関わる仕事を希望する子供達は専門的に学ぶ必要があり、現在の体系を変更する必要はないと思う。	県教育委員会としましては海洋県、島嶼県という本県の特徴を踏まえ、本県海運業界等への人材育成等の役割については重要視しております。 今後も海技従事者育成については、その機能は維持されます。
63	P7		

<p>南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕</p>	<p>総合選択制とすることで、船員を目指す生徒に集中して授業を受けさせてあげられなくなる。</p> <p>船は、陸と離れた団体生活であるので、同じ目的のある生徒同士で授業をしてほしい。</p> <p>沖縄海上技術学校（商船）がなくなった今、沖縄水産高校（漁業）は国家資格を取得できる県内唯一の海事教育機関である。</p> <p>名前を変えることによって、生徒の船員としての意識低下や、船員不足に追い打ちをかけることになる。</p> <p>現在の体系を変えることによって、船員不足、学力、技術力低下につながる恐れがある。</p> <p>よって、統合は反対であり、沖縄水産高校の継続を強く願います。</p>	<p>総合選択制は専門学科の特色や専門性は保持しながら、生徒の希望に応じて他学科の教科、科目を履修することができるシステムです。生徒が現海洋技術科の教科、科目のみの履修を希望すれば従来の教育課程と何ら変化はありません。</p> <p>学科やコースにより必要に応じ在籍生徒に対して必履修科目等を設定すれば、その特色は損なわれるものではないと考えます。</p>
<p>64 P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕</p>	<p>海運業界としては、統合に反対です。</p> <p>統合により、海運業希望者の減少が危惧され、海運業衰退の一因となるのではないかと。</p> <p>船員減少の歯止め、海運業強化維持のために、統合に反対します</p>	<p>県教育委員会としましては海洋県、島嶼県という本県の特色を踏まえ、本県海運業界等への人材育成等の役割については重要視しております。</p> <p>今後も海技従事者育成については、その機能は維持されます。</p> <p>学校統合に関しましては、南部地区の少子化への対応と南部工業高校の小規模化の解消が喫緊の課題となっており、早急な対応が必要になり、その現状を踏まえ新たな計画を策定しなければならないと考えます。</p>
<p>65 P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕</p>	<p>南部工業高校と沖縄水産高校との統合に反対です。</p> <p>沖縄と海は切っても切れない関係です。</p> <p>先人たちは大海原を渡り、世界の国々と交易を行い「万国津梁の邦」として栄えました。</p> <p>そのDNAを引き継がせていく役目が沖縄水産高校にあると思います。</p> <p>南部総合実業高校への統合では沖縄水産というブランド消え、明確な夢や希望を持った生徒の減少や、将来的に指導者不足に陥らないか心配です。</p>	<p>県教育委員会としましては海洋県、島嶼県という本県の特色を踏まえ、本県海運業界等への人材育成等の役割については重要視しております。</p> <p>総合選択制は専門学科の特色や専門性は保持しながら、生徒の希望に応じて他学科の教科、科目を履修することができるシステムです。生徒が現海洋技術科の教科、科目のみの履修を希望すれば従来の教育課程と何ら変化はありません。</p> <p>したがって、今後も海技従事者育成については、その機能は維</p>

		<p>海に関わる人材の減少は、沖縄県存続の危機と言えるのではないでしょう うか。</p> <p>今後は更に沖縄水産高校と海の仕事をアピールし、海を守り育てていく 人材の育成が必要だと思えます。</p>	<p>持されます。</p> <p>学科やコースにより必要に応じ在籍生徒に対して必履修科目等を設 定すれば、その特色は損なわれるものではないと考えます。</p> <p>学校統合に関しましては、南部地区の少子化への対応と南部工業高 校の小規模化の解消が喫緊の課題となっており、早急な対応が必要に なり、その現状を踏まえ新たな計画を策定しなければならないと考え ます。</p> <p>校名については、実施計画策定後に「校名検討委員会」を発足さ せ、変更の有無も含めて議論することになります。</p>
66	<p>P7</p> <p>南部工業高等学校と沖縄 水産高等学校の統合〔南 部総合実業高等学校（仮 称）〕</p>	<p>沖縄水産高校と南部工業高校との統合に反対致します。</p> <p>海運業を営む当社としては、優秀な海員の育成教育機関である沖縄水産 が名称だけでも消滅するには大きな危機感を感じます。</p> <p>海技技術教育の機能は残るとしても総合選択制になると学力や技術力の 低下は時間の問題になり、将来的に海に関する産業の衰退につながるの ではないかと思えます。</p> <p>沖縄水産は、海洋県としての沖縄の特色をも表す、特別にブランド化さ れた沖縄の最後に残された海員養成学校だと思えます。</p> <p>どうしても統合が必要ならば、沖縄水産の現在地に南部工業を統合し て、「沖縄水産実業高校」などとしてはいかがでしょうか。</p>	<p>県教育委員会としましては海洋県、島嶼県という本県の特色を踏ま え、本県海運業界等への人材育成等の役割については重要視しており ます。</p> <p>総合選択制は専門学科の特色や専門性は保持しながら、生徒の希望 に応じて他学科の教科、科目を履修することができるシステムです。 生徒が現海洋技術科の教科、科目のみの履修を希望すれば従来の教育 課程と何ら変化はありません。</p> <p>したがって、今後も海技従事者育成については、その機能は維 持されます。</p> <p>学科やコースにより必要に応じ在籍生徒に対して必履修科目等を設 定すれば、その特色は損なわれるものではないと考えます。</p> <p>学校統合に関しましては、南部地区の少子化への対応と南部工業高 校の小規模化の解消が喫緊の課題となっており、早急な対応が必要に なり、その現状を踏まえ新たな計画を策定しなければならないと考え ます。</p> <p>校名については、実施計画策定後に「校名検討委員会」を発足さ せ、変更の有無も含めて議論することになります。</p>
67	P7		

南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕

今回の編成整備実施計画の左記の項目について

①校名について

沖縄県は島嶼県であり、その島嶼県における船舶の果たす役割及び船員の存在は重要であることは周知のことと思いますが、その船舶を運航している船員は本校の卒業生が殆どであるということもご存じであると思います。この様に沖縄県の離島の生活を支えている卒業生は沖縄水産高等学校が誇りであるのです。沖縄水産高等学校は110周年を迎えます。この110年の間多くの卒業生を日本の海運界、水産界に輩出してきました。私たち沖縄水産高等学校の教員も多くの卒業生に負けない沖縄水産高校の卒業生として恥ずかしくないようにという思いで日々教育活動に従事してきました。沖縄水産高等学校の校名を変えるということは沖縄県から水産業をなくすことになるということを考えてみて下さい。「沖縄水産高校の校名を変えても水産業がなくなるなんてならないよ。」と考えが浅はかな人はいませんが、看板のない何をしているか分からない学校にどうして中学生が集まってくるのか？人が集まらなくなればその教育は後退していきます。教育が後退すれば人材は育ちません。人材が育たなくなれば産業は衰退していきます。今年の3年海洋技術科の卒業生は70%が海洋・水産系の会社に就職しています。どうか伝統ある私たちの御旗を降ろすような事は止めていただきたい。

②海洋技術科の水産学科の編入について

海洋技術科は単科で残して下さい。全国の専攻科のある水産・海洋系の高等学校を調べたら、殆どの学校が船舶系は単科で残しています。福岡と千葉・山口の水産高校は大学科の中に入っているだけで殆どが単科で残っています。福岡・千葉・山口は専攻科の人数も少なく専攻科としても良くない状況です。本校の海技科は企業からの評判もとても良い状況です。東京の大手企業からも求人が来る状況です。海洋技術科は同じ水産系の系列とは異なります。これは大学の水産教育でもしかりで、船に乗るということは集団行動が基本となるため他の水産系の系列とは同じに取り扱えません。これを同じ科の中に入れてしまうと生徒・及び職員間でも歪みが生じます。このことは全国の水産教育に携わっている人はよく知っていること

100年余の歴史のある学校として県内は元より県外での知名度や、部活動の活躍等についても特筆すべき学校であると考えております。

「南部総合実業高等学校（仮称）」と表記したことについては、現行の編成整備計画の継続であることと統合後に大規模な学科改編が予想されることからそのような名称になっております。

学校名については、実施計画策定後に「校名検討委員会」を発足させ、変更の有無も含めて議論することになります。

総合選択制は専門学科の特色や専門性は保持しながら、生徒の希望に応じて他学科の教科、科目を履修することができるシステムです。生徒が現海洋技術科の教科、科目のみの履修を希望すれば従来の教育課程と何ら変化はありません。

したがって、今後も海技従事者育成については、その機能は維持されます。

また、学科やコースにより資格取得等必要に応じ在籍生徒に対して必修科目等を設定すれば、その特色は損なわれるものではないと考えます。

学科の編成や、教育課程については今後学校との調整が必要になってくると考えます。

です。商船高専などは集団行動を基本とするため寮生活です。かつては商船大学や水産系の大学でも寮生活をしてきたという話を聞きます。海洋技術科は船舶養成施設で法的に取得しなければならない単位数が決まっています。ですから総合選択制にすることは無理です。水産科に組み入れる意味が分かりません。業界もPTAも同窓会も教員も元校長先生方もみんな反対していますので是非海洋技術科の存続をお願いします。ここで道を誤ったら沖縄県の海運業界の後退につながります。お願いします

68 P7

南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕

沖縄水産と南部工業の統合に反対する者の1人である。
教育委員会は10年に1度の編成整備計画年だからと事を急ぎ過ぎてはいないだろうか？
少子化は沖縄全体に当てはまることであり、今後も早々に他校においても統合計画が持ち上がることは間違いないと思うのだが。
懇話会もはたして機能しているのだろうか？県民を納得させるための演技にしか見えない。
まず1年の仕切り直しを要望する。
沖縄水産校長の行動が摩訶不思議である。
教育委員会からの素案についての教職員に対する説明や、校長私案に対する職員会議を1/28学校説明会の前日まで1度も開かない。
教育委員会からのPTA会長、同窓会長あての公文書が全く届かない。そして学校管理規則にある学校評議員への意見を聞くこともなく自分勝手に統合整備計画私案を押し進めていると聞く。
調査を切にお願いしたい。
学科編成の権限は校長にあると真和志高や今回の沖水での説明会で聞き尚更不安が広がる。
沖水高は今年108周年をむかえる。
行政とは歴史、伝統ある校名は残す為の努力をするものだと思っていたのだが何故消す為の努力をするのだろうか。
沖水は戦前、戦後と幾多の苦難を乗り越えて、今発祥の地糸満にっか

今回の編成整備計画策定については、現行の編成整備計画の総括から本県教育の課題についての解決策について提案させていただいたものです。

ご指摘のとおり、少子化の問題等も議論の一つに上がったものであり、今後もその議論は必要になるものと考えております。

「県立高等学校編成整備に関する懇話会」は、中・高校長会代表者、保護者代表者（PTA）、市町村の教育委員会代表者、経済界代表者、学識経験者など計8名で構成されており、各界から公正で幅広い意見を頂いております。

校長の行動については、本編成整備実施計画（案）との関連性は薄いと判断しますのでコメントは控えさせていただきます。

100年余の歴史のある学校として県内は元より県外での知名度や、部活動の活躍等についても特筆すべき学校であると考えております。

「南部総合実業高等学校（仮称）」と表記したことについては、現行の編成整備計画の継続であることと統合後に大規模な学科改編が予想されることからそのような名称になっております。

学校名については、実施計画策定後に「校名検討委員会」を発足させ、変更の有無も含めて議論することになります。

総合選択制は専門学科の特色や専門性は保持しながら、生徒の希望に応じて他学科の教科、科目を履修することができるシステムです。

りと根を下ろしている。

歴史・伝統が継承されず衰退の一途をたどっているあれば校名が消え去る運命も仕方がない。

しかし、今の沖水は先輩たちが築いた歴史・伝統をしっかり守り、尚且つ歴史のページを積み重ね新しい伝統を創り上げているのではないか。

特に海洋技術科は商船大学をも驚かす海技士免許の取得を誇るとともに6年連続の就職率も達成している。

離島を数多く有する沖縄県に、ただ1校だけの沖縄水産高校がある。

水産という校名が消えた場合、今後どのような弊害が生じるかは宮古水産高の統合や海技専門学校の廃校で十分な資料が得られているはずである。

簡単に説明すると船を動かす船員（船長、機関長、甲板部、機関部等）の成り手が減少し、いずれは衰退し消えていくと思われる。

整備計画案においては水産科、総合学科、工業科の総合選択制とあるが沖縄県下において工業高は多数あり、沖水に工業科は必要無し。

無理やり、統合をすれば定員割れをおこすことはあきらかであり、職員同士の不協和音、目的意識をもって入学した生徒の集中力の欠如等の問題が生じることもあきらかである。

学科編成を押し進めるのであれば、むしろ海洋技術科、水産科、総合学科としてそれぞれの科を競わせて底辺の拡大を目指す教育方針が得策だと思うのだが、どうだろうか。

今、船舶関係の人員不足が深刻と聞く。海洋技術科の定員増についても議論する必要があるのではないか。

教育委員会の皆様の良識ある判断を願う。

生徒が現海洋技術科の教科、科目のみの履修を希望すれば従来の教育課程と何ら変化はありません。

したがって、今後も海技従事者育成については、その機能は維持されます。

また、学科やコースにより資格取得等必要に応じ在籍生徒に対して必修科目等を設定すれば、その特色は損なわれるものではないと考えます。

学科の編成や、教育課程については今後学校との調整が必要になってくると考えます。

海洋技術科の定員増については、ご指摘のとおり中学生や保護者のニーズ等について今後精査し議論を重ねる必要があると考えます。

69 P7
 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕

今回の南部工業との統合においては断固反対である。

反対する理由として

①沖水は、県内唯一の水産高校であり統合すれば、専門性が失われ、人材育成が後退することが懸念される。

総合選択制は専門学科の特色や専門性は保持しながら、生徒の希望に応じて他学科の教科、科目を履修することができるシステムです。

	<p>②統合理由に、水産系機関と水産系通信と工業系電子電気が類似している とありますが、私は機関科の卒業ですが教育課程上全く違う分野である ため、南部工業は沖縄工業との合併がベターである。</p> <p>③南部地区の少子化に対応しなければならないとありますが、沖水は全県 一校であり、一部地域の問題ではない。</p> <p>④沖水の海技士免許の合格率は高く全国的に評価を受けており、卒業後の 就職にも有利に働いています。統合して更に校名変更までしてメリット があるとは思えない。</p> <p>⑤再編計画の、総合選択制導入により、生徒の士気が低下し、海技免許合 格者が減り、県内離島の職員確保が困難になる。</p> <p>⑥懇話会委員のメンバーに水産関係、工業関係の専門家がいないのは審議 不十分であると思いますので、白紙撤回して、ゼロからスタートしたほ うが望ましい。 以上、再審議を望む。</p>	<p>生徒が現海洋技術科の教科、科目のみの履修を希望すれば従来の教育 課程と何ら変化はありません。</p> <p>したがって、今後も海技従事者育成については、その機能は維 持されます。</p> <p>また、学科やコースにより資格取得等必要に応じ在籍生徒に対して 必修科目等を設定すれば、その特色は損なわれるものではないと考 えます。</p> <p>学校統合に関しましては、南部地区の少子化への対応と南部工業高 校の小規模化の解消が喫緊の課題となっており、早急な対応が必要に なり、その現状を踏まえ新たな計画を策定しなければならないと考 えます。</p> <p>南部工業高校と他工業高校との統合については、地区ごとの工業 ニーズに対応することと学科の割合等の課題があるため実現は厳しい と考えます。</p> <p>少子化の問題等も議論の一つに上がったものであり、今後もその議論 は必要になるものと考えております。</p> <p>「県立高等学校編成整備に関する懇話会」は、中・高校長会代表 者、保護者代表者（PTA）、市町村の教育委員会代表者、経済界代表 者、学識経験者など計8名で構成されており、各界から公正で幅広い意 見を頂いております。</p> <p>学校名については、実施計画策定後に「校名検討委員会」を発足さ せ、変更の有無も含めて議論することになります。「南部総合実業高 等学校（仮称）」と表記したことについては、現行の編成整備計画の 継続であることと統合後に大規模な学科改編が予想されることからそ のような名称になっております。</p>
<p>70 P7 南部工業高等学校と沖縄 水産高等学校の統合〔南 部総合実業高等学校（仮</p>	<p>1 沖縄水産高校校名の存続を要望する。 ①歴史ある校名をたやすく無くする事に強く反対の意表す。 ②沖縄水産の校名は県内外何処でも知られた誇れる母校だ！！</p>	<p>学校名については、実施計画策定後に「校名検討委員会」を発足さ せ、変更の有無も含めて議論することになります。「南部総合実業高 等学校（仮称）」と表記したことについては、現行の編成整備計画の</p>

称)]	<p>③校名が無くなると人生に空白の部が出来無念に思う。</p> <p>2 「海容技術科」の存続を要望する。</p> <p>①国立海技学校の廃校により海技免状取得者の養成の必要性を感じる。</p> <p>②沖縄県は離島県であり船舶の運航上技術者の育成を要する。</p> <p>③工業技術科を新たに併設する事の可能性？</p>	<p>継続であることと統合後に大規模な学科改編が予想されることからそのような名称になっております。</p> <p>学科の編成や、教育課程については今後学校との調整が必要になってくると考えます。</p>
71 P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕	<p>南部地区の少子化対策として、南部工業と沖縄水産の統合が挙げられていますが、平成24年度高校入試初回志願状況から見てみると、豊見城南と南部商業の空き定員が大きいようです。</p> <p>入試倍率1倍を超える学校同士を統合してマンモス化するより、1倍を割っている学校をどうにか県がサポートして魅力ある学校にするのが先のように思えます。</p> <p>県の財政に余裕が無いのであれば、クラス減も仕方ないように思います。 以上よろしくお願ひします。</p>	<p>教育委員会としましては、定員割れを起こしている学校については、魅力ある学校づくりについて指導・助言、人的支援等を行っております。</p> <p>クラス減につきましては、通常の数管理において計画し、やむを得ない場合に実施しております。</p> <p>個別の学校についてのご意見につきましては、今後の学校指導等に生かしてまいりたいと考えます。</p>
72 P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕	<p>1 「沖縄水産高校」校名の存続を要望します。</p> <p>○母校が有名であることは卒業生にとってとても誇りであり、県内外へ就職する際に沖縄水産の名に恥じぬよう頑張るという自信、やる気になるので校名を存続するよう希望します。</p> <p>2 「海洋技術科」の存続を要望します。</p> <p>○若い船員が少なくなり、即戦力となる人材が必要とされる現状で「総合選択制」という「広く浅く学ぶ」というのは就職率の低下や船員の質の低下となる恐れがあるので「海洋技術科」の存続を希望します。</p>	<p>学校名については、実施計画策定後に「校名検討委員会」を発足させ、変更の有無も含めて議論することになります。「南部総合実業高等学校（仮称）」と表記したことについては、現行の編成整備計画の継続であることと統合後に大規模な学科改編が予想されることからそのような名称になっております。</p> <p>学科の編成や、教育課程については今後学校との調整が必要になってくると考えます。</p>
73 P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕	<p>沖縄水産という校名は全国的に高校野球で知れわたっており、ぜひ校名を残してほしい。</p> <p>又、海洋技術科という専門科が無くなればその道に進む生徒たちが県外</p>	<p>100年余の歴史のある学校として県内は元より県外での知名度や、部活動の活躍等についても特筆すべき学校であると考えております。</p> <p>「南部総合実業高等学校（仮称）」と表記したことについては、現</p>

<p>称)]</p>	<p>へ行くことになり金銭面でも負担が大きくなるので統合に反対である。</p>	<p>行の編成整備計画の継続であることと統合後に大規模な学科改編が予想されることからそのような名称になっております。</p> <p>学校名については、実施計画策定後に「校名検討委員会」を発足させ、変更の有無も含めて議論することになります。</p> <p>総合選択制は専門学科の特色や専門性は保持しながら、生徒の希望に応じて他学科の教科、科目を履修することができるシステムです。生徒が現海洋技術科の教科、科目のみの履修を希望すれば従来の教育課程と何ら変化はありません。</p> <p>したがって、今後も海技従事者育成については、その機能は維持されます。</p> <p>学科の編成や、教育課程については今後学校との調整が必要になってくると考えます。</p>
<p>74 P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕</p>	<p>南部総合実業高校となり、統合することにより、将来専門職である船員の確保、また5級海技士の認定から外される恐れがあることから統合に反対します。</p>	<p>総合選択制は専門学科の特色や専門性は保持しながら、生徒の希望に応じて他学科の教科、科目を履修することができるシステムです。生徒が現海洋技術科の教科、科目のみの履修を希望すれば従来の教育課程と何ら変化はありません。</p> <p>したがって、今後も海技従事者育成については、その機能は維持されます。</p>
<p>75 P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕</p>	<p>「沖縄水産高校」校名の存続を要望する。</p> <p>※（船のスペシャリスト）の育成に貢献実績のある校名に総合選択制高校の計画には断じて反対であり、島嶼型海洋県である以上本高校の伝統を継続すべきと強く望みます。</p> <p>「海洋技術科」の存続を要望する</p> <p>※（船のスペシャリスト）を目指して進学する生徒と総合選択制とすることで生徒には目的意識が全然違うことにより、学力・技術力の取得に低下が見え、支障をきたすものと懸念する。又、「総合選択制」の（広く</p>	<p>「南部総合実業高等学校（仮称）」と表記したことについては、現行の編成整備計画の継続であることと統合後に大規模な学科改編が予想されることからそのような名称になっております。</p> <p>学校名については、実施計画策定後に「校名検討委員会」を発足させ、変更の有無も含めて議論することになります。</p> <p>総合選択制は専門学科の特色や専門性は保持しながら、生徒の希望に応じて他学科の教科、科目を履修することができるシステムです。</p>

		<p>浅く) 学ぶ過程は望んでない。</p>	<p>生徒が現海洋技術科の教科、科目のみの履修を希望すれば従来の教育課程と何ら変化はありません。</p> <p>したがって、今後も海技従事者育成については、その機能は維持されます。</p>
76	P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校(仮称)〕	<p>南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合に反対です。</p> <p>理由は、沖縄は海に囲まれ、かつ離島が数多くあり、今後も更に高い技術を持った海技技術者が必要です。</p> <p>統合により、学力や意識の低下が危惧されます。</p> <p>東亜運輸は多くの沖縄水産高等学校の卒業生がおり、高い技術と意識で、台風等の多い沖縄で、弊社の安全輸送を実現しています。</p> <p>沖縄のエネルギーの安全輸送・安定供給の為、今まで通りの熱心な沖縄水産高等学校の教育指導をお願いします。</p>	<p>県教育委員会としましては海洋県、島嶼県という本県の特徴を踏まえ、本県海運業界等への人材育成等の役割については重要視しております。</p> <p>今後も海技従事者育成については、その機能は維持されます。</p>
77	P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校(仮称)〕	<p>私は開洋高校を昭和29年に卒業、昭和33年に大学を卒業し、母校に昭和40年～平成7年度まで漁業専攻科、本科教員として後輩の人材育成に全力を尽くしてまいりました。</p> <p>今回の県立高校編成整備計画によると、1. 校名変更、2. 学科改編ということですが反対致します。</p> <p>1. については創基100年余の伝統ある学校名であります。私が勤務時期にも校名変更の議論がありましたが、結果として沖縄水産という校名を残した方が県の水産振興に寄与する人材育成した誇りがあります。</p> <p>2. 全国でも数校ある県では1校に集約した例はあります。とくに海洋技術科は本科3年、専攻科2年という教育課程の編成で国土交通省の認定を受けており、総合選択制を採用した場合国交省の認定を受けられなくなると本科・専攻科の設置意義がなくなり、ひいては県の水産・海運業も人材不足になり県業界も衰退する可能性は大と言わざるを得ない。</p> <p>そこで県は水産・海運業発展のためにバックアップすべきではなからう</p>	<p>100年余の歴史のある学校として県内は元より県外での知名度や、部活動の活躍等についても特筆すべき学校であると考えております。</p> <p>「南部総合実業高等学校(仮称)」と表記したことについては、現行の編成整備計画の継続であることと統合後に大規模な学科改編が予想されることからそのような名称になっております。</p> <p>学校名については、実施計画策定後に「校名検討委員会」を発足させ、変更の有無も含めて議論することになります。</p> <p>海技士資格取得認定については、コースの教育課程がその条件となりますので、総合選択制による影響はないものと考えます。</p> <p>学科の編成や、教育課程については今後学校との調整が必要になってくると考えます。</p> <p>教育委員会としましては、今後とも有為な海技従事者育成のための高等学校として、必要な支援は継続してまいります。</p>

		か。是非とも再検討すべきと考えます。	
78	P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕	沖縄は、漁業の盛んな県であるので統合は人材育成に悪影響であると思 う。	総合選択制は専門学科の特色や専門性は保持しながら、生徒の希望 に応じて他学科の教科、科目を履修することができるシステムです。 生徒が現海洋技術科の教科、科目のみの履修を希望すれば従来の教育 課程と何ら変化はありません。 したがって、今後も海技従事者育成については、その機能は維 持されます。
79	P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕	自分がかよっていた学校なのでなくさないでほしい。	「南部総合実業高等学校（仮称）」と表記したことについては、現 行の編成整備計画の継続であることと統合後に大規模な学科改編が予 想されることからそのような名称になっております。 学校名については、実施計画策定後に「校名検討委員会」を発足さ せ、変更の有無も含めて議論することになります。
80	P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕	整備計画では、南部総合実業高校（仮称）とあるが、伝統ある水産高校 での勉学が今まで通り実践されるとは思えない。子供等、親達の夢をうば わないでほしい。	総合選択制は専門学科の特色や専門性は保持しながら、生徒の希望 に応じて他学科の教科、科目を履修することができるシステムです。 生徒が現海洋技術科の教科、科目のみの履修を希望すれば従来の教育 課程と何ら変化はありません。 したがって、今後も海技従事者育成については、その機能は維 持されます。
81	P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕	1. 「沖縄水産高校」校名の存続を強く要望します。 甲子園2年連続準優勝の功績は県外企業の方達の中で未だ記憶に強 く残っており、生徒の就職において大きく貢献していることから、伝統 ある校名を変更することは断じて反対である。	100年余の歴史のある学校として県内は元より県外での知名度や、部 活動の活躍等についても特筆すべき学校であると考えております。 学校名については、実施計画策定後に「校名検討委員会」を発足さ せ、変更の有無も含めて議論することになります。

	<p>また、在校生や卒業生は校名に誇りを持っている。</p> <p>2. 「海洋技術科」の存続を強く要望します。</p> <p>「海洋技術科は18年目を迎え「船のスペシャリスト」を育成する学科として実績を残し「看板」となっている。</p> <p>海洋技術科と専攻科で一貫教育を行っており、沖縄県で唯一国土交通省の認定を受けている。</p> <p>また、就職先ニーズは、専門高校に対して即戦力つまり、スペシャリスト育成を教育現場に望んでおり「総合選択制」の「広く浅く」学ぶシステムは望んでいない。</p> <p>「沖縄水産高校」と南部工業高校の統合は反対です。</p>	<p>海技士資格取得認定については、コースの教育課程がその条件となりますので、総合選択制による影響はないものと考えます。</p> <p>学科の編成や、教育課程については今後学校との調整が必要になってくると考えます。</p> <p>学校統合に関しましては、南部地区の少子化への対応と南部工業高校の小規模化の解消が喫緊の課題となっており、早急な対応が必要になり、その現状を踏まえ新たな計画を策定しなければならないと考えます。</p>
<p>82 P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕</p>	<p>1月末ころ、県立高等学校の編成整備計画のニュースが流れ、その計画の中に我が母校の沖縄水産高校（沖水高）も含まれ南部工業高校と統合する案であった。</p> <p>私自身大変ショックを受けました。</p> <p>学校運営の効率化を図るためなら伝統ある学校を意図も簡単に統合を進め校名を変更していいのか疑問に思うのである。</p> <p>私は統合には反対します。</p> <p>沖水高の魅力は何といっても他の高等学校では学ぶことができない「海や船」に関する教育を受けられる学校であり、生徒は世界の海を股に掛けることにあこがれ、大きな夢と希望を抱きながら門をくぐるのです。</p> <p>卒業後は県内の水産業会、海運業界で活躍され、沖縄県の経済発展にも大きく貢献し、これからも水産業界等を支えて行く使命があります。</p> <p>そのためには、後継者の育成が必要不可欠であると考えています。</p> <p>生徒達がのびのびと勉学に励める環境作りが大切であり、統合により将来沖水高の教育そのものが疎かになり埋没してしまい優秀なる人材が育つのか危惧するところです。</p> <p>南部工業は工業高校どうして統合を進めるべきではないかと思えます。</p> <p>十数年前に統合した宮古水産高校OBの話では、統合により水産高の特色</p>	<p>100年余の歴史のある学校として県内は元より県外での知名度や、部活動の活躍等についても特筆すべき学校であると考えております。</p> <p>学校名については、実施計画策定後に「校名検討委員会」を発足させ、変更の有無も含めて議論することになります。</p> <p>学校統合に関しましては、南部地区の少子化への対応と南部工業高校の小規模化の解消が喫緊の課題となっており、早急な対応が必要になり、その現状を踏まえ新たな計画を策定しなければならないと考えます。</p> <p>南部工業高校と他工業高校との統合については、地区ごとの工業ニーズに対応することと学科の割合等の課題があるため実現は難しいと考えます。</p>

よさがなくなった。と聞いています。

なので今後の沖水高も同じ結果に繋がるのではと心配しています。もしかりに統合案が決定された場合には校名変更にも反対します。

ご承知のとおり、沖水高は高校野球においては夏の甲子園大会2年連続準優勝する輝かしい成績をのこし、全国に知名度があり、野球ファンも多く、また地域からも愛され親しまれている学校であります。

このことから生徒の就職活動においても沖水高出身ということで有利に働いていることもあると聞いていますし、今後の生徒達の就職活動を考えた場合に校名は沖水高として残しておくべきであると思います。

83 P7

南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕

「沖縄水産高校の校名変更と海洋技術科の廃止、総合選択制導入に反対する」

沖縄水産高校といえば、高校野球甲子園球場における2年連続の準優勝高校として全国にその名を知らしめた沖縄県を代表する高校である。野球ばかりではない。四面を海に囲まれた沖縄県の代表的な産業である水産業、増養殖業、海運業はもちろんのこと、通信産業界にもこれまでに多くの人材を送り出してきた創立108周年にならんとする名門校である。あの夏の純白の制帽には男子なら一度や二度は憧れたはずである。

沖縄水産高校を南部総合実業高校（仮称）に統合するという計画に私は断固反対する。県教育庁の推奨するように、統合後に実施される総合選択制は学ぶ側からすれば浅い科目履修となり、専門性の高い船長、機関長、航海士のようなスペシャリストを養成する社会的使命に対応できなくなる。本校は水産業界をはじめ海運業界にも多くの人材を輩出しており、なかでも専攻科（漁業科・機関科）修了生は7年連続就職内定率100%、後継者育成率100%、過去3ヵ年定着率95%という大きな実績を残している。もし、統合されることにでもなれば国土交通省の認定校から外され、海運業界の期待を担っている専攻科（漁業科・機関科）の存続も危惧されることになる。

統合案は本校が築き上げてきた伝統と実績を根底から崩してしまうもの

100年余の歴史のある学校として県内は元より県外での知名度や、部活動の活躍等についても特筆すべき学校であると考えております。

総合選択制は専門学科の特色や専門性は保持しながら、生徒の希望に応じて他学科の教科、科目を履修することができるシステムです。生徒が現海洋技術科の教科、科目のみの履修を希望すれば従来の教育課程と何ら変化はありません。

したがいまして、今後も海技従事者育成については、その機能は維持されます。

県教育委員会としましては海洋県、島嶼県という本県の特色を踏まえ、本県海運業界等への人材育成等の役割については重要視しております。

校長の行動については、本編成整備実施計画（案）との関連性は薄いと判断しますのでコメントは控えさせていただきます。

海邦丸についてのご意見は、その活用方について今後の参考にさせていただきます。

である。まさに、若者たちの希望と期待を踏みにじるものである。それはまた沖縄県の水産業、海運業をはじめとする産業界の衰退へと繋がりがねない危険性をはらんでいる。

本校の現場教師によれば、校長のみが統合案に同意しているということだ。校長はこの重大な事案をPTAや同窓会はもとより、卒業生の受け入れ先である産業界にも一切知らせることなく恣意的、秘密裏に事を進めているということである。教育現場の最高責任者として職務の怠慢である。本校で学ぶ多くの生徒のみならず、伝統・実績を築いてこられた卒業生や水産・海運そしてスポーツの分野に情熱を注いできた多くの教職員の努力をないがしろにするものである。私は現高校長がはたして適格者かどうかの査定をも沖縄県教育委員会へ要求する。

実習船「海邦丸」の維持に予算がかかるというならば他の機関、たとえば琉球大学、沖縄科学技術大学院大学、県水産試験場との共同利用も考えられる。また、他県水産高校、東南アジア学生の受け入れ等にその門戸を開放してよりグローバルに利用すれば活路は開ける。

沖縄県の若者たちに夢と希望を与えるのが教育の大きな目標である。行政は教育の大本に立ち返って、沖縄水産高校のさらなる発展に尽力すべきと考える。

84 P7
南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕

沖縄県高等学校水産教育研究会会員のアンケート調査した意見をそれぞれの意見として述べます。

<南部工業との統合について>

- ・今度の再編統合は統合する理由がない。十分に定員は満たしている。工業系であれば機関コースがすでに存在し、生徒のニーズも満たしている、また統合によるメリットは水産にはなにもない。
- ・定員を満たしており、統合する理由がない。もし統合するとしても現在の6クラス（240名）にプラス2クラスの8クラスとなると定員を満たしきれぬか問題である。
- ・何もメリットもない。統合してもまったく無意味だと思う。

学校統合に関しましては、南部地区の少子化への対応と南部工業高校の小規模化の解消が喫緊の課題となっており、早急な対応が必要になり、その現状を踏まえ新たな計画を策定しなければならないと考えます。

学校統合は、生徒の増による学校の活性化と生徒にとってより良い学習環境の整備を念頭に策定、実施しております。

学校の教育活動全体が活性化することで、それぞれの学科の充実も図られるものと考えます。

- ・県内に1校しかない水産高校をなくすべきではない。
- ・定員を満たしている沖水と統合する意味がわからない。南部商業と南部工業が統合すべきでは。南農と南工の統合が地域・関係団体から理解が得られずにできなかったことが、沖水と南工でできるのか？納得させられる理由があるのか。
- ・現在沖縄水産高等学校は定員を満たしこれから益々良くなる状況が見込まれる今どうして南部工業と合併しなければならないのか？
- ・南部工業が2クラス来ることにより生徒指導上大変困難な状況が見込まれる。沖縄水産高等学校としては今の1学年240名が最大の許容範囲である。
- ・統合の意図がわからない。県の計画による統合や水産学科立案の経緯、メリット・デメリットがはっきりしない。

<校名変更について>

- ・全国的に有名であるためその校名をわざわざ変更する意図が解らない。
- ・県内唯一の水産高校として歴史と伝統、功績もあり、定員も1倍以上あり、地域のニーズもある。校名変更して得られるメリットは何もない。
- ・沖縄では名門だと思う。「水産」という響きでインパクトが強いと思う
- ・統合される南部工業が総合学科に入れば、わざわざ校名を変える必要はないのでは。水産という校名は県に1校のみ（農業4校、工業7校、商業5校、商工2校）沖縄県に水産業は不要なのか？・商、工、農の校名は残しているのに水産高校は消してしまうというのは水産蔑視の現れである。
- ・校名変更をしてしまうと県内に「水産」がなくなり、これまでのネームバリューが消えてしまうのが残念である。統合するしかない場合、沖縄水産よりもインパクトのある名前にしてほしい。「水産」という言葉は沖縄県から消さないでほしい。

<総合選択制について>

- ・水産の専門教科は標準単位数も多いので、それ以外の科目は少なくしたいので、反対である
- ・専門知識は3年間かけて技術とともに学びえていくもので好みの教科を

南部工業高校の部活動の活性化については、小規模校ながら学校の特色を活かし、実績等特筆すべきものがあると考えております。

統合により、両校の特色ある部活動がさらに発展するものと考えます。

100年余の歴史のある学校として県内は元より県外での知名度や、部活動の活躍等についても特筆すべき学校であると考えております。

学校名については、実施計画策定後に「校名検討委員会」を発足させ、変更の有無も含めて議論することになります。

総合選択制は専門学科の特色や専門性は保持しながら、生徒の希望に応じて他学科の教科、科目を履修することができるシステムです。生徒が現海洋技術科の教科、科目のみの履修を希望すれば従来の教育課程と何ら変化はありません。

また、学科やコースにより資格取得等必要に応じ在籍生徒に対して必修科目等を設定すれば、その特色は損なわれるものではないと考えます。

したがって、今後も海技従事者育成については、その機能は維持されます。

学科や教育課程の編成については、今後学校との調整が必要になります。

自由に選択できるようになると、将来産業人として必要な知識や技術が身に付かないまま社会に出ていくことになる・ただの学力低下になるだけと思う

- ・水産教育の独自性がなくなる
- ・自由に選択させてしまうと、途中で迷いが出てしまいきちんと学べず、浅い学びになり、学力低下につながる恐れがある。国家資格の認定や専攻科進学へ悪影響がでないか心配である。
- ・沖水は現状で定員を満たしているため、総合学科+海洋科の未来がわかりやすいし、運営しやすいのでは？
- ・柱である海洋科を独立させておいてほしい・導入による現在の学習水準の低下がどの程度になるか、認定に与える影響等予想の範囲ではわからない。具体的に委員会を設置して検証すべきである。

<その他の意見>

- ・宮古でも編成整備計画で食品科学科が減少の予定になった。これ以上県内で水産教育の場が少なくならないよう、県には配慮をお願いしたい。
- ・沖水はこの重要案件について職員会議等を開き、職員納得のもと話が進められているのか疑問である。
- ・必要のない合併と校名変更はどこから話が出てきたのか？地域も職員もOBも、業界も望んでいないこの案件の真意を知りたい。もし、これが沖水高の校長の独断専行であるならば、水産教育の縮小につながり兼ねないだけに校長の独断は水産教育研究会、産業界に対する重大な背信行為である。
- ・何も手をつけずそのままの沖水で良くして行くことを考えていくべきだと思う。沖縄県に唯一、水産の名を持つ学校として変えてはいけない。総合選択制も無意味なこと、沖縄県の水産業界の将来の担い手が減少していただくと思う。
- ・総合選択だと専攻科が危なくなる。海洋は単独でその他の科は今までのように選択で。
- ・水産教育を県内で唯一受けることができ、船舶職員を養成できる教育機関を絶対になくしてはいけない。沖縄県にとって海はすべての面におい

て重要であり、この海を守り、海を舞台に活躍する担い手を増やしていかなければ将来が危ないと思う。水産教育はこれからも重要な役割を担っていくと考えている。

- ・本科に限らず専門高校の位置付けを県として見直されないと、各専門分野の人材不足、費用対効果、予算等の問題が山積みではないだろうか。
- ・水産系でひとつの学科にまとめることには反対です。今回の再編統合について意見を宮古総実の先生にもアンケート調査で求めましたが再編に賛成する先生はいませんでした。もっと沖縄県は水産・海洋というものを大切にしてほしいということです。工業は他にも8校もあるのです。水産がその工業の犠牲になることはあってはならないことです。同窓会も反対・PTAも反対・業界も反対・地域も反対・教員も反対・水産教育研究会の会員多くも反対・文科省調査官も反対・元水産高校長会も反対です。教育委員会の皆様も大変ではあると思いますが、今回の計画は多くの水産を思う人々が一様に反対でありますので是非白紙撤回していただきたいと思います。

85 P7

南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕

南部工業高校の沖縄水産高校への統合に反対します。

【理由】について質問

1. (1) に第4期編成整備計画における南部総合実業高校（仮称）の計画実施が厳しくなったとあるが、どのような理由で厳しくなったのでしょうか。
2. (2) 沖縄水産高校の敷地には余裕がある。ということですが、どこに余裕があるのでしょうか。おそらく教育長が検討している本校の空き敷地は、以前校舎が建っていた敷地ではないかと思いますが、その土地は地盤沈下が激しく、地盤調査後に校舎建築ができないとの理由で、現在の敷地に建築したと、当時の校長より聞いております。
3. 財政難の中本当に、校舎新築を検討しているのでしょうか。また、教育財源問題で統合を検討しているのであれば、税金をできるだけ使わない方法を検討すべきではないでしょうか。

第4期編成整備計画における南部総合実業高校（仮称）の計画実施が厳しくなったことについては、校舎建築のための敷地の確保が厳しかったこと等があげられます。

校舎建築の場所等については、今後精査する必要があると考えます。

編成整備計画は、本県の教育課題に対して一定の解決策を示すものであり、教育委員会としましては、生徒や保護者にとって魅力ある学校づくりを目標に据え計画を策定しております。

ご提案については、今後の学校づくりの参考とさせていただきます。

【効果】 (1) につきましては削除させていただきます。

4. 宮古の翔南高校と農林高校を統合後、宮古総合実業高校となって水産の定員割れで苦しんでいる状況をご存知でしょうか。又総合選択制で生徒の専門性の意識の違いから授業が遣り難いという意見なども聞き取り調査しているのでしょうか。

(案) 南部工業高校は現状維持のまま、フューチャースクール新設し、併設校としてはどうでしょうか。

(案) 生徒が集まるかどうか調査検討もされていない計画で新たに校舎を建築するよりは、那覇工業または、沖縄工業高校に統合し、全寮制の寮を建設し更なる活性化を図ってはどうでしょうか。

(案) 南部地区の少子化を検討し、南部工業高校に入学を考えている生徒たちのため、そして南部地区の工業系のニーズに対応するためにも、位地的にも南部商業高校との統合がベストではないでしょうか。

【効果】について質問

(1) 前回は指摘したように水産系機関と工業系機械は、教育課程上全く類似していません。どの教育内容が類似しているのでしょうか。

(2) 工業から水産への教員の人事交流により専門教科の発展が望めます。との効果を上げていますが、すでに工業系の先生方は存在していません。

海洋技術科には今現在、工業系職員1名が配置されていますが、本来なら海技士免許を持った職員を配置すべきではないでしょうか。工業系の先生方では、海の厳しさ、船の内燃機関、タービン機関、ボイラー、冷凍機、船用電気などの船の機関士として必要な教育ができていないのが現状です。

(3) 南部地区の工業系ニーズに対応とありますが、地域の方々のニーズに対応するためには現状のままでもよいのではないのでしょうか。水産教育の充実と展望はどのように考えているのでしょうか。

(4) 今現在でも南部工業高校は部活動が活性しているなかで、統合により活性するという根拠はどこにあるのでしょうか。

(5) 私は専門委員の一人ですが、前回は指摘したように、現在産業教育

教員の人事交流が活発になれば、それぞれ新しい考え方や新鮮な雰囲気統合後の学校に満ち、教育活動の活性化につながるものと考えます。

学校統合は、生徒の増による学校の活性化と生徒にとってより良い学習環境の整備を念頭に策定、実施しております。

学校の教育活動全体が活性化することで、それぞれの学科の充実も図られるものと考えます。

南部工業高校の部活動の活性化については、小規模校ながら学校の特色を活かし、実績等特筆すべきものがあると考えております。

統合により、両校の特色ある部活動がさらに発展するものと考えます。

編成整備計画は、教育庁内の総務課、県立学校教育課、義務教育課によるワーキングチームを編成し原案を作成しております。

産業教育審議会の協議内容については、実施段階での具体的な計画で反映されるものと考えます。

「南部総合実業高等学校（仮称）」と表記したことについては、現行の編成整備計画の継続であることと統合後に大規模な学科改編が予想されることからそのような名称になっております。

学校名については、実施計画策定後に「校名検討委員会」を発足させ、変更の有無も含めて議論することになります。

ご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。

編成整備計画は、学校の基本方向について示すものであります。学科の改編についても、学校統合後のあり方を示す上で一つの指針となるものであると理解します。

教育課程については、学校長の権限になりますので今後調整は必要になるものと考えます。

審議会で行われている協議内容と、編成整備計画にリンクしないのでしょうか。全く別というのなら具体的に理由を教えてください。

(6) 宮古総合実業高校は校名が変わり、農業と合併したことで海洋科学科の生徒は減少、総合選択制で生徒の意識の違いにより授業が難しいという意見が寄せられています。また、部活動も活性化していないということですが、どのようにお考えでしょうか。

(7) 5名の歴代沖繩水産高校校長先生からも沖繩県の産業教育は農業、工業、商業、水産の大学科があり、何れも歴史は古い。県内唯一の沖繩水産高校の校名を無くせば、職業教育の根幹が一つ無くなるという重大さを理解しているのか疑問である。との意見がありますが、どのようにお考えでしょうか。

(8) 学科改編は校長権限であり、編成整備計画とは違うとの見解を示していましたが、説明会資料内では学科改編まで踏み込んだ内容になっていたかと思いますが、水産に関する学科を含め3学科にするということは、学科改編ではないのでしょうか。

86 P7

南部工業高等学校と沖繩水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕

私は、今回の『編成整備計画』の【素案】が公表された昨年11月からこの問題について考えてきました。12/24・土：真和志高校体育館、1/28・土：沖繩水産高校視聴覚室、1/29・日：南部工業高校視聴覚室で行われた地域説明会にも全て参加させて頂きました。そして、今の考えを述べさせて頂きます。

・水産と工業の相乗効果を述べておられますが、過去の編成整備計画で、商業と、更に農業との統合実施ができなかったために出てきた案であって、客観適に見てつじつま合わせの感が否めません。

特に南部農林との統合に関しては、1/28・土：沖水での地域説明会で「地域の理解が得られなかった」と説明を受けましたが、もっと具体的に実施できなかった理由を知りたく思いました。

・総合選択制の実施はできる限り縮小の方向へ。

学校統合に関しましては、南部地区の少子化への対応と南部工業高校の小規模化の解消が喫緊の課題となっており、早急な対応が必要になり、その現状を踏まえ新たな計画を策定しなければならないと考えます。

第4期編成整備計画における南部総合実業高校（仮称）の計画実施が厳しくなったことについては、校舎建築のための敷地の確保が厳しかったこと等があげられます。

学校統合は、生徒の増による学校の活性化と生徒にとってより良い

次期新教育課程の職業に関する各教科の主な改善事項として「将来のスペシャリストの育成」が挙げられています。専門分野に関する知識と技能のより一層の定着を図る観点から、総合選択制は中学生や保護者からニーズのあるからといって尊重しすぎると、新教育課程と逆行することになると考えます。

- ・現在の沖縄水産高校の入試志願状況は募集定員を超えており（海洋技術科：定員40名は、平成23年度から、総合学科：定員200名は、平成21年度以降は募集定員を超えている）、進路決定率も昨年度が97%と良好な数字が残っています。卒業生数、中途退学者数もわずかながら好転しているものと認識しています。つまり、ここ数年沖縄水産高校は右肩上がりで良くなってきている状況にあると思います。この良い状況下での統合案には賛成できません。統合することによって混乱、問題、課題も多く出てくると考えられます（後述）。今の状況から更に良くなる沖水を見せる機会を下さい。
- ・【素案】の1ページ：編成整備の基本事項概要の②にも示されている高等学校規模の適正学級数は4～8学級とあり、現在の沖水は6学級で何ら問題が無いと思います。逆に編成整備計画案通りの8学級にすると、実業高校で複数学科ある学校の適正学級数としては多すぎるのではないのでしょうか。南部の少子化に対応できないのではないのでしょうか。また、8学級になると学校の活性化が期待できると【効果】にはありますが、活性化するまでに多くの問題が発生すると考えられます。

①職員数が多くなりすぎる。

今年度から実習船運営事務所の移管に伴い本校職員数が110名を超える大人数になっています。更に工業科の職員が加われば、職員の活性化に繋がればよいですが、逆に3学科になるということなので職員間の連携にも問題が出ないか心配です。（かつて勤務していた実業高校では学科間の職員連携に問題がありました。）

②生徒の問題行動件数が増加する。

現在（6学級の生徒数）でも生徒の問題行動の指導件数が300件以上発生していますが、統合により、問題傾向のない生徒ばかりが増えるとは

学習環境の整備を念頭に策定、実施しております。

学校の教育活動全体が活性化することで、それぞれの学科の充実も図られるものと考えます。

総合選択制は専門学科の特色や専門性は保持しながら、生徒の希望に応じて他学科の教科、科目を履修することができるシステムです。生徒が現海洋技術科の教科、科目のみの履修を希望すれば従来の教育課程と何ら変化はありません。

また、学科やコースにより資格取得等必要に応じ在籍生徒に対して必履修科目等を設定すれば、その特色は損なわれるものではないと考えます。

学科や教育課程の編成については、今後学校との調整が必要になります。

生徒指導等の懸念事項については、学校教育活動の中の普遍的な問題であると考えます。

考えにくく、担任・生徒指導部を含む多くの職員が問題行動の対応に追われ、問題傾向のない生徒と向き合う時間が減少するのではないのでしょうか。（職員の多忙化）

③志願者数が募集定員を割ってしまう。

沖水は南部地区の西端の糸満市に位置するため、現南部工業へ通学している地域の生徒が全て、糸満まで通学してくるとは考えにくいです。よって、240名定員の募集枠が埋まらない状況にならないか心配です。この場合、やがて学級減、予算削減、募集停止、職員定数の減になりかねないと考えます。

更に、限られた生徒数の奪い合いとなり、職員間の連携にも問題が広がらないのでしょうか

④2校が1校になることにより、学校割当予算が1校分になり様々な教育活動に悪影響が出ないのでしょうか。

- ・【素案】の段階で、総合学科系列を見直すという、沖水の学科改編があがっていましたが、編成整備計画とは別に考え、次年度以降沖水内で検討される予定です。
- ・12/24・土、1/28・土、1/29・日に行われた地域説明会では圧倒的に反対意見が多く、「地域の理解は得られていない」と認識しました。特に、南部工業高校視聴覚室で行われた地域説明会では、学校の存続と、コンピュータデザイン科（CD科）の復活を望む声が多く、CD科が復活すれば学校が活性化するという自信も感じました。
- ・沖水に新たな工業科の施設、設備を設置するよりも、現在ある南部工業高校をそのまま活用できる方が、無駄な財政負担を避けられるのではないのでしょうか。南部工業高校の立地場所に生徒が集まる編成整備を考えて頂きたいです。
- ・2/8・水の一般入試志願状況の新聞記事を見ておりますが、この状況こそが誰もが納得のいく、中学生、保護者、地域のニーズだと思います。定員割れを起こしている学校、適正規模以上の学級数のある学校等をもう一度精査して、編成整備計画を見直して頂けないのでしょうか。
- ・「フューチャースクール」の設置に関しても反対です。沖水にも該当す

		<p>るであろう生徒が在籍しますが、様々な生徒の混在が生徒の成長にも繋がるのではと考えます。該当生徒を一つの学校に区別して集めることによる弊害はないのでしょうか？地域、保護者からのニーズは本当にあるのでしょうか？もし私が該当生徒の保護者であれば、様々な生徒との人間交流を期待して他の学校を受験させると思います。</p> <p>●代替案として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖繩水産高校は6学級のまま維持。来年度より学科改編に向けて委員会を立ち上げて取り組む。（今年度の職員会議で確認されている。） ・南部工業高校は、工業科と普通科の併設校として存続。 一般入試志願状況より、定員割れを起こしている学校、適正規模以上の学級数のある学校等を精査し、各校の学級減、募集停止を行い、普通科の学級を南部工業へ移す。 ・このことにより、沖水への新たな工業科の施設、設備を設置するための無駄な財政負担を避けられるのではないのでしょうか。 	
87	<p>P7 南部工業高等学校と沖繩水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕</p>	<p>編成整備計画の進め方への疑問と意見 疑問</p> <p>1. 編成整備計画の進め方について</p> <p>①計画に対して当該校の職員や関係団体の意見を求めることは大切だと思いますがどうですか？学校では2月13日現在、意見交換の機会は設定されていません</p> <p>2. 教総第10333号で通知された説明及び意見交換会への関係団体への連絡について</p> <p>①関係団体への連絡がありませんでしたが、その責任は何処にありますか</p> <p>②説明会への参加呼びかけなしに計画が進んでしまったことで、関係者の間に不満や不信感が広がっていますが、教育庁はどう対応されますか</p> <p>3. 教総第10350号で依頼のあった意見の照会について</p>	<p>関係機関団体としましては、各教育事務所単位で実施される地区協議会での各界からのヒアリング、関係する市町村教育委員会、PTA、同窓会、保護者等のヒアリングを想定して実施しております。</p> <p>今後はパブリックコメントに寄せられた意見に対しまして、編成整備計画を検討させていただきます。</p> <p>教総第10333号の文書において、県教育委員会から学校へ送付した文書は、各学校PTA会長宛となっており、さらに会員への周知も図ることを明記しております。</p> <p>関係団体意見については、その機関・団体の長の責任において回答するものと考えております。</p> <p>教育委員会としましては、できるだけひろくご意見を集約することを念頭に作業を進めてまいりました。</p>

		<p>①校長個人の意見を求めたものですか ②校長の責任のもとに職員全体の意見を求めたものですか</p> <p>意見</p> <p>1. 編成整備計画は教育庁の提案事項と考えますが、広く関係する職員や団体に意見を求め疑問点や懸念点に対応する中で、教育庁方針への理解を図りつつ進めて欲しいと考えます。 関係者の最大公約数の意見のもとに進んだ計画であれば、県民的な理解は得られると考えます。</p> <p>2. 学校の編成整備計画は財政面より教育理念を優先すべきものだと考えます。計画が実行される中で生じる不利益は直接生徒に降りかかりません。予想される不利益は計画段階で全力を挙げて回避するか最小限にできるように関係者間で調整しておくことも編成整備計画の重要な部分だと考えます。そのためにも様々な関わりからの意見を求め、議論しておくべきだと考えます。</p>	<p>教職員やPTA、同窓会等からの意見聞き取りについては、(素案)(案)策定後に各地域説明・意見交換会や必要に応じて該当校へ出向き意見交換を実施しております。</p> <p>また(素案)については、県立高等学校編成整備に関する懇話会を開催し、それと平行して各地域での説明・意見交換会を実施しご意見を頂戴しております。</p> <p>編成整備計画は、本県の教育課題に対して一定の解決策を示すものであり、教育委員会としましては、生徒や保護者にとって魅力ある学校づくりを目標に据え計画を策定しております。</p> <p>今後とも施策の推進に関しましてはご意見を参考にしていきたいと考えます。</p>
88	<p>P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校(仮称)〕</p>	<p>【懸案事項】</p> <p>①総合選択制になった場合に水産や工業の専門性を維持できるか。 ②「沖水」という校名に対する思いをどう受け止めるのか。</p>	<p>合選択制は専門学科の特色や専門性は保持しながら、生徒の希望に応じて他学科の教科、科目を履修することができるシステムです。生徒が現海洋技術科の教科、科目のみの履修を希望すれば従来の教育課程と何ら変化はありません。</p> <p>また、学科やコースにより資格取得等必要に応じて在籍生徒に対して必修科目等を設定すれば、その特色は損なわれるものではないと考えます。</p> <p>学科や教育課程の編成については、今後学校との調整が必要になります。</p> <p>100年余の歴史のある学校として県内は元より県外での知名度や、部活動の活躍等についても特筆すべき学校であると考えております。</p> <p>学校名については、実施計画策定後に「校名検討委員会」を発足さ</p>

			せ、変更の有無も含めて議論することになります。
89	P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕	○沖縄水産高と海洋技術科の存続を要望する。	県教育委員会としましては海洋県、島嶼県という本県の特徴を踏まえ、本県海運業界等への人材育成等の役割については重要視しております。
90	P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕	○子供（生徒）達の海洋技術科の専門的技術及び学力を育てる学校として沖縄水産高校と海洋技術科を存続し、沖縄県海（漁業、船）のスペシャリストを目指す子供たちの選択肢を摘むことの無いように支え伸ばして行ってほしい。	県教育委員会としましては海洋県、島嶼県という本県の特徴を踏まえ、本県海運業界等への人材育成等の役割については重要視しております。
91	P7 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕	<p>教育庁県立高等学校編成整備計画案の中に南部工業高校と沖縄水産高校を統合し、南部総合実業高校（仮称）として」将来的には総合選択制の高校にする。という計画があります。統合に反対する立場からこれまでの編成整備計画の策定経緯を批判し、宮古総合実業高校の具体的なデータに基づき反対の論を展開する。</p> <p>問題1. 平成23年12月24日に開かれた那覇南部地区説明会・意見交換会において、県教育庁より「本実施計画（素案）の策定経緯」の中で、「各地域、関係機関団体、学校長のヒアリングを実施した。」と教育長から説明されたが、実際には校長へのヒアリングのみで、各地域関係機関団体等（学校職員、PTA、同窓会、海運業界）へのヒアリングは一切行われていない嘘の記載であることが判明した。学校長のみ意見だけを取り上げている、言っていることと行っていることが相反しているが、いかがでしょうか。</p> <p>問題2.</p>	<p>ご指摘のとおり、沖縄水産高校に関連する関係機関団体へのヒアリングは実施しておりません。</p> <p>関係機関団体としましては、各教育事務所単位で実施される地区協議会での各界からのヒアリング、関係する市町村教育委員会、PTA、同窓会、保護者等のヒアリングを想定して実施しております。</p> <p>学校長へのヒアリングについては、学校の代表として学校経営の面から学校や本県の教育課題、さらに課題解決への意見を聞くことは重要なことだと考えます。</p> <p>県教育委員会から学校へ送付した文書は、各学校PTA会長宛となっております。</p>

上記質問1. 説明会開催についての県教育庁からの案内文公文書が県立高等学校長、県立高等学校PTA会長、県立高等学校同窓会長殿で学校に届いているが、学校管理者はPTA会長にも同窓会長にも知らせなく連絡もしていない。このことは情報公開条例に違反し、説明責任も問われると思いますが、いかがでしょうか。

問題3.

学校長は学校管理規則第62条、第63条に照らし「統合問題・校名変更・学科改編」等について学校評議委員を開いて説明や意見聴取するべきだと思いますが2月13日現在でも学校評議委員会はまだたれていません。いかがでしょうか。

問題5.

県立学校編成整備に関する懇話会は、懇話会設置要項も出さず（教育庁ホームページ）また懇話会委員の人選も水産工業の有識者が入っておらず、懇話会審議が進められてきた経緯があるが、不公平な人選で不平等だと思いますが、いかがでしょうか。

問題6.

インターネット普及率が30%と沖縄県は少ない中、教育庁のホームページのみで広く県民意見募集及び関係団体意見照会と言っているが、広く県民への公開につながるのでしょうか。

今回の南部工業高校との統合においては、沖縄水産高校の生徒数減の可能性があることから断固反対である。過去、宮古において翔南高校・宮古農林高校との統合により平成20年から今現在に至るまで水産科への応募者減を余儀なくされ、水産教育の衰退する恐れを感じられる中、多大な労力を図り、水産・海運業・水産製造業従事者育成に取り組んでいる現状です。更に今年度（平成23年度）から宮古島圏域の水産業活性化を図るため、宮古島市・各漁協・業従事者・宮古総合実業高校（海洋科学科）・関係機関を網羅し、今後の宮古島における水産業の後継者育成、水産科の在り方・活性化を図り推進委員会が立ち上げられ取り組んでいるが下記の生徒数推移状況（少子化による生徒数減）から学科改編が敷かれ1クラス

おり、さらに会員への周知も図ることを明記しております。

教職員やPTA、同窓会等からの意見聞き取りについては、（素案）（案）策定後に各地域説明・意見交換会や必要に応じて該当校へ出向き意見交換を実施しております。

校長の学校統合、校名変更、学科改編等についての取扱については、案の段階においてはその動向を注視しているものと判断しております。

（素案）については、県立高等学校編成整備に関する懇話会を開催し、それと平行して各地域での説明・意見交換会を実施しご意見を頂戴しております。

「県立高等学校編成整備に関する懇話会」は、中・高校長会代表者、保護者代表者（PTA）、市町村の教育委員会代表者、経済界代表者、学識経験者など計8名で構成されており、各界から公正で幅広い意見を頂いております。

沖縄県県民意見公募手続実施要領においては、1 計画等の公表について（要綱第5条、9条関係）(1)意見等を募集しようとする実施機関の所管課長（以下「所管課長」という。）は募集案件の概要（別紙様式1）を公表日（計画等の公表を開始する日を言う。）の7日前までに広報課長に報告するものとする。

(2)広報課長は、前項の報告に基づき、意見募集案件の概要を県ホームページに掲載するものとする。

とあり、パブリックコメント掲載の手続については妥当であると考えます。

総合選択制は専門学科の特色や専門性は保持しながら、生徒の希望に応じて他学科の教科、科目を履修することができるシステムです。生徒が現海洋技術科の教科、科目のみの履修を希望すれば従来の教育課程と何ら変化はありません。

さらに、学科やコースにより資格取得等必要に応じ在籍生徒に対して必履修科目等を設定すれば、その特色は損なわれるものではないと考えます。

減となり、平成25年度から5クラスとなることを余儀なくされている。その1クラス減とは、「環境学科（農林系）」と「食品科学科（翔南系）」を統合し1クラスの予定がある。実態は、農林系への食品科学科が吸収され食品科学科の水産製造教育は衰退するような状況が伺え、今後の水産・海運・水産製造業の後継者育成にも多大な影響が及ぶことも危惧されている。今後、南部工業高校との統廃合により現在沖縄水産高校の潤っている生徒数は確実に減少し、定員割れとなることは火を見るより明らかである。水産教育（沖水）の生徒数確保と後継者育成は過去の状況から見ても危険（衰退）にさらされて来る可能性は非常に大きいことを感じざるを得ない。「過ぎたるは及ばざるがごとし」で取り返しのつかない方向に舵を取ってはいけない。我々は、水産が迎ってきた過去（宮水・翔南・沖水）をしっかりと踏まえ今後の水産・海洋教育をどうするか原点（本＝各学科）に立ち返りお互いの英知を結集し沖縄県の水産人後継者育成に使命と情熱を持ち推し進めていかなければならない。

学科や教育課程の編成については、今後学校との調整が必要になると考えます。

翔南・宮古農林における統合における入学者の推移（平成17年～平成23年）

翔南高校	人員	h17	h18	h19		人員	h20	h21	h22	h23
海洋科学科	40	34	36	38	海洋科学科	40	23	22	24	31
食品科学科	40	40	37	32	食品科学科	40	38	33	17	30
商業科	40	39	40	40	商業科	40	40	39	40	28
計	120	113	113	110		120	101	94	81	89
宮古農林										
生物生産科	40	21	26	16	生物生産科	40	22	29	24	28
環境工学科	40	24	25	22	環境工学科	40	21	15	26	30
生活福祉科	40	37	36	38	生活福祉科	40	40	40	40	40
計	120	82	87	76		120	83	84	90	98

※平成20年宮古総合実業高校

※食品科学科＝平成25年度からコース制へ（環境科統合）

※環境工学科＝平成25年度からコース制へ（食品科統合）

限られた生徒の奪い合いとなる状況が発生している。

		<ul style="list-style-type: none"> ・統合編成計画がしかれ時期（表）は、翔南高等学校は、単独で学校経営（自活）は出来ていた。 ・農林高校の生徒数減ではあるが第1次産業の農業は重要である。合併しないと廃校となる。それが出来ないから統合して助けてもらいたいとのことであった。・・・当時の担当 ・統合の説明会において生徒数減に伴う統合である。 <p>○部活・諸活動の活性化が図れるという計画案でしたが。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もともと部活動の加入率や活動は、翔南の方が活性化しており、現在も翔南系の方が多く加入し活動している。 <p>○総合選択制を敷くことにより幅広い知識の習得が出来るとのフレーズ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合選択制は、他学科の生徒が受講しても興味を持つのは1週間ぐらいで後は、まともに授業に参加しない。海洋系においては、水上オートバイで遊べるとしか感覚がなく、実科（各科）の生徒からは集中力が切れ悪影響である。（実科の生徒を放課後又は休日残し再授業を実施した日もある＝資格取得対策も絡めて） <p>○学校割り当て予算</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統合により学校割り当て予算が削減され、1校分の予算（1校分）を2校で活用することになる。 ・予算の奪い合いになり、出張の精選・削減があった。現に実習船運営協議会の参加は取り除かれた。 ・教育間の歪みが生じた（お互いの学校間の風紀・規則・生徒指導）歪みにより生徒に影響がでた。 	
92	<p>P8～P9</p> <p>3 久米島高等学校（園芸科）の廃科</p>	<p>久米島高校園芸科の存続を以下の点から強く望みます</p> <p>① 久米島農業振興のための人材確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業の6次産業化に向けた人材育成（特に久米島高校においては、食品加工分野の学習を強化したほうがよい）が久米島産業振興にとって不可欠。 	<p>久米島高校の園芸科については、普通科、園芸科とも定員割れの状況が続き、現状のままでは学校の活性化に向けて非常に厳しい状況であると判断します。</p> <p>久米島の農業振興のための人材育成と、農業に関する学習希望者へ</p>

	<p>② 園芸科の廃止が行われると次は高校自体の廃止につながる恐れがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就学機会が久米島島外になることで、その世帯の経済的負担が大きくなる。 	<p>の学習保障として普通科に園芸コースを設置します。</p> <p>また、併せて普通科の機能充実を図ることで学校の活性化を図ることとします。</p> <p>久米島高校園芸科の廃科については、前期計画から中期計画へ移動し、今後の入学者の状況等を注視しながら検討してまいります。</p>
<p>93 P8～P9</p> <p>3 久米島高等学校（園芸科）の廃科</p>	<p>中学、高校生の保護者です。</p> <p>農業をしている友人夫婦、家族の声をまとめて意見します。</p> <p>今の計画は都会の教育環境がますますよくなり、不便な離島は進学環境がますます悪くなり、切り捨てられていく印象です。</p> <p>少子化による志願者数の減、定員割れなど数値だけで廃止を決めても、こと離島に関しては編成整備計画でいう課題解決にはならないと思います。</p> <p>島の少子化は生きたい母親がたくさんいて施設があるにもかかわらず公立病院から産婦人科医が2人も引き上げて廃科になり、出産環境が悪くなったのも一つの原因です。医師確保を県も一緒に真剣に考えるべきです。</p> <p>教育環境も同じように、地域任せでなく、教育委員会も離島の高校を生徒が少ないから廃止ではなく、どうすれば生徒を増やすことができるか、廃止の判断の前に教育環境について、まず、一緒に考えるべきではないでしょうか。</p> <p>私たちの島は農業で成り立っている地域です。これから重労働を強いられるさとうきび生産が高齢化で続けられるのか、またTPP問題で先行きが不安なまま、本当に強い農業をつくるにはどうすれば良いか悩んでいます。</p> <p>ただ、希望を見出してきたものが、友人の中3の娘たちが、園芸を学んで、みんなが喜ぶ花をつくりたいと園芸科を志望していることです。このような志、芽が後継者づくりと島の大きな産業に育つ可能性を秘めています。</p>	<p>編成整備計画は、本県の教育課題に対して一定の解決策を示すものであり、教育委員会としましては、生徒や保護者にとって魅力ある学校づくりを目標に据え計画を策定しております。</p> <p>学校の教育活動が活性化するためには、ある一定規模以上の生徒数が必要になるものと考えます。</p> <p>久米島高校は過去に編成整備計画において存続のための方策（連携型中高一貫教育）が導入されましたが、入試の状況に反映されていない現状があります。</p> <p>今後、地域の中学校卒業者の減少と他地区への流出を考えると適正規模は厳しいと考えます。</p> <p>久米島高校の園芸科の廃科については、前期計画から中期計画に移動し、入学者の状況等を注視しながら検討してまいります。</p>

		<p>さとうきびだけでなく、いろいろな農業で島を活性化していく志をもった子供たちがどんどん増えていくと思いますので、園芸科廃止ありきではなく、どうすれば離島の環境にあった魅力と活力のある学校づくりができるか、教育委員会の先生方も、一緒に考えていただければ幸いです。</p>	
94	<p>P8～P9 3 久米島高等学校（園芸科）の廃科</p>	<p>「久米島高校の園芸科 廃科 について」 県編成整備計画の実施（案）では、園芸科を廃科にし、普通科に園芸コースを設置すると明記されている。 園芸科の存続を訴える地域のニーズに対応するという意味で普通科に園芸コースを設置し、要望に応えるものだと思いますが、どうしても単独の「園芸科」と普通科の中の「コース」では、施設設備、予算、授業数、職員においても、専門性をこれまでのように深めていくことは難しいと思われます。 久米島の基幹産業は、農業であり、ここ数年生徒は減少傾向にあります。なくてはならない学科です。 高校側も2年前にも一度持ち上がった「園芸科廃科」に対して、より地域のニーズに対応した新学科案を具体的に構想していた矢先の今回の編成整備計画であり、非常に戸惑っています。 離島における学校は、陸続きである本島の学校と違い、専門的技術を身につけたい子供たちは本島に進学せざるをえません。コース制になった場合は、専門性を求める子供達の本島へ進学増が予想され、これまで以上に若者の人口流出、進学のための一家転住も予想されます。 地域の衰退にも繋がっていく大きく影響を及ぼす今回の案は、前期計画に盛り込まれており、あまりにも早急な計画案に思われます。 今後の久米島町の未来にも大きい影響を及ぼす今回の計画案は、地域と学校がより連携を深め、多くの議論の時間が必要です。 是非、計画を後期計画に変更していただき、学科再編を含め検討していただいてほしいと思います。</p>	<p>編成整備計画は、本県の教育課題に対して一定の解決策を示すものであり、教育委員会としましては、生徒や保護者にとって魅力ある学校づくりを目標に据え計画を策定しております。 学校の教育活動が活性化するためには、ある一定規模以上の生徒数が必要になるものと考えます。 久米島高校は過去に編成整備計画において存続のための方策（連携型中高一貫教育）が導入されましたが、入試の状況に反映されてない現状があります。 今後、地域の中学校卒業者の減少と他地区への流出を考えると適正規模は厳しいと考えます。 久米島高校の園芸科の廃科については、前期計画から中期計画に移動し、入学者の状況等を注視しながら検討してまいります。</p>

3 久米島高等学校（園芸科）の廃科

【久米島高校の今後についての希望】

- ・現状の1学年園芸科1学級、普通科2学級を維持して欲しい。

【編成整備計画（案）への意見】

- ・離島地域の学校にも、定員の過半数を求めると、他地域との教育格差にならないか。
- ・生徒数が何人から2学級なのか明確な回答がない。41人以上から2学級と考えるなら、今後も2学級維持が見込めるのではないか。
- ・生徒数はピーク時に比べれば減少しているが、次年度から町が取り組む温度差発電などの雇用により雇用の増加も見込まれており、生徒数が減少し続けると断じるのは尚早である。
- ・教育庁が取った進路希望アンケート（一昨年5月）より、久米島高校で行われたオープンスクール（同9月）時に取られたアンケートの結果の方が、実際にその年度の生徒達の進学状況に近い数字になっており（園芸科希望14%）、今年のオープンスクール後の園芸科希望者の割合（18%）より今年の連携入試での園芸希望者も多くいる。教育庁の取ったアンケートは、生徒の進路希望が固まる前の時期に取られたものであり、また単年度のみであるから、根拠とする資料として不適切である。
- ・園芸科が廃科されると、必ずしも園芸科の希望者だった生徒が全員普通科を希望し、普通科増になると限らない。職業高校を希望する生徒の島外流出が増え、在籍生徒数が減じる恐れもあり。
- ・中学校の教育課程が、園芸科と著しく違い困難なわけではない。
- ・中高連携を謳うならば、連携中学生全員を満たせる定員でなければいけないのではないか。全員を満たせない場合、選抜入試を行わざるを得ず中高連携の趣旨に反するのではないか。

全体を通して

- ・園芸科の廃科こそ中学生の希望進路選択の幅を狭める。
- ・園芸コースでは、園芸科に比べ専門性を活かさない。
- ・現状の1学年3学級から2学級になることによる教員数の減で、理科や社会、芸術の授業選択の幅が狭まり、進学への対応や希望進路の選択に著

編成整備計画は、本県の教育課題に対して一定の解決策を示すものであり、教育委員会としましては、生徒や保護者にとって魅力ある学校づくりを目標に据え計画を策定しております。

学校の教育活動が活性化するためには、ある一定規模以上の生徒数が必要になるものと考えます。

久米島高校は過去に編成整備計画において存続のための方策（連携型中高一貫教育）が導入されましたが、入試の状況に反映されてない現状があります。

今後、地域の中学校卒業者の減少と他地区への流出を考えると適正規模は厳しいと考えます。

久米島高校の園芸科の廃科については、前期計画から中期計画に移動し、入学者の状況等を注視しながら検討してまいります。

平成22年4月から5月にかけて取ったアンケートについては、中学生の志向について全県的な状況を把握する目的で調査したものです。

編成整備の基本方向の策定についても基礎資料として活用されたものであり、懇話会の議論においても重要な位置を占めております。

久米島高校以外の高校を希望する生徒や保護者については、その希望進路は尊重されなければならないと考えます。

久米島高校の現クラス数については、連携中学生を収容できるクラス数となっております。

久米島高校の園芸科の廃科については、前期計画から中期計画に移動し、入学者の状況等を注視しながら検討してまいります。

		<p>しく支障が出る。</p> <p>今後について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園芸科の学科改編、進学指導のさらなる充実、中高連携の深化、島外からの学生の勧誘、地域や大学、国外姉妹地域とのさらなる連携等。 	
96	<p>P8～P9</p> <p>3 久米島高等学校（園芸科）の廃科</p>	<p>【懸念事項】</p> <p>①園芸科職員減および産振施設でなくなることによる農場管理等への影響。</p> <p>②コース制の教育内容で島の農業を支える人材を育成できるのか。</p>	<p>久米島高校園芸科の廃科については、前期計画から中期計画へ移動し、今後の入学者の状況等を注視しながら検討してまいります。</p>
97	<p>P10</p> <p>1 本部高等学校と北山高等学校の統合</p>	<p>【懸念事項】</p> <p>①本部高校については条件を満たせなかった場合は廃校決定なのか？</p> <p>②北山高校理数科は条件を満たせない場合は、名護へ移設でなく廃科なのか？</p> <p>【意見】教育の主人公はだれなのか</p> <p>一般的に、適正規模（1学年4～8クラス）を下回ると、部活動や学校行事に支障をきたすといわれています。行政側にとって小規模校は生徒一人あたりのコストが高くなるということもあるのだろう。だからと言って、都市部と離島や過疎の地域を同じ基準に当てはめるのはフェアではないのではないか？編成整備計画に関する懇話会（第10回）でも「（適正規模にこだわらず）クラス数を減らしてでも存続できないか」などの意見が上がっている。教育庁は、辺土名高校への説明（12月14日）では「単独校として存続させるためには2クラス規模（80人）の確保が必要」と回答しており、コストや基準を理由にせず再考を促したい。</p>	<p>本部高校については、中期計画までに定員を満たせなかった場合は廃校となり、北山高校との統合となります。</p> <p>北山高校理数科については、中期計画までに定員を満たせなかった場合は廃科となります。</p> <p>辺土名高校については、国頭地区の広大な面積における学校としてそのニーズを考慮しており、中期計画まで入学者数の推移を注視し検討します。</p> <p>本部高校と北山高校については、比較的近隣であり統合により両校の特色が活かされ、さらに活性化するものと考えます。</p>
98	<p>P12</p> <p>(1) フューチャースクール (FUTURE SCHOOL)</p>	<p>フューチャースクールについて、お願いしたいことがあり、メールを致しました。</p>	

1 多くの課題があると思いますが、不登校や発達障害の生徒に配慮された学校があることは、当事者の生徒さん、保護者にとって救いであり、高校等の教育の充実にもつながりますので、フューチャースクールの計画には賛成です。

2 フューチャースクールの名称について。P-12にある英語の頭文字の説明は、主語を那覇高校、首里高校に変えても通用する概念です。普遍的な教育の理念に近く、フューチャースクールの特徴を県民に知らせるには分かりにくいと感じました。多くの県民に、「学び直し」の立派な理念が県民に通じる名称、例えば「北谷高校、チャレンジ科」、「南部チャレンジスクール」などです。カタカナの高校名も、県民に伝わりやすいのかも気になります。漢字名で、例えば「琉志高校」など。名称(校名)について、広く県民から募集等をされることを願います。

3 心因性の不登校や発達障害の生徒は、学習指導だけではなく、ソーシャルスキルなどの対人関係の指導など、教科の専門性のもとより、特別支援教育全般についての高度な専門性のある教員が必要です。現状では、高度な特別支援教育の専門性のある高校教員はごく少数です。できれば、29年開校の1年前から準備事務局員として「校長等以外に中核教員」を人事配置するくらいの準備が必要かと思えます。フューチャースクールに赴任する教員の精神的な負担は想像に難くありません。職員数増はもとよりですが、「特別支援教育についての高度な専門性を持つ教員の確保」をお願い致します。

4 佐賀の太良学校視察の報告を、広く県民に開示して頂きたいと思えます。

5 公立学校で適応できなかった発達障害等の生徒の教育で、注目されている東京都の私立「翔和学園」を、ぜひ研究等して頂きたいと思えます。

<http://www.showa-gakuen.net/>

以上、拙い思いですが、ご検討頂ければ幸いです。

本県の教育環境整備と、子どもたちの教育機会の拡大は必要と考えます。フューチャースクールについては、今後単位制への移行に伴う教育課程の整備や人的配置、及び心因性の不登校や発達障害の生徒へ対応するための教員の研修等の課題が山積しておりますが、計画実施までの間に学校等との調整を密に図っていきたいと考えます。

「フューチャー」は、何らかの原因で学校を不登校や中退したりした生徒の未来を明るくしようという思いでつけた名称です。名称や英語の頭文字の説明については、懇話会や地域説明会等では特に御指摘はありませんでした。

名称の県民公募については、ご指摘の内容等も含めて今後検討させていただきます。

フューチャースクールについては、心因性の不登校や発達障害の生徒へ対応するための教員の研修やスキルアップ等の課題があります。

また、個々の教員のスキルを学校組織として機能させるための方策もこれから求められる課題になると考えます。

単位制への移行に伴う教育課程の整備や施設設備の充実、人的配置等についても解決すべき課題が多いことは予想されます。

ご提案については、学識経験者の意見等も踏まえながら計画実施までの間に学校等との調整を密に図っていきたいと考えます。

地域説明会においては、スライドを用い紹介・説明させていただきました。今後も機会があれば説明させていただきたいと思えます。

なお、インターネット等への掲載は省かせていただきます。

ご紹介ありがとうございます。今後の参考にさせていただきます。

フューチャースクールは多様な学習ニーズに対応できる「学び直し」を具現化する学校として、編成整備計画に位置づけております。

今後は、中部フューチャースクール(仮称)として、学び直しに特

			化した学校を検討してまいります。
99	P13 (1) フューチャースクール (FUTURE SCHOOL) 北谷高等学校	<p>フューチャースクールの理念は良いと思うが、拠点校を1校に置くよりも特別支援学級を設置して人員を配置する方が各地域の生徒に対して対応できるのではないかと。</p> <p>また、北谷地域の生徒のニーズに応えるには普通科存続が望ましい。</p>	<p>フューチャースクールは多様な学習ニーズに対応できる「学び直し」を具現化する学校として、編成整備計画に位置づけております。</p> <p>今後は、中部フューチャースクール (仮称) として、学び直しに特化した学校を検討してまいります。</p>
100	P13 (1) フューチャースクール (FUTURE SCHOOL) 北谷高等学校	<p>「県立高等学校編成整備実施計画 (素案)」3ページ26行目の「心因性不登校や発達障害あるいはそれらの原因で高校を中途退学していった者の救済」というが、本当の意味で救済になるのだろうか。社会に出た場合に、適応できるかが疑問である。学習の遅滞のある生徒への高校の内容を修得させるための学習支援は必要だが、義務教育の内容は義務教育の中で指導することを考えるべきではないか。フューチャースクールのような学校が全国で増えているから設置するのではなく、ユニバーサルデザインのような教育実践を県全体で検討する、職員の配置を増やす、学級1クラスの定数を検討する、など他に取り組めるべきことがあるのではないかと。</p> <p>非行に走り、将来の希望を失う原因 (「県立高等学校編成整備の基本方向」16ページ12行目参照) は、高校入試を不受験あるいは失敗したことで起こるのではなく、それ以前に、小・中学校の時点で学ぶことへの関心・意欲を失っている可能性があり、その原因は多種多様 (家庭の問題、社会の問題など) で、高校入試の学力 (入試点) が低くても、入学できる高校が存在することも一つの要因としてあげられると考える。そのような意味では、本県の入試のシステムや内容などを検討するのも方法としてあるのではないかと。</p> <p>また、将来の希望に繋げた高校進学への目標作り (「県立高等学校編成整備の基本方向」16ページ13行目参照) は義務教育から考えていくべきであって、入学後は、将来の目標の実現に向けて実行に移す段階ではないのか。これは、中高一貫したキャリア教育にも繋がると考える。</p>	<p>フューチャースクールは多様な学習ニーズに対応できる「学び直し」を具現化する学校として、編成整備計画に位置づけております。</p> <p>今後は、中部フューチャースクール (仮称) として、学び直しに特化した学校を検討してまいります。</p> <p>学び直しに特化した学校については、新学習指導要領総則に「義務教育段階での学習内容の確実な定着」のための学習機会の設置について以下の通り記されております。</p> <p>①義務教育段階の学習内容の定着を図るための学習機会を設ける。 ②必履修教科・科目の単位数を増加させ十分な習得を図る。 ③義務教育段階の学習内容の定着を目標とした、学校設定科目を開設し、必履修科目の前に履修させる。</p> <p>教育のユニバーサルデザイン化については、今後検討を重ねる必要があると考えます。</p> <p>職員の配置数については、「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」をもとに算定し、各学校の実情等に応じて配分しております。</p>

	<p>この問題は、「どの学校にフューチャースクールができるか。」ということではなく、「県がこのような学校を設置しようと考えている。」ことに疑問がある。安易な方向に流れる中学生が増えることを懸念している。</p>	
<p>101 P13 (1) フューチャースクール (FUTURE SCHOOL) 北谷高等学校</p>	<p>【理由】</p> <p>①発達障害のある生徒数は、もっと多い。教師や保護者からの申請では正しい数は把握が難しい。 また中頭地区は発達障害に対する支援が比較的熱心な地域であるため、県全体からみて割合が高くなっているだけで、人数的には那覇地区がダントツに多いのが現実である。 進学希望者数が80%台ということは、すでにこの調査段階で二次障害による意欲の低下や学力不振のため、進学を断念した生徒がいるということである。実際は100%近く進学希望しているものと思われる。</p> <p>②立地条件として、北谷は地理的には中間地点にあるが、国道58号線の朝夕の状況は遠距離通学者にとって憂慮すべき事態である。通学のため通常概念を越えた時間と労力を要することは、定型発達の生徒でも負担となり、まして発達障害を有する生徒にとっては不登校の誘因ともなりかねない。保護者の送迎に依存するような教育体制は望ましくなく、発達障害のある生徒が自力で無理なく通学できる条件が整う地区に設置すべきである。また、北谷町には遊ぶところが多いのが心配である。発達障害にはその特性からトラブルに巻き込まれる頻度が高く、静かで落ち着いた環境が必要である。</p> <p>③那覇・島尻地区での発達障害のある生徒は人口比から考えてももっと多いはずである。発達障害はその学力や興味関心が個人によって大きく差があるため、対象生徒がすべてフューチャースクールを希望するとは考えられない。定員を大きく割ることが予想される。 単位制の理解や適応が難しいことが予想される。 全日制と同じ形式のクラスも必要なのではないか。 *フューチャースクールを作るなら、新設して欲しい。</p>	<p>編成整備実施計画(案)に掲載した発達障害のある生徒数については、ご指摘のとおり学校の教員を対象にその主観に負う部分が大であります。</p> <p>現状把握につきましては、今後とも調査内容を精査し検討していきたいと考えます。</p> <p>今後は、中部地区を対象とした中部フューチャースクール(仮称)を、南部地区を対象とした南部フューチャースクールを学び直しに特化した学校として検討してまいります。</p> <p>中部フューチャースクール(仮称)の立地に関しても今後検討してまいります。</p>

	<p>*区域外就学の配慮をして欲しい、できなければ登校支援をして欲しい。 フューチャースクールの設置は歓迎する。 このタイプの学校が適する生徒は必ずいるので、選択肢のひとつとして必要である。</p>	
<p>102 P13 (1) フューチャースクール (FUTURE SCHOOL) 北谷高等学校</p>	<p>(※ 「子ども」とは、18歳までの児童・生徒のこと) ○「不登校経験者・発達障害」に限定した高校は不要です。 「不登校・発達障害」に関係なく誰もが学び直しをすることが可能である高校を作るのであれば、賛成です。</p> <p>理由 沖縄県内では、不登校の子どもたちを「心因性」と「遊び・非行型」の2種類に分けて考えているようですが、その考え自体が間違った考え方です。 「あそび・非行」は、文科省の「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」の中の「(5-4) 不登校になったきっかけと考えられる状況」の項目の一つであり、その中に「心因性」という項目はありません。 (文科省ホームページより http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/23/08/_icsFiles/afieldfile/2011/08/04/1309304_01.pdf) 何を持って「心因性」や「遊び・非行型」というのか、明確に決まっているわけではなく、教師の主観によるものであり、実態が反映されているものではありません。 不登校の原因や背景は一人一人違いますが、家庭や本人に原因があるというよりも、学校内のいじめや体罰などの暴力が存在し様々な問題があるからこそ、子どもたちは学校に行けなくなっています。 そもそも「不登校」に関する考え方が間違っていれば、その間違った考え方を基にしたフューチャースクールで学び直しができるとは思えません。「不登校」だとか「心因性」「遊び・非行型」と振り分けられレッテ</p>	<p>本県の教育環境整備と、子どもたちの教育機会の拡大は必要と考えます。 フューチャースクールは多様な学習ニーズに対応できる「学び直し」を具現化する学校として、編成整備計画に位置づけております。 今後は、中部フューチャースクール(仮称)、南部フューチャースクール(仮称)として、学び直しに特化した学校を検討してまいります。</p>

ルを貼られた状態で、子どもたちが主体的に学び直しができると は考えられません。

子どもたちは「不登校をしている・していた」というだけで、社会全体から差別され、偏見のまなざしで見られているからです。

また、「不登校経験者」の子どもたちを集めたらなんとかできるだろうという短絡的な発想では、実際の高校運営が始まった時に問題が生じても対処できないだろうと思います。

不登校を経験していた子どもたちが自ら学びたいと思った時に、主体的に自己否定することなく学べるためには、「不登校経験者・発達障害」に限定した高校はむしろ行きにくい場所になることが予想されます。

また、高校に進学した後で高校を不登校になる事例では、高校に問題があって行けない場合と、すでに中学までに不登校の経験があり中学の強引な進路指導によって無理をして進学した場合などが考えられます。

小・中学校の段階で不登校になった時は、学ぶ意欲が出るようにエネルギーを十分蓄える期間が必要であり、そのエネルギーが溜まらない状態で進学をすれば、途中で学校に通えなくなるのは当然のことです。

「不登校」の捉え方自体を見直すことが必要です。

P.15の平成21年度の本県の中途退学の主な要因とあげられているデータは、教職員から見たものであり、実態を反映しているものであるとは思えません。

高校の中途退学の際の教職員の指導について検証が必要だと考えます。

学び直しは、不登校をしていた・していなかったことに関係なく、誰でもしたい時にできるようなものにした方が、多くの人に利用してもらえる高校になるのではないかと考えます。

「発達障害」の子どもたちを対象にした高校についても同様で、「発達障害」の子どもたちを分けるのではなく、障害があってもなくてもともに学ぶことの方がこれからの社会には必要であると考えます。

また、学校現場で言われる「発達障害」は医学的根拠に基づくものではなく、ただ単に教師から見て気になる子であり、教師が管理しにくい子ども

もという要素があります。

文科省の「発達障害」の用語の使用について」平成19年3月15日 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課通知によれば、「5. 学術的な発達障害と行政政策上の発達障害とは一致しない。また、調査の対象など正確さが求められる場合には、必要に応じて障害種を列記することなどを妨げるものではない。」と記載されています。

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/002.htm

つまり、文科省も示しているように、学校現場で扱う「発達障害」は医学的根拠に基づくものではないということです。

教職員たちが語る「発達障害」が医学的根拠に基づかないものであれば、「発達障害」とレッテルを張るだけになります。

.....
那覇市の例

↓

2011年2月の定例市議会「特別支援教育」についての質問に対する那覇市教育委員会学校教育部長の答弁から那覇市発達障害の数字の根拠「発達障がい児童生徒数は、各学校からの報告データに基づき小学校約730名、中学校約280名、合わせて約1,010名です。児童生徒に占める割合は約3.4%になりますその中には発達障がいと診断を受けていない、児童生徒も含まれており、その数は小学校では約610名、中学校では約240、合計850名です。」那覇市の発達障害児の数字は、医師の診断ではなく、教師が「気にかかる子」としてカウントした850名が含まれています。

<http://blog.canpan.info/futoukou-oki/archive/257>

.....
「発達障害があるから不登校になる」という話が信じられているようですが、発達障害があるから不登校になるものではありません。

発達障害と言われる子どもたちは、他の子どもたちとの違いが問題にされ、その違いを理由にいじめなどの暴力を受けたり、教職員などから不適切な対応をされてしまうので、結果的に不登校になることはあります。

つまり、発達障害が問題なのではなく、教師も含めた周りの対応が不適

切であることが問題です。

今回の計画案には、「不登校経験者・発達障害」の子どもたちの高校とだけあり、具体的なカリキュラムや配置される教員の質や数については何も示されておらず、この高校がどのようなものであるのかの判断材料がありません。

実際に新しい高校を作る時には、具体的な中身まで示した上で、再度パブリックコメントを県民に求めることを希望します。

○中学生支援センター（仮称）は不要です。

理由

P15

中学生支援センター（仮称）

中学生支援センター（仮称）は、子どもたちに「遊び型非行」というレッテルを張って一か所に集めるというもので、発想自体に疑問があります。何をもち「遊び型非行」と判断するのでしょうか。

当会に相談があった事例では、どれも中学校の教師が一方的に「遊び・非行」と呼んでおり、実際はそうとは言えない事例ばかりでした。

「支援」という名のもとに、中学校側の一方的な考えで、在籍校から生徒を排除することに利用される可能性も出てくることも懸念されます。

なぜ生徒たちが学校に足が向かないのかについて、教師の対応に問題が無かったか、学校内に問題が無かった、ふりかえり改善策を個々の事例に合わせて考えてやっていくことが必要だと考えます。そうすることで、生徒と教師との信頼関係を築くことができ、生徒自身に学ぶ意欲が出てくるかもしれません。

P.16 理由②に触法少年補導人員（県警資料）のデータとして、刑法上の非行行為が示されていますが、刑法上の非行行為の中に「不登校」という項目はありません。

「不登校」という現象と刑法上の非行行為を混同しているものであり、あたかも「不登校」と「非行」が同じものであるかのような誤解が生まれてしまいます。

今後は刑法上の「非行」と「不登校」を混同するような表現や考え方はやめていただきたいです。

中学校においては、様々な不登校の形があり、中学校側の支援のあり方も様々ではありません。個々の事例に合わせ適切に対応することが求められることから、当センターの設置を検討しているところであります。

「不登校」と「非行」は全く別の話です。
以上の理由から、中学生支援センター（仮称）は不要であると考えます。

103 P13
(1) フューチャースクール (FUTURE SCHOOL)
北谷高等学校

既存の全日制高校で十分に対応できるように、小学校や、中学校で不登校の問題が発生しないような取り組み方を研究・対策・実践していく仕組みを構築すべき。

中学で不登校になった生徒に対して、進学先（フューチャースクール）を用意することが、不登校問題の早期解決・根本解決につながらない。むしろ、これまでの不登校者に対する中学校側の支援がおろそかになることを懸念する。また、改善に向けて努力をしている生徒の問題解決能力や向上心を失わせることにつながる。

全県から発達障がいのある生徒を全県募集することで、これまで、地域の学校で卒業できていた様な生徒たちが、地域の学校から卒業できなくなることが心配。発達障がいのある生徒は全部フューチャースクールに押しつけることにならないか心配。

中頭地区の不登校経験のある生徒の62%が進学を予定しているがあるが、それが北谷高校のフューチャースクール化の理由につながらない。全日制希望者は31%であり、その31%の生徒は実際に入学できなかったという事実関係がうかがえない。加えて、この31%の生徒たちの中で、高校不合格になった理由が不登校の過去によるものなのかどうかも見えない。

中頭地区の発達障がいのある生徒の82.4%が進学を予定しているがあるが、それが北谷高校のフューチャースクール化の理由につながらない。全日制希望者は34名であり、その34名の生徒は実際に入学できなかったという事実関係がうかがえない。

加えて、この34名の生徒たちの中で、高校不合格になった理由が発達障がいによるものだとはいえない。

立地条件とは何を意味するのか？生徒が通う意味での立地条件としては、公共の交通機関の運行状況を見て、良好とはいえず、むしろ悪い方である。

フューチャースクールは多様な学習ニーズに対応できる「学び直し」を具現化する学校として、編成整備計画に位置づけております。

今後は、中部フューチャースクール（仮称）として、学び直しに特化した学校を検討してまいります。

学び直しに特化した学校については、新学習指導要領総則に「義務教育段階での学習内容の確実な定着」のための学習機会の設置について以下の通り記されております。

- ①義務教育段階の学習内容の定着を図るための学習機会を設ける。
- ②必修教科・科目の単位数を増加させ十分な習得を図る。
- ③義務教育段階の学習内容の定着を目標とした、学校設定科目を開設し、必修科目の前に履修させる。

現在、不登校経験者や発達障害の生徒は各高校に入学しており、各学校に対応しておりますが、各高等学校において十分な対応ができていない生徒もいると考えます。

これらの生徒に特化した学校を作ることで、その対応や支援のあり方に共通した意識をもって、全職員が対応できること。

また、成果や支援の方法について、他の県立高校へのフィードバックができると考えます。

学び直しの学校については、何らかの理由により学校を不登校あるいは中途退学した生徒等を対象にしており、心因性による不登校や発達障害のある生徒についてのみ対象とした学校ではありません。

教育委員会としましては、人的配置等の支援により学校の活性化を図るとともに、学び直しに特化した学校としての教育課程の整備や施設の充実を図らなければならないと考えます。

北谷高校の定員割れが解消されるとあるが、机上の空論だと思われる。過去11年間のデータによると、平均して毎年約307名の生徒が入学している。フューチャースクール化に伴い、従来ならば北谷高校に受験していた層の生徒たち（上述の307名）が、今後とも北谷高校に受験希望するとは考えられない。中学生やその保護者に、フューチャースクールの一般募集枠と、従来の全日制課程の学校とで、志願の意思決定に差異はないのかアンケートを取らなければ、定員割れ解消の帰結は導き得ない。

実際、H23年度の北谷高校1次募集志願者は250名であったが、H24年度は149名と激減した。中学校の生徒、保護者の中にはフューチャースクールのことがきちんと浸透しておらず、次年度より実施されるので、受験を希望しないという声も周りからあがっている。

北谷高校だから反対ということではなく、どこの学校であったとしても、不登校経験者・発達障がいのある生徒たちを集めるというフューチャースクール自体に反対する。

既にいくつもの学校に不登校経験者・発達障がいのある生徒が入学しているが、このような生徒を一堂に会して、クラス運営が成立するとは思えない。5名もいれば、担任は電話連絡・家庭訪問・面談等で授業どころではなくなる。その上、生徒の個性や可能性を引き出すために、多様な選択科目を実施していく。一体、生徒数に対してどれくらいの割合の教員数を配置すれば、この学校を運営していけるのかも出さないまま、フューチャースクールに歩を進めることは不可能である。

「北谷町内の子供たちが町外の学校へ通うための通学費」、「町外からフューチャースクールに通わせるための通学費」はすべて保護者が負担しなければならなくなることも見過ごせない。

「学びなおしの教育課程」、「中退者を受け入れ表明」が相関し合い、学校が取り返しのつかないほどの悪い方向へ転がっていかないか怖い。

県外の例では、不登校経験者が登校できるようになるなど、落ち着いた学習環境を維持しており、本県としてもそのような学校を目指していきたいと考えます。

そのためには、教員や地域が深く理解しなければならないことが最も重要なことであると考えますので研修の機会を増やし、県外の先進校の視察等も実施するなど理解と知識の共有を図ることが最も重要であると考えます。

不登校経験のある生徒と発達障害のある生徒の追跡進路調査の結果では県全体として、不登校経験のある生徒の進学予定者のついて、当初進学予定であった者409人のうち予定どおり進学した者は291人であり、その割合は71.2%であり、残り約30%の者は進学を断念しているものと思われます。

発達障害のある生徒の進学予定者のついて、当初進学予定であった者206人のうち予定どおり進学した者は176人であり、その割合は85.4%であり、残り約15%の者は進学を断念しているものと思われます。

この結果から、この様な生徒に対しての就学機会の拡大は必要になるものと考えます。

104 P13

(1) フューチャースクール (FUTURE SCHOOL)

【懸念事項】

①なぜ改編が必要な学校の選定基準にない北谷高校を改編するのか。

フューチャースクールは多様な学習ニーズに対応できる「学び直

<p>北谷高等学校</p>	<p>②一般募集2クラスも「学び直し」カリキュラムとなるのか。</p> <p>【意見】 学校に足が向かない生徒の居場所・学習権の保障 県はフューチャースクールの設置理由を「現在の全日制高校では不登校経験者や発達障害のある生徒への対応は不十分であるため」としています。もしも教職員の知識不足で「対応が不十分」であるならば、専門知識や学習環境や授業のユニバーサルデザイン化の研修が必要であり、生徒と向き合う時間が確保できずに「対応が不十分」であるならば加配など人的配置の充実を行うべきではないでしょうか。</p> <p>また、集中募集することで「同一集団として対応が十分にできる」としています。生徒たちの望む居場所が「同一集団」であるのなら、そのような新たな学校が必要かも知れません。しかし、心因性や発達障害のある生徒たちが集められ、3年間穏やかに過ごせたとしても、卒業後、彼らが出て行く社会では混ざり合って生きていかなければなりません。また、教育庁が同時に提案している特別支援学校編成整備実施計画には「より身近な地域で就学することにより、地域の生徒という意識が深まり、地域の理解や支援が受けやすく、障害に対する理解が進むようになります」とあり、これとの整合性がありません。障害の種類や程度は違っていても「特別に支援・配慮」が必要な生徒にはわかりありません。地域の学校で、まわりの生徒や教職員の理解を深めながら共に育ち合う学校こそが、インクルーシブな社会の実現にとって大事ではないでしょうか。</p>	<p>し」を具現化する学校として、編成整備計画に位置づけております。</p> <p>今後は、中部フューチャースクール（仮称）、南部フューチャースクール（仮称）として、学び直しに特化した学校を検討してまいります。</p> <p>現在、不登校経験者や発達障害の生徒は各高校に入学しており、各学校で対応しておりますが、各高等学校において十分な対応ができていない生徒もいると考えます。</p> <p>これらの生徒に特化した学校を作ること、その対応や支援のあり方に共通した意識をもって、全職員が対応できること。</p> <p>また、成果や支援の方法について、他の県立高校へのフィードバックができること。</p> <p>等と考えます。</p> <p>学び直しの学校については、何らかの理由により学校を不登校あるいは中途退学した生徒等を対象にしており、心因性による不登校や発達障害のある生徒についてのみ対象とした学校ではありません。</p> <p>教育委員会としましては、人的配置等の支援により学校の活性化を図るとともに、学び直しに特化した学校としての教育課程の整備や施設の充実を図らなければならないと考えます。</p>
<p>105 P13 (1) フューチャースクール (FUTURE SCHOOL) 北谷高等学校</p>	<p>発達障がいのある生徒、不登校経験者への支援は必要であると思われるが、沖縄県立学校編成整備計画で打ち出しているフューチャースクールへの編成で教育効果があるのかは疑問である。</p> <p>特別支援学校編成整備実施計画には、障がいのある生徒を地域の学校に就学させることで、地域の理解や支援が受けやすくなるとある。北谷高等学校のフューチャースクール再編計画では、障がいのある生徒を全県枠で</p>	<p>現在、不登校経験者や発達障害の生徒は各高校に入学しており、各学校で対応しておりますが、各高等学校において十分な対応ができていない生徒もいると考えます。</p> <p>これらの生徒に特化した学校を作ること、その対応や支援のあり方に共通した意識をもって、全職員が対応できること。</p> <p>また、成果や支援の方法について、他の県立高校へのフィードバック</p>

		<p>募集するとあり、障がいのある生徒は地域の学校に就学させることがよいとする上記の件と矛盾する。</p> <p>フューチャースクールの設置理由が「現在の全日制高校では不登校経験者や発達障害のある生徒への対応が不十分であるため」なら、生徒と関わる時間を確保できる制度を作ること、各学校に発達障がいやカウンセリングについての高度な知識と技術を持った教員を常時配置することが必要であると思われる。そして、チームティーチングで授業や学級経営を行う方が教育効果が高いと思われる。</p>	<p>クができること等と考えます。</p> <p>学び直しの学校については、何らかの理由により学校を不登校あるいは中途退学した生徒等を対象にしており、心因性による不登校や発達障害のある生徒についてのみ対象とした学校ではありません。</p> <p>教育委員会としましては、人的配置等の支援により学校の活性化を図るとともに、学び直しに特化した学校としての教育課程の整備や施設の充実を図らなければならないと考えます。</p>
106	P13 (1) フューチャースクール (FUTURE SCHOOL) 南部工業高校跡地	<p>南部地区にフューチャースクールは必要だと考えています。ここ数年、豊見城南高等学校の応募状況が低下している状況が続いています。それに対して、本校や周辺の実業高校の希望生徒数が上回っている現実があります。そこで、本校と工業高校はそのまま、豊見城南高等学校をフューチャースクールに再編することを提案します。</p>	<p>フューチャースクールは多様な学習ニーズに対応できる「学び直し」を具現化する学校として、編成整備計画に位置づけております。</p> <p>今後は、中部フューチャースクール（仮称）、南部フューチャースクール（仮称）として、学び直しに特化した学校を検討してまいります。</p> <p>南部フューチャースクール（仮称）については、南部工業高校跡地に設置することを計画しております。</p>
107	P13 (1) フューチャースクール (FUTURE SCHOOL) 南部工業高校跡地	<p>【懸念事項】</p> <p>①かなり交通の便が悪い場所にあるが、生徒は集まるか。</p> <p>②全県募集枠（不登校経験者・発達障害）の生徒のみで社会性を育めるか。</p>	<p>何らかの理由で学校への不適應を起こしている生徒や、中途退学その他で高等学校をいったん離れた者に再挑戦のチャンスを用意することは、今後の教育の機会拡大になるものと考えます。</p> <p>フューチャースクールは多様な学習ニーズに対応できる「学び直し」を具現化する学校として、編成整備計画に位置づけております。</p> <p>今後は、中部フューチャースクール（仮称）、南部フューチャースクール（仮称）として、学び直しに特化した学校を検討してまいります。</p>
108	P15～P16		

(2) 定時制課程再編
那覇工業高等学校

私は那覇工業高校グラフィックアーツ科の生徒です。

私は那覇工業の定時制（三部制）に反対です。

実際に那覇工業に通って勉強している生徒として、三部制は適切な制度とは思いません。

県教育庁はうわべだけを見て（中退率などのデータ上の数字だけを見て）いるとしか思えません。

那覇工業は各科の特色を生かし、機械科はものづくりコンテスト、自動車科はエコデンカーで二連覇を成し遂げ、グラフィックアーツ科は生徒で絵本を企画、制作、印刷、製本までを行い、沖縄県内の小中学校に配っています。（NHKにも取り上げられました）。ファッションデザイン科はファッションショーなど精力的に取り組んでいます。

この様に沖縄県内の技術者を育て、実績も多く、地域貢献を行っています。これ等の実績は過去から現在も続いています。

そしてこれ等が高い就職率を生み、県内外の企業を支え、私達の生活を支えているのです。その就職率の高さはNHKでも取り上げられもしました。

また、部活動が無くなるということで、いままでの功績や伝統を止め、これからも続くはずの部活生の未来を絶ってしまうのかと、怒りを感じます。

部活動で輝かしい功績を残したり、地域社会に貢献している部活生も大勢います。

写真部は沢山の賞を受賞しグランプリになった人もいます。

マルチアート部は漫画甲子園優勝やパソコン甲子園にも出場しています。

美術部は浦添市の壁画作成にも参加し地域に貢献しています。

その他にも大勢の部活生が活躍し日々努力しています。

また、中退率について、どこの学校にも「とりあえず進学する人」と「目標を持って勉学に励む人」がいます。私の通う那覇工業も同じでその両者が入学してくると思います。しかし、那覇工業は進学校に比べると学力のレベルは高くありません。そのため、とりあえず高校に行こうと考え

創立45年の歴史のある学校として、特色ある学科の実績や部活動の活躍についても特筆すべき学校であると考えております。

三部制については、現在の多様なライフスタイルや学習ニーズについて対応するものとして計画を策定しております。

また、ニーズ調査から9%の中学生が定時制課程を希望しており、その需要に対して現在の学級数及び定員では、ニーズに応えることが厳しいことが上げられます。

中途退学のデータについては、教育委員会としましては各学校及び県の教育活動の1つの指標として施策の策定や、学校への指導助言の参考としております。その際は、中途退学のデータも含め様々なデータを考慮しております。

中学生支援センター（仮称）については、中学生の遊び非行型の生徒を対象にしております。

本県中学生が占める刑法犯の割合の高さ等、近年の非行状況を見た場合、本県の若年者非行に対応することは喫緊の課題であり、その解決方法の一つとしてご提案させていただいております。

また、このことは中学校だけの問題として捉えるのではなく、将来高校生になる子どもたちに対する健全育成活動のモデルとして県全体として取り組む必要があると考えます。

る人が、進学校に比べて多くなるのは当然で、目標もなく中退する人が進学校に比べて多いのは仕方のないことです。

そもそも中退者の数字だけを見て学校の本質を見ようとしない県教育庁に問題がある。

一度受かった学校を中退してまで那覇工業に入学してくる生徒もいます。それだけ志がある人が那覇工業には大勢います。

三部制にすると那覇工業は、目標もなくとりあえず高校に行く生徒の通う、あってもなくても同じような学校に成り果ててしまいます。

三部制は青少年を救うような口ぶりですが、結局その場しのぎなのです。三部制は三年間で卒業可能と謳っていますが、短い時間で育てた技術も中途半端な未熟者を世に出すに過ぎません。

そもそも生活パターンの学習ニーズにこたえる必要もなく、たとえ那覇工業でなくても三部制自体必要ないと考えます。

各科が刺激しあって技術に磨きをかける一面がある我が高校から、三部制によって無くなってしまいう学科がでてしまうことは、専門技術者の減少を招き、学校だけでなく地域社会にとっても大きな損失になると考えます。全国的にも稀な学科がある那覇工業ならなおさらです。

長い歴史の中で、より優れた技術者として生徒を成長させるために組まれたカリキュラムも三部制によってぶち壊されます。そこまでして定時を再編する必要性を一切感じません。

そして、三部制は卒業生（卒業後那覇工業の職員に成った生徒もいます）や今まで指導してくださった特別講師（本職の方々）との連携を絶つ可能性が高いと考えます。廃科がおこればなおさらです。

中学生支援センターについても意見があります。まず、私は不登校経験者です。

私は、一年生の時に中学校にいかなくなりました。しかしその後中学校内のカウンセリング教室に通うようになり、三年生に進級する時には普通の学級に復帰することができました。

学力の差も一年間で大体埋めることができました。私はこの経験から、わざわざ那覇工業に中学生支援センターをつくらずとも、各中学校しだい

P15
中学生支援センター（仮称）

		で十分対応することができると思います。	
109	P15～P16 (2) 定時制課程再編 那覇工業高等学校	<p>1 全日制を廃止し、定時制独立校とありますが、安易な編成計画案は現場の調査、例えば泊高校を含む全国の通信制の高校の現状など私が見る限りの中では温度差があると思います。</p> <p>2 那覇工業に向けられるのは反対です。それは、那覇工業が専門性の学科であり総合的なニーズというだけの観点で専門工業学校を全日制から廃止することは未来に責任の無い行き当たりばったりの考えにすぎない大人のエゴだと私は痛感します。</p> <p>現場の先生方、又、生徒を含め父兄の事を考えずに不登校経験者、転編入学者など課題を抱えているとありますが(新聞記事)本当に心の底からそうだと思いますか？</p> <p>私は、今こそ社会が、又、教育の現場ではなく家庭に一番問題があり、私達が小さな頃こういった問題又論議が交わされましたか？すべては家庭のしつけが子供を育てるのですよね。</p> <p>いずれにしても、県内では泊高校をモデルとし、先生方の待遇も良くしてよりよい教育の場を父兄でつくるのが先決です。子供も宝ですが教育者も宝です。教育庁は今こそ父兄に本音をぶつけてください。</p>	<p>三部制については、現在の多様なライフスタイルや学習ニーズについて対応するものとして計画を策定しております。</p> <p>今後は、那覇工業高校の定時制課程を再編し、午前部、昼間部、夜間部の定時制として計画してまいります。</p> <p>また、ニーズ調査から9%の中学生が定時制課程を希望しており、その需要に対して現在の学級数及び定員では、ニーズに応えることが厳しいことが上げられます。</p>
110	P16 (2) 定時制課程再編 那覇工業高等学校 P15 中学生支援センター(仮称)	<p>那覇工業高校定時制三部制について、教育課程の設定、人員配置などが複雑になり、職員が対応するのが困難と思われる。</p> <p>中学生支援センターのあり方や人員配置、カリキュラムなど具体的な方策が見えない。</p>	<p>三部制については、現在の多様なライフスタイルや学習ニーズについて対応するものとして計画を策定しております。</p> <p>今後は、那覇工業高校の定時制課程を再編し、午前部、昼間部、夜間部の定時制として計画してまいります。</p> <p>中学生支援センター(仮称)については、各市町村教育委員会の青少年センターやそれに類する施設の設置基準に合わせた運営を模索しております。</p> <p>遊び非行型不登校の生徒に対して、体験的な学習を中心に取り組むことにより、成就感や達成感、自己肯定感を培うことで、中学校への</p>

			<p>回帰や、高等学校進学への意欲を感じさせたいと考えております。</p> <p>また、希望する者には英数国理社の基礎的な学習も行うことで基礎学力の向上も図りたいと考えます。</p> <p>教員等の人員配置については、今後準備期間において各関係機関等と調整を行い、決定してまいりたいと考えます。</p>
111	<p>P16</p> <p>(2) 定時制課程再編 那覇工業高等学校</p> <p>P15 中学生支援センター（仮称）</p>	<p>私は4人の子供がいます。4人とも那覇工業を出てます。母子家庭ですが、中学の時に不良になるか心配でしたが、上の子が（あまり成績はよくないけど）頑張ってくれて上の兄弟を見て下の兄弟たちも同じ高校に入ってくれて部活もがんばっていい高校生活をしてくれたと思います。全日の学校生活ができて部活もできたから良かったと思います。三部制にしてしまったら部活もできない。それで良い高校生活ができるとは思いません。なんの思いでもできるとは思いません。それではただ学校にいつて4時間の授業を受けた帰るただそれだけ。これでは子供達の健全育成にはならないと思います。とにかく私はこの計画には反対です。</p> <p>中学生の不登校は家庭の問題だと思います。父母が腹をわってその子と話をもつ。学校の先生と父母がたがいによく話をしてその道をただしていくのがお父さん、お母さんの1つの仕事だと思います。それができないといつまでたっても解決しないと思います。</p>	<p>三部制については、現在の多様なライフスタイルや学習ニーズについて対応するものとして計画を策定しております。</p> <p>ご意見のとおり、中学生の遊び非行型の不登校の問題は一義的には家庭の役割であると考えます。</p> <p>家庭以外の役割としては、学校や地域が支援できる体制を整えることが必要であると考えます。</p> <p>本県中学生が占める刑法犯の割合の高さ等、近年の非行状況を見た場合、本県の若年者非行に対応することは喫緊の課題であり、その解決方法の一つとしてご提案させていただいております。</p>
112	<p>P16</p> <p>(2) 定時制課程再編 那覇工業高等学校</p>	<p>○まず始めに学校名称が『那覇工業高校』であるにもかかわらず定時制課程の図式では、午前の部に工業高校に関する家庭の科が無く専門性がなくなっている様な感じがしてなりません。</p> <p>それぞれの部（午前、午後、夜間）が終了時に補修、資格取得や部活動等ができる時間が無いと聞いています。</p> <p>又、工業高校の専門科の実習等は、学年が上がるたびに3時間、4時間、時には6時間連続で行う授業等もあり、編成案の様な時間では生徒と先生に負担とやる気を損なうことになるのではないのでしょうか。</p>	<p>三部制については、現在の多様なライフスタイルや学習ニーズについて対応するものとして計画を策定しております。</p> <p>今後は、那覇工業高校の定時制課程を再編し、午前部、昼間部、夜間部の定時制として計画してまいります。</p> <p>中学生支援センター（仮称）については、各市町村教育委員会の青少年センターやそれに類する施設の設置基準に合わせた運営を模索しております。</p> <p>遊び非行型不登校の生徒に対して、体験的な学習を中心に取り組む</p>

P15 中学生支援センター（仮称）	<p>又、夜間部に設置しようとしている中学生支援センターは無謀だと思います。</p> <p>夜間部への生徒の通学に関して、学校の場所からして通学（往復）バスが必要になってくるかと思いますが……。定期的な家庭訪問等カウンセリング等……。それは、中学校の先生か、高校の先生かどちらになるのでしょうか？中学生支援センターの設置は高校に置くのではなく、中学校内かその市の教育委員会の中に置くのがベストだと思います。</p>	<p>ことにより、成就感や達成感、自己肯定感を培うことで、中学校への回帰や、高等学校進学への意欲を感じさせたいと考えております。</p> <p>また、希望する者には英数国理社の基礎的な学習も行うことで基礎学力の向上も図りたいと考えます。</p> <p>教員等の人員配置については、今後準備期間において各関係機関等と調整を行い、決定してまいりたいと考えます。</p>
113 P16 （2）定時制課程再編那覇工業高等学校	<p>○2/8の掲載された県立高校志願状況によると、全体で0.99倍の倍率である。</p> <p>那覇工業高校3部制にしたい理由の1つとして挙げられた、泊高校の過密化についてですが、午前部が△28人、夜間部が29人空きで±0である。つまり、那覇工業高校から全日制を廃止し、3部制にする理由は考えにくい数値と考える。一方、那覇工業高校では全日制は自動車科を筆頭に倍率は高く、全体でも1.13倍と35名がオーバーしている。定時制では35名の空きがある状況であるので、定時制課程の定員枠不足とは到底考えにくく、十分現状で対応できると思われる。</p> <p>○先日の説明会では中南部地区の中学生の9%（1300人）の生徒が定時制に行きたいとの説明があった記憶がある。しかし、現時点では定時制の定員には余裕があり、空き定員すら見られる。どのような調査で定時制の受け皿が不足しているとおっしゃっているのか疑問である。</p> <p>○那覇地区では首里東高校が150名以上の定員割れを起こしていることが問題である。陽明高校やその他いくつかの学校で30～50名の空き定員が見られる。そのような高校で学科編成や学校編成を工夫することができるのではなからうか？</p> <p>○2/14から自動車科では3級がリソバソ国家整備士の資格取得を目指し3年生が就職準備期間を返上し、114時間の指定講習および3/25の学科試験対策講習を行っていく（毎日9時～16時まで授業、その後は自習）この講習は出席率も80%以上が義務化されており、4回の学科試験も70点以</p>	<p>三部制については、現在の多様なライフスタイルや学習ニーズについて対応するものとして計画を策定しております。</p> <p>今後は、那覇工業高校の定時制課程を再編し、午前部、昼間部、夜間部の定時制として計画してまいります。</p> <p>定時制については、夜間部については空定員が見られますが、午前部や通信制については定員をオーバーしている状況があります。全日制高校へ行きたくても行けない生徒がいる可能性は否定できないと考えます。</p> <p>空定員のある全日制の学校については、ご指摘のとおり学科編成や教育課程の工夫により魅力ある学校づくりに努力することは勿論のことですが、都市地区の大規模校の適正規模化も必要になると考えます。</p>

上を合格としているので、ハードルは非常に高い講習である。

自動車科全職員が一丸となり、手分けし講習を行い、模擬試験や対策指導を行い、ようやく昨年度は94%の合格率(29名合格/31験)を達成できた。

このようにして全日制に通い、志のある生徒でさえこの講習をこなすのに苦勞し、職員も血のにじむ思いで工夫しながら講習を行っている。

それが、3部制にし既存の学科は残すと「簡単」におっしゃっているが、他の学校での選抜に漏れた生徒や非行少年の受け入れ先となる学校で、今まで通りの授業が成り立つわけがない。

- 教育委員会のHP内の第11回懇話会の議事録において、現在の全日制の7クラス分の生徒の行き場所も審議された様子だが、浦添工業と3部制の那覇工業に分散すると予想するとの内容である。自動車科の生徒の中には実家や知人、親戚が自動車整備関連の仕事をしており、その影響を受けて志を持って入学してきた生徒は多い。

数少ない県内の自動車科で宜野湾市以南在住の生徒は那覇工業高校自動車科に受験する。3部制になると、厳しい生徒の集まる学校になることが十分に予想され、志を持った生徒が入学したいと思う学校ではたしてあるだろうか？保護者は自分の子を行かせたい学校と思うだろうか？非常に疑問に思う。

- 3部制の学校にした場合、実習上の制限がかなり出てくると予想される。

例えば、現在でも自動車科各実習においてエンジンや実習車両の分解・点検・整備・組立を数週間かけて一連の作業を行う。よって、作業を中断し、翌週へ持ち越すことも多い。その中で、昼間部と夜間部で同じ実習場を活用するとなると、上記理由も含めて非常にやりづらい状況が十分予想される。(他科の実習においても同じことがありえると考えられる)

そのことから工業高校では「実習場や備品、実習器具などの確保」の問題も十分起こりうることから、工業高校(実業高校)での3部制の取り組みは非常に難しいと考える。

(2) 定時制課程再編那
覇工業高等学校

全日制を3部制の定時制に変えることにより、これまでの活動がないがしろになり、産業人の育成が不可能になるのではないかと非常に危惧されることを以下に述べる。

一、3部制では放課後を確保することや、放課後の部活動などの場所を確保することが不可能である。

二、本校においては、卒業後の就職や進学に役立つよう国家資格をはじめとする各種検定取得やモノづくりを通した産業人の育成という活動が不可能となる。

理由として、

1部から3部までの就業時間の切り替わりを考えると、各々10分～15分程度になると考えられ、そのため各々の放課後またはモノづくりなどは放課後を利用して行われており、その活動ができなくなってしまう。

前述の国家資格や各種検定試験またはモノづくりなどは放課後を利用して行われており、その活動ができなくなってしまう。

三、勤務する職員も1部・2部又は2部・3部の掛け持ち授業を行うことになり、益々放課後の生徒指導が不可能といえる。

以上のことから3部制は専門高校よりも普通高校のほうがはるかに導入しやすいといえる。

3部制の問題について、約30年前に東京都で3部制の学校に通学していたという保護者のAさん(仮名)は、当時、通学する生徒のほとんどが、仕事をしながら高校に通学していた。

3部制の利点は、仕事のシフトに合わせて通学することが可能であるため、様々な職種で働くことができ、仕事の都合で通学時間を設定することができた。しかし、

①多くの生徒が入学してきたが、通学を続けるには様々な誘惑があり、卒業できるのはわずかな人数であった。

②通学方法について、東京では電車、バスなどが朝早くから夜遅くまで運行していたので遠方からも通学して来る生徒が見受けられたが、本県では

三部制については、現在の多様なライフスタイルや学習ニーズについて対応するものとして計画を策定しております。

今後は、那覇工業高校の定時制課程を再編し、午前部、昼間部、夜間部の定時制として計画してまいります。

	<p>それが可能だろうか。</p> <p>③その頃も色々なタイプの生徒がおり、その生徒達の相談相手は養護教諭が対応していたという。今はどうだろうか？相談できる職員が果たして常駐することができるのだろうか。</p> <p>④当時においても、生徒のことを掌握している職員がいなかったように思え、また生徒の側からもどんな先生がいるのかさえまったくわからなかったという。</p> <p>ということは、職員には1部から3部について、誰一人として全ての生徒を把握することができない、わからない状況になるのではないか。</p> <p>実際に3部制の学校を卒業したという方からの話からも問題があるといえる。</p>	
<p>115 P16</p> <p>(2) 定時制課程再編那覇工業高等学校</p>	<p>今回の那覇工業高校の定時制課程三部制再編計画について、次の通り懸念されることをお伝えします。現教育活動の意義を知って計画を再検討いただきたいと思います。よろしくお願いします。</p> <p>1 全日制工業科の必要性について</p> <p>学力で輪切りされ、不本意に入学してくる生徒もいるが、本校の各科の特徴（ものづくり・ロボット・エコデッカー等コンテスト、写真コンテスト、ファッションショー、各種検定及び資格試験）に魅力を感じ、希望してくる生徒もいる。また、不本意に入学した生徒も3年生になるころには、工業高校生としての知識を身につけ、実践に自信を持っている。実際に生徒の三年間を振り返る作文では、ほとんどが「最初いやだったけど、ここに来て本当に良かった」と書いている。私がこれまで経験した学校の中で、卒業後も職員室に顔を出す生徒が最も多い学校である。生徒のなかには、学力が少し弱い生徒もいるし、集中して話を聞くことが苦手な生徒もいるが、彼らは工業科目の中で能力を発揮している。こつこつと課題をこなし、実践を繰り返しながら職業につながっている。まさに彼らの居場所はここにあると気づかされることが多い。懸念されている不登校生徒の増加と彼らへの配慮だが、中学校で不登校だった生徒が工業に出会ってほ</p>	<p>三部制については、現在の多様なライフスタイルや学習ニーズについて対応するものとして計画を策定しております。</p> <p>今後は、那覇工業高校の定時制課程を再編し、午前部、昼間部、夜間部の定時制として計画してまいります。</p> <p>中学生支援センター（仮称）については、各市町村教育委員会の青少年センターやそれに類する施設の設置基準に合わせた運営を模索しております。</p> <p>遊び非行型不登校の生徒に対して、体験的な学習を中心に取り組むことにより、成就感や達成感、自己肯定感を培うことで、中学校への回帰や、高等学校進学への意欲を感じさせたいと考えております。</p> <p>また、希望する者には英数国理社の基礎的な学習も行うことで基礎学力の向上も図りたいと考えます。</p> <p>教員等の人員配置については、今後準備期間において各関係機関等と調整を行い、決定してまいりたいと考えます。</p>

<p>P15 中学生支援センター（仮称）</p>	<p>とんど登校している例も多く、職業のみえる専門教育の中で、生徒たちは学業への関心を高め動機付けられていることがわかる。</p> <p>2 三部制編成による弊害について</p> <p>①職員会議や委員会活動、各行事の運営、生徒の活動（部活動や生徒会活動、各種検定講座、その他生徒の自主的な活動）、個々の生徒に応じた生徒指導や教育相談およびケース会議の時間を確保することが難しい。</p> <p>②①の活動が停滞することで職員の生徒理解へのアプローチが弱くなるとともに生徒自身も活躍の場が失われ、自主性を育てる機会を失わせる。他の部からの履修が可能なので、クラスが常に変動し生徒把握が困難。</p> <p>3 中学生支援センターによる弊害について</p> <p>①遊び方非行の中学生を夜間、同じ場所に集めることに不安を感じる</p> <p>②異年齢の生徒たちの交流による対人スキルの習得は理想ではあるが、先輩後輩の縦社会からくる問題行動も多い。</p> <p>③非行から脱する機会と期待して希望してきた生徒も逆に新たな非行の機会にならないか。早い自立を強いられたための非行型生徒の場合、自尊感情を高めるまでに寄り添った教育活動によって、自立し社会に適應できるようになると思われる。責任を持って生徒に寄り添えるか、一時的な支援にならないか不安である。</p>	
<p>116 P16 （2）定時制課程再編 那覇工業高等学校</p>	<p>【懸念事項】</p> <p>①なぜ改編が必要な学校の選定基準にない那覇工業なのか示されていない。</p> <p>②これまで全日工業科を志望していたクラス分の入学希望者はどうなるのか。</p> <p>③県内で1科しかないGA科と服飾デザイン科で学びたい生徒は定時制（4年就学）になるのか。両学科の周辺校への移転か。</p> <p>④中学生支援センターのカリキュラムは高校が準備するのか。</p> <p>⑤3部制にしたときの教職員の勤務形態や部活など放課後活動ができなく</p>	<p>三部制については、現在の多様なライフスタイルや学習ニーズについて対応するものとして計画を策定しております。</p> <p>今後は、那覇工業高校の定時制課程を再編し、午前部、昼間部、夜間部の定時制として計画してまいります。</p> <p>中学生支援センター（仮称）については、各市町村教育委員会の青少年センターやそれに類する施設の設置基準に合わせた運営を模索しております。</p>

		なるなどの諸問題点をどう解決するのか。	遊び非行型不登校の生徒に対して、体験的な学習を中心に取り組むことにより、成就感や達成感、自己肯定感を培うことで、中学校への回帰や、高等学校進学への意欲を感じさせたいと考えております。 また、希望する者には英数国理社の基礎的な学習も行うことで基礎学力の向上も図りたいと考えます。 教員等の人員配置については、今後準備期間において各関係機関等と調整を行い、決定してまいりたいと考えます。
117	P17～P18 1 伊良部高等学校を宮古高等学校に統合	【懸念事項】 ①経済的に厳しい家庭が多いなか、宮古島へ通う交通費の負担増。 ②中高連携は解消されるのか	学校の再編等については、地域・保護者等の理解を得ることが最も重要であり、今後とも十分調整を図る必要があると考えます。 伊良部高校が廃校となれば、連携中学校との中高一貫教育は推進できなくなると考えます。
118	P19 2 陽明高等学校の介護福祉科の改編と真和志高等学校の介護福祉コースを学科に改編	【懸念事項】 ①陽明高校の介護福祉学科の魅力であった、「福祉系への高い進学率と就職率」を総合学科のコースになっても維持していけるか。 ②真和志高校（1クラス×3学年=120人）の実習カリキュラムに対応できるか（施設や教職員配置）	陽明高校の介護福祉科は、総合学科の系列となっても専門性は保持されるので、対応可能と考えます。 真和志高校の介護福祉コースにおいては、現在も県内唯一の介護福祉養成校として厚生労働省より認定を受け、資格取得に取り組んでいるところであり、学科改編に際しては教員の配置や施設設備の充実を検討する必要があると考えます。
119	P21 八重山商工高等学校定時制課程について	定数確保条件を削除し、定時制課程をフューチャースクール、リカレントスクールとして特別な扱いで教育課程の編成を認めてほしい。 理由 八重山地区の中学3年生から小学校1年生までの在籍数は、下記表の通りです。生徒数が年々減少していき、三高校全日制だけでも定員不足を来し	県教育委員会としましては、八重山商工高校定時制夜間部商業科の地域における存在意義については、ご指摘のとおりだと考えております。 しかし、学校の活性化や教育活動の充実に関しては、生徒数の増によるところが大であると考えます。

てしまう事が必至です。また、平成24年度高校入学志願者数を八重山三高校の志願者数を合計しても「66人」の不足が生じています。この八重山地区外への流出生徒については、毎年与那国町からはおよそ5割程度があります。石垣市内の中学校からも30～40人ほどの流出が毎年続いています。石垣市は減少傾向著しいが、竹富町は今後生徒数が微増傾向にあり、郡内に留められるよう地域として取り組みを進めなければならないと思います。

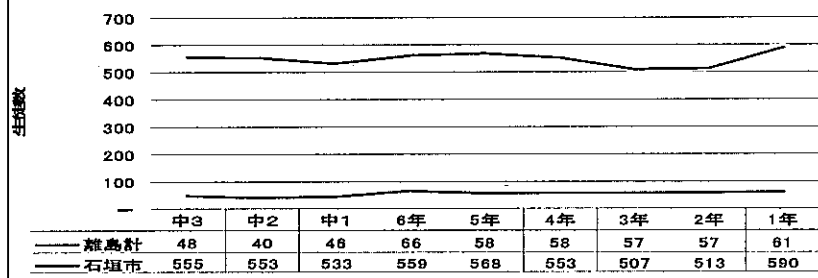
このような実状を踏まえて、定時制課程「過半数割れを2年連続したら3年目は募集停止する」という条件は、無理を承知で「廃課程」を暗示しているようなものです。

八重山地区説明会で八重商工定時制の生徒や保護者からの意見でありましたように、小・中学校で不登校にあった生徒や学習発達障害等を持っている生徒は、全日制課程を志願しても、実際の学習生活では目標に到達するには厳しいものがあります。八重山地区においては「泊高校通信制」があるのではないかとされるかもしれませんが、泊高校通信制は八重山三高校の全日制課程の教諭が兼務講師として指導しており、定時制のように寄り添った指導を時間をかけて行われるものではありません。通信制と定時制では、指導の仕方が違います。

八重山商工校定時制は、心因性や自閉症、高機能発達障害など多様な生徒を受け入れる学校として必要なものです。特別な配慮と定員40人という通常の全日制課程と同様に扱うものではないと思います。

今後は、地域に対してもその特色を活かした教育活動の啓発や中途退学者等の受け入れによる定員確保について検討しなければならないと考えます。

在籍生徒の推移



		石垣市	竹富町	与那国町	離島計	八重山群
中3学年	計	555	28	20	48	603
	男	277	18	9	27	304
	女	278	10	11	21	299
中2学年	計	553	23	17	40	593
	男	281	11	11	22	303
	女	272	12	6	18	290
中1学年	計	533	31	15	46	579
	男	245	12	9	21	266
	女	288	19	6	25	313
6学年	計	559	46	20	66	625
	男	306	26	12	38	344
	女	253	20	8	28	281
5学年	計	568	39	19	58	626
	男	301	15	10	25	326
	女	267	24	9	33	300
4学年	計	553	36	22	58	611
	男	274	18	8	26	300
	女	279	18	14	32	311
3学年	計	507	39	18	57	564
	男	289	25	8	33	322
	女	218	14	10	24	242
2学年	計	513	39	18	57	570
	男	267	23	10	33	300
	女	246	16	8	24	270
1学年	計	590	41	20	61	651
	男	291	19	9	28	319
	女	299	22	11	33	332

平成23年度学校基本調査に見る学年別生徒数

沖縄県教育委員会HPより（平成23年5月1日）

平成24年度県立高等学校入学者選抜

4 一般入学初回志願状況

学校	課 程	学 科	コー ス 等	学 級 数	定 員	一 般 定 員	特 別 募 集	総 数	総 数		空 定 員 数 (△は定 員オー バー)
									内	外	
八重 山	全	普通		6	240	187		181	53		6
八重 山農	全	熱帯 園芸		1	40	38		16	2		22
		畜産		1	40	40		8			32
		食品 製造		1	40	38		43	2		△5
		緑地 土木		1	40	39		28	1		4
		生活 科学		1	40	39		28	1		11
		計		5	200	192		128	8		64
八重 山商 工	全	機械 電気		1	40	35		43	5		△8
		機械			20	19		21	1		△2
		電気			20	16		22	4		△2
		情報 技術		1	40	40		34			6
		商業		2	80	71		66	9		5
		会計 シス			30	28		20	2		8

	テム									
	情報 ビジ ネス		30	27		28	3			△1
	観光		20	16		18	4			3
	小計		4	160	146		143	14		3
八商工 定	商業		1	40	40	2	10			30
八商工	計		5	200	186	2	153	14		33
八重山地区合計			16	640	565	2	462	75		103

〔中学3年在籍 603人〕－〔志願者計 537人（一般＋推薦）〕＝66人

120 P21
八重山商工高等学校定時
制課程について

【懸念事項】

- ①長期的な計画といいながら、2年連続定員割れ即募集停止になるのか。
- ②地域や学校が望む、「商業だけでなく工業なども取り入れた総合学科」が可能か？

学校の活性化や教育活動の充実に関しては、生徒数の増によるところが大きであると考えます。

長期的な計画に移動したことについては、地域に対して学校の特色を活かした教育活動の啓発や中途退学者等の受け入れによる定員確保等について注視していくことを示したものです。

121 その他

私たち高教組は編成整備計画について次のような運動方針ののっとり、子どもたちを中心にすえた教育の実現のため、保護者、地域と共に学校現場から声をあげていきます。これからも情報交換・協議など積極的に行っていきましょう。

【高教組 運動方針】

☆差別・選別の教育政策に反対し、高校三原則（男女共学・小学区制・総合性）の確立をめざし、地域総合選抜制を含め、沖縄の現状を踏まえた教育改革の合意形成に努めます。

☆学校間格差の拡大や地域の教育力の低下が懸念される通学区の拡大に反対し、学校現場の意見を反映させるようとりくみます

ご意見については、今後の参考とさせていただきます。